# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

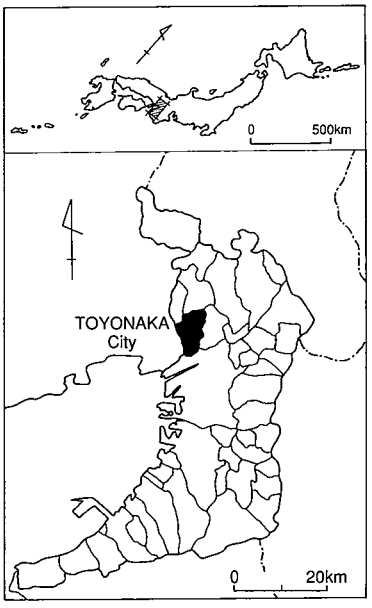
平成23年度（2011年度）

平成24年（2012年）3月

豊中市教育委員会

# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要

平成 23 年度（2011 年度）




平成 24 年（2012 年）3月

豊 中 市 教 育 委 員 会

# 序　文

豊中市は、大阪府の北西部に位置し、西は兵庫県と接しています。千里丘陵にかつて広大な森林を控えたこの地は、神崎川や猪名川から常に豊かな水がもたらされ、古くから人々の生活の場が育まれてきた結果、多くの歴史的遺産が受け継がれてきました。その一方、商都大阪に隣接する関係により、早くから大阪北郊のベッドタウンとしての開発が進められてきた結果、すみやかに埋蔵文化財の保護に取り組む必要がありました。近年になって開発の勢いは落ち着いてきたものの、土地利用の形態が変化してきたことを受けて小規模開発が急増し、住宅の老朽化に伴う建て替えも依然として多く、埋蔵文化財の保護について迅速な対応が求められています。

本書は郷土の文化財としての埋蔵文化財の重要性を踏まえ、国の補助を受けて実施した緊急発掘調査の概要報告です。平成23年度に調査を実施した新免遺跡、原田遺跡、ならびに各遺跡における確認調査に加え、平成22年度後期に実施した調査成果も掲載いたしました。新免遺跡では弥生時代後期、原田遺跡では中世の集落跡が確認され、穂積遺跡では中世の耕作関連の痕跡が検出されるなど、各遺跡において新たな知見が得られました。

永きにわたって受け継がれてきた貴重な歴史的遺産は、わたしたち現代に暮らす人間にとっても大切な知識をもたらしてくれます。本書が、郷土豊中の豊かな未来形成のために役立つことを願ってやみません。

調査の実施にあたっては、土地所有者、施工関係者、近隣の住民の皆様に、深いご理解と多大なご協力を賜りました。また文化庁、大阪府教育委員会ならびに関係諸機関には、格別のご指導とご配慮をいただきました。このような各方面の方々のお力添えにより、豊中市の文化財保護行政が推進できましたことを、ここに厚く感謝いたしますとともに、今後ともより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成24年（2012年）3月31日

豊中市教育委員会
教育長　山元行博

# 例　　言

1．本書は、平成23年度国庫補助事業（総額7,000,000円、国庫50%、市費50%）として計画、実施した埋蔵文化財の緊急発掘調査の概要報告書である。また平成22年度1～3月に国庫補助事業として実施した穂積遺跡第40次調査、原田遺跡第10次調査と確認調査の成果も併せて収録した。

2．平成22年度事業として、平成23年4月7日から平成24年3月31日までの間、発掘調査ならびに整理作業を実施した。

3．発掘調査は、本市教育委員会地域教育振興室文化財保護チームが実施した。

4．本書のうち、第Ⅰ～Ⅴ章は陣内が執筆した。また、第Ⅵ章は各調査担当者の見解をもとに、浅田が執筆した。なお、全体の編集を陣内が行なった。

5．各挿図に掲載した方位表記のうち、M.N.は磁北、また表記のないものは国土座標系（第Ⅵ系）に基づく座標北を示す。

6．挿図・本文中の土色表記の基準は、『新版標準土色帖2010年版』に基づく。

7．挿図に掲載した出土遺物の縮尺は原則1：3とする。

8．各調査地の土地所有者、施工業者ならびに近隣住民の方々には、文化財の保護に対して深いご理解とご協力をいただきました。併せてここに明記し、深謝いたします。

**本書掲載本発掘調査一覧**

| 遺跡名 | 次数 | 調査地 | 調査面積 | 担当者 | 調査期間 |
|---|---|---|---|---|---|
| 穂積遺跡 | 第40次 | 豊中市服部寿町1丁目702－9の一部 | 30㎡ | 陣内 高志 | 平成22年12月22日～平成23年1月14日 |
| 原田遺跡 | 第10次 | 豊中市原田元町2丁目190－2 | 13㎡ | 陣内 高志 | 平成23年3月16日～3月25日 |
| 原田遺跡 | 第11次<br>第12次 | 豊中市曽根西町4丁目204－1<br>豊中市曽根西町4丁目204－2 | 26.73㎡<br>27.72㎡ | 陣内 高志 | 平成23年11月14日～12月9日 |
| 新免遺跡 | 第64次 | 豊中市末広町2丁目213－3 | 144㎡ | 陣内 高志 | 平成23年8月29日～9月16日 |

# 目　次


第Ⅰ章　位置と環境　（陣内）

1．地理的環境 …… 1

2．歴史的環境 …… 1

第Ⅱ章　穂積遺跡第 40 次調査　（陣内）

1．調査の経緯 …… 5

2．調査の成果 …… 5

（1）遺跡の概要 …… 5

（2）基本層序 …… 6

（3）検出した遺構と遺物 …… 6

3．まとめ …… 10

第Ⅲ章　原田遺跡第 10 次調査　（陣内）

1．調査の経緯 …… 11

2．調査の成果 …… 11

（1）遺跡の概要 …… 11

（2）基本層序 …… 12

（3）検出した遺構と遺物 …… 13

3．まとめ …… 17

第Ⅳ章　原田遺跡第 11 次・12 次調査　（陣内）

1．調査の経緯 …… 18

2．調査の成果 …… 19

（1）原田遺跡の概要 …… 19

（2）基本層序 …… 19

（3）検出した遺構と遺物 …… 20

3．まとめ …… 23

第Ⅴ章　新免遺跡第 64 次調査　（陣内）

1．調査の経緯 …… 25

2．調査の成果 …… 26

（1）遺跡の概要 …… 26

（2）基本層序 …… 26

（3）検出した遺構と遺物 …… 26

3．まとめ …… 29

第Ⅳ章　確認調査の成果　（浅田）

確認調査の概要 …… 31

# 挿図・表目次


（第Ⅰ章　位置と環境）

第１図　市内遺跡分布図 …… 2
第２図　調査地点と周辺の地形 …… 4

（第Ⅱ章　穂積遺跡第 40 次調査）

第３図　調査範囲図（1：150） …… 5
第４図　調査地位置図（1：5,000） …… 5
第５図　調査区平面・断面図（1：40） …… 7
第６図　４層出土遺物（1：3） …… 8
第７図　５層出土遺物（1：3） …… 9
第８図　その他出土遺物（1：3） …… 9
第９図　穂積８次調査区平面図（1：250） …… 10

（第Ⅲ章　原田遺跡第 10 次調査）

第 10 図　調査範囲図（1：200） …… 11
第 11 図　調査地位置図（1：5,000） …… 11
第 12 図　第１トレンチ平面・断面図（1：25） …… 12
第 13 図　第２トレンチ平面・断面図（1：25） …… 13
第 14 図　第１・２トレンチ遺構配置図（1：50） …… 14
第 15 図　井戸平面・断面図（1：20） …… 15
第 16 図　ピット１平面・断面図（1：５） …… 16
第 17 図　出土遺物（1：３） …… 16

（第Ⅳ章　原田遺跡第 11・12 次調査）

第 18 図　調査範囲図（1：200） …… 18
第 19 図　調査地位置図（1：5,000） …… 18
第 20 図　第 11 次調査区平面・断面図（1：80） …… 19
第 21 図　第 12 次調査区平面・断面図（1：80） …… 20
第 22 図　第 11 次調査出土遺物（1：３） …… 20
第 23 図　第 12 次調査出土遺物（1：４） …… 22
第 24 図　原田村改正絵図より（明治 10 年 (1877)） …… 23

（第Ⅴ章　新免遺跡第 64 次調査）

第 25 図　調査範囲図（1：300）　25
第 26 図　調査地位置図（1：5,000）　25
第 27 図　調査区平面・断面図（1：80）　27
第 28 図　土坑 1 平面・断面図（1：20）　28
第 29 図　土坑 1 出土遺物（1：3）　28
第 30 図　土坑 2 出土遺物（1：3）　28
第 31 図　土坑 3 出土遺物（1：1）　29
第 32 図　土坑 4 遺物出土状況（1：20）　29
第 33 図　その他出土遺物（1：3）　29

（第Ⅵ章　確認調査の成果）

第 1 表　平成 23 年（2011 年）確認調査一覧表　31
第 34 図　確認調査地点位置図　32
第 35 図　トレンチ掘削状況　33
第 36 図　トレンチ断面図　33
第 37 図　トレンチ掘削状況　33
第 38 図　トレンチ断面図　33
第 39 図　トレンチ掘削状況　34
第 40 図　トレンチ断面図　34
第 41 図　トレンチ掘削状況　34
第 42 図　トレンチ断面図　34
第 43 図　トレンチ掘削状況　35
第 44 図　トレンチ断面図　35
第 45 図　トレンチ掘削状況　35
第 46 図　トレンチ断面図　35
第 47 図　トレンチ掘削状況　36
第 48 図　トレンチ断面図　36
第 49 図　トレンチ掘削状況　36
第 50 図　トレンチ断面図　36
第 51 図　トレンチ掘削状況　37
第 52 図　トレンチ断面図　37
第 53 図　トレンチ掘削状況　37
第 54 図　トレンチ断面図　37
第 55 図　トレンチ掘削状況　38
第 56 図　トレンチ平面・断面図　38

第 57 図　トレンチ掘削状況 …… 38
第 58 図　トレンチ断面図 …… 38
第 59 図　トレンチ掘削状況 …… 39
第 60 図　トレンチ断面図 …… 39
第 61 図　トレンチ掘削状況 …… 39
第 62 図　トレンチ断面図 …… 39
第 63 図　トレンチ掘削状況 …… 40
第 64 図　トレンチ断面図 …… 40
第 65 図　トレンチ掘削状況 …… 40
第 66 図　トレンチ断面図 …… 40
第 67 図　トレンチ掘削状況 …… 41
第 68 図　トレンチ断面図 …… 41
第 69 図　トレンチ掘削状況 …… 41
第 70 図　トレンチ断面図 …… 41
第 71 図　トレンチ掘削状況 …… 42
第 72 図　トレンチ断面図 …… 42
第 73 図　トレンチ掘削状況 …… 42
第 74 図　トレンチ断面図 …… 42
第 75 図　トレンチ掘削状況 …… 43
第 76 図　トレンチ平面・断面図 …… 43
第 77 図　トレンチ掘削状況 …… 43
第 78 図　トレンチ断面図 …… 43
第 79 図　トレンチ掘削状況 …… 44
第 80 図　トレンチ断面図 …… 44
第 81 図　トレンチ掘削状況 …… 44
第 82 図　トレンチ断面図 …… 44
第 83 図　トレンチ掘削状況 …… 45
第 84 図　トレンチ断面図 …… 45
第 85 図　トレンチ掘削状況 …… 45
第 86 図　トレンチ平面・断面図 …… 45
第 87 図　トレンチ掘削状況 …… 46
第 88 図　トレンチ断面図 …… 46
第 89 図　トレンチ掘削状況 …… 46
第 90 図　トレンチ断面図 …… 46
第 91 図　トレンチ掘削状況 …… 47
第 92 図　トレンチ断面図 …… 47

第 93 図　トレンチ掘削状況 …… 47
第 94 図　トレンチ断面図 …… 47
第 95 図　トレンチ掘削状況 …… 48
第 96 図　トレンチ断面図 …… 48
第 97 図　トレンチ掘削状況 …… 48
第 98 図　トレンチ断面図 …… 48
第 99 図　トレンチ掘削状況 …… 49
第 100 図　トレンチ断面図 …… 49
第 101 図　トレンチ掘削状況 …… 49
第 102 図　トレンチ断面図 …… 49
第 103 図　トレンチ掘削状況 …… 50
第 104 図　トレンチ平面・断面図 …… 50
第 105 図　トレンチ掘削状況 …… 50
第 106 図　トレンチ断面図 …… 50
第 107 図　トレンチ掘削状況 …… 51
第 108 図　トレンチ断面図 …… 51
第 109 図　トレンチ配置図 …… 51
第 110 図　トレンチ断面図 …… 51
第 111 図　トレンチ掘削状況 …… 52
第 112 図　トレンチ平面・断面図 …… 52
第 113 図　トレンチ掘削状況 …… 52
第 114 図　トレンチ断面図 …… 52
第 115 図　トレンチ掘削状況 …… 53
第 116 図　トレンチ断面図 …… 53
第 117 図　トレンチ掘削状況 …… 53
第 118 図　トレンチ断面図 …… 53

# 写真図版目次


図版１　穂積遺跡第 40 次調査

（１）４層上面検出状況（北から）
（２）４層上面完掘状況（北西から）

図版２　穂積遺跡第 40 次調査

（１）５層上面検出状況（北から）
（２）６層 ( 基盤層 ) 上面検出状況（南から）

図版３　穂積遺跡第 40 次調査

（１）基本層序（東壁面）
（２）基本層序（東壁面拡大）

図版４　穂積遺跡第 40 次調査

（１）穂積８次西トレンチ全景（南から）
（２）穂積８次中央トレンチ全景（南から）
（３）穂積８次東トレンチ全景（南から）
（４）穂積８次東トレンチ（拡大）

図版５　穂積遺跡第 40 次調査　出土遺物

（１）瓦器椀（４層出土）
（２）瓦器椀（４層出土）
（３）土師器皿（４層出土）
左：外面　右：内面
（４）その他出土遺物

図版６　原田遺跡第 10 次調査

（１）第１トレンチ遺構検出状況（南から）
（２）第２トレンチ遺構検出状況（東から）

図版７　原田遺跡第 10 次調査

（１）第１トレンチ　井戸断面（南から）
（２）第１トレンチ　井戸断面（箱尺付）

図版８　原田遺跡第 10 次調査

（１）第２トレンチ　ピット１遺物出土状況
（南東から）
（２）第２トレンチ　ピット２断面（北から）

図版９　原田遺跡第 10 次調査

（１）第２トレンチ　ピット３断面
（南東から）
（２）第１・２トレンチ完掘状況（東から）

図版 10　原田遺跡第 10 次調査　出土遺物

（１）井戸出土瓦（左：凹面・右：凸面）
（２）土師器皿（ピット１出土）
（３）土師器皿（ピット１出土）
（４）土師器皿（ピット２出土）
（５）瓦器椀（ピット２出土）

図版 11　原田遺跡第 11 次・12 次調査

（１）両調査区全景（北西から）
（２）第 11 次調査　全景（北東から）

図版 12　原田遺跡第 11 次・12 次調査

（１）第 11 次調査　拡張区掘削状況
（南西から）
（２）第 11 次調査　調査区掘削状況
（北東から）

図版 13　原田遺跡第 11 次・12 次調査

（１）第 12 次調査　全景（北東から）
（２）第 12 次調査　西壁面断面

図版 14　原田遺跡第 11 次・12 次調査

（1）第 12 次調査　杭検出状況（北から）
（2）第 12 次調査　杭部分拡大（北から）

図版 15　原田遺跡第 11 次・12 次調査出土遺物

（1）第 11 次調査出土遺物
（左：内面　右：外面）
（2）第 12 次調査出土遺物

図版 16　原田遺跡第 12 次調査　出土遺物

（1）第 12 次調査出土瓦
（左：凸面　右：凹面）
（2）第 12 次調査出土瓦
（3）第 12 次調査出土瓦
（4）第 12 次調査出土瓦

図版 17　新免遺跡第 64 次調査

（1）遺構検出状況（南から）
（2）遺構完掘状況（南から）

図版 18　新免遺跡第 64 次調査

（1）土坑 1 遺物出土状況（北から）
（2）土坑 4 遺物出土状況（南から）

図版 19　新免遺跡第 64 次調査

（1）溝 1 ～溝 7 完掘状況（東から）
（2）基本層序（北壁面）

図版 20　新免遺跡第 64 次調査　出土遺物

（1）出土遺物 1

図版 21　新免遺跡第 64 次調査　出土遺物

（1）出土遺物 2（土坑 3 出土石鏃）
（2）出土遺物 3（基盤層上面出土石鏃）

# 第Ⅰ章　位置と環境

## 1．地理的環境

豊中市は大阪市の北方に位置し、西は猪名川を介して兵庫県と接しており、旧国名では摂津国に属する。近世以前は大都市近郊の農村であったが、明治43年箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚線）開通を契機に宅地化が進み、現在では市域面積約37㎢中に39万人もの人口を擁する北摂最大の住宅都市へと発展している。ここに到った背景としては、大阪市近郊であることに加え、名神高速道路や阪神高速道路などの自動車専用道路や、阪急電鉄や北大阪急行、大阪モノレールによる電車網、さらには大阪国際空港に示される陸空交通による利便性の高さが挙げられよう。

一方、地形に目を転じると、豊中市は巨視的にみて北から南に向かって標高が徐々に低くなる穏やかな地形を呈しており、市内最高地点である島熊山（海抜約100ｍ）から最も低い大島町付近（海抜1ｍ以下）にかけての比高差はおよそ100ｍである。ここで地形的特徴を細かく区分していくと、おおよそ北部・中部・南部の三つに区分できる。北部は千里丘陵、刀根山丘陵、待兼山丘陵からなる。千里丘陵は大阪層群の模式地としてその名が知られている通りである。続いて中部は主に千里丘陵末端に形成された中・低位段丘を中心とした通称豊中台地、最後に南部は猪名川水系、天竺川、高川の沖積作用によって形成された平野部となる。

今回報告する第Ⅱ章穂積遺跡は南部の沖積地上、第Ⅲ・Ⅳ章の原田遺跡は豊中台地南西端部の低位段丘一帯、第Ⅴ章新免遺跡は中位段丘上にそれぞれ立地する。

## 2．歴史的環境

ここでは今回報告する遺跡の動向を中心に述べていく。

**穂積遺跡**　遺跡の出現は縄文時代に遡るが、本格的な集落の形成は弥生時代終末期を迎えてからであり、以後古墳時代初頭に至るまでは豊中南部地域における拠点集落として展開するようである。なかでも弥生時代終末期の集落からは連鋳式の銅鏃未成品が出土するなど、一般の集落ではみられない青銅製品の生産集落でもあった。その後、遺跡は古墳時代後期まで一旦衰退し、飛鳥時代以降は次第に耕地化が進むようである。鎌倉時代になると遺跡中央部と東端部にそれぞれ小規模な集落が営まれるように再編されていくようである。

今回の調査地は遺跡南端部付近に位置し、確認調査の所見等から古墳時代以降の遺跡縁辺部の様相を明らかにする成果が得られるものと期待された。

**原田遺跡**　段丘の末端に立地する原田遺跡は、遺跡の初現は弥生時代中期～後期とみられ、同後期末頃に一旦衰退するようである。その後11世紀末になると原田荘に関する史料が登場し、15世紀後半には原田氏の居館としての原田城が成立していたことがうかがえる。原田城には北城と南城が存在し、近年の発掘調査によって北城の成立は14世紀代、南城は16世紀代と考えられ、廃絶時期はともに16世紀末～17世紀初頭頃とみられている。

1. 太鼓塚古墳群
2. 野畑春日町古墳群
3. 野畑遺跡
4. 野畑春日町遺跡
5. 少路遺跡
6. 武蔵国岡部藩安部氏桜井谷陣屋跡
7. 桜井谷石器散布地
8. 羽鷹下池南遺跡
9. 待兼山古墳
10. 待兼山遺跡
11. 内田遺跡
12. 柴原遺跡
13. 北刀根山遺跡
14. 桜井谷窯跡群
15. 蛍池北（宮の前）遺跡
16. 蛍池東遺跡
17. 蛍池西遺跡
18. 蛍池遺跡
19. 麻田藩陣屋跡
20. 南刀根山遺跡
21. 御神山古墳
22. 上野遺跡
23. 青池古墳
24. 熊野田遺跡
25. 金寺山廃寺
26. 新免宮山古墳群
27. 金寺山廃寺塔刹柱礎石
28. 本町遺跡
29. 新免遺跡
30. 箕輪東遺跡
31. 箕輪遺跡
32. 山ノ上遺跡
33. 勝部北遺跡
34. 走井遺跡
35. 岡町北遺跡
36. 岡町遺跡
37. 岡町南遺跡
38. 桜塚古墳群
39. 下原窯跡群
40. 長興寺遺跡
41. 梅塚古墳
42. 埴輪散布地
43. 大坂城鉄砲奉行支配焔硝蔵跡
44. 原田西遺跡
45. 勝部遺跡
46. 勝部東遺跡
47. 原田城跡（北城）原田城跡（南城）
48. 原田遺跡
49. 曽根遺跡
50. 曽根東遺跡
51. 原田中町遺跡
52. 曽根埴輪窯跡
53. 豊島北遺跡
54. 曽根南遺跡
55. 城山遺跡
56. 服部遺跡
57. 若竹町遺跡
58. 石蓮寺廃寺
59. 石蓮寺遺跡
60. 寺内遺跡
61. 利倉北遺跡
62. 利倉遺跡
63. 利倉南遺跡
64. 利倉西遺跡
65. 椎堂の前遺跡
66. 服部西遺跡
67. 穂積遺跡
68. 穂積村囲堤
69. 小曽根遺跡
70. 春日大社南郷目代今西氏屋敷
71. 北条遺跡
72. 小曽根南遺跡
73. 上総国飯野藩保科氏浜陣屋跡
74. 上津島川床遺跡
75. 上津島遺跡
76. 上津島南遺跡
77. 穂積ポンプ場遺跡
78. 島田遺跡
79. 庄内遺跡
80. 島江遺跡
81. 庄本遺跡

**第１図　市内遺跡分布図**

今回の調査地は、第10次調査地が原田城の南城の外堀より内側であること、第11・12次調査地は原田城北城の北西端付近にあり、それぞれ原田城関連の遺構が検出されるものと期待された。

**新免遺跡**　弥生時代～古墳時代の集落遺跡として知られる新免遺跡は、弥生時代中期に勝部遺跡の分村として誕生した。豊中市域における動態としては、弥生時代中期に低地から台地上に進出する傾向がうかがえ、新免遺跡は千里川流域の好例といえる。

遺跡は2度の盛期があり、最初の弥生時代中期は多数の住居と方形周溝墓からなる拠点集落が形成される。続いての盛期は古墳時代中期後葉～後期前半であり、竪穴住居や掘立柱建物からなる居住地とともに遺跡南部一帯には古墳群(新免古墳群)が形成される。これらの背景として桜井谷窯跡群の操業開始があげられる。

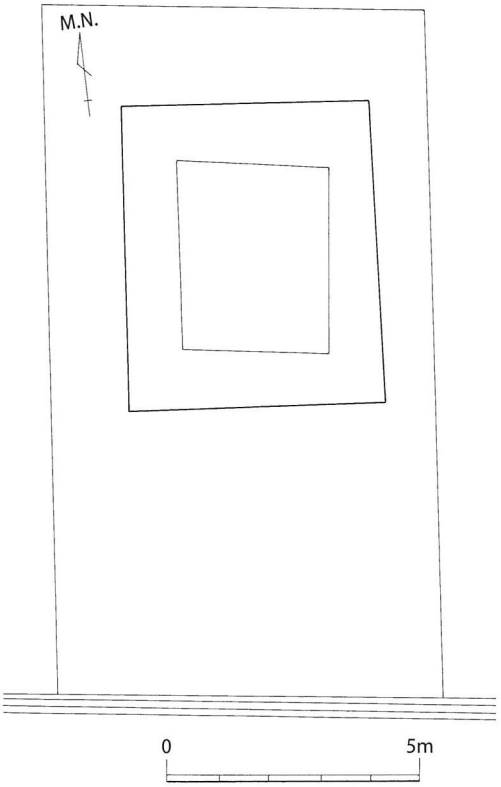
今回の調査地は遺跡の南部に位置し、一帯は新免古墳群であることから、古墳に関連する遺構・遺物の検出が予想された。

第２図　調査地点と周辺の地形

# 第Ⅱ章　穂積遺跡第 40 次調査

## 1．調査の経緯

調査地は豊中市服部寿町 1 丁目 702 － 9 の一部に所在する。平成 22 年 11 月 19 日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成 22 年 11 月 22 日に確認調査を実施したところ、地表下 130 ㎝のところで古墳周溝の可能性がある溝状遺構を検出した。申請地では地表下 4.5 m に達する柱状地盤改良工事を実施することになっており、遺構の破壊は免れないことが判明したため事業主側と協議の結果、本発掘調査を実施することになった。調査期間は平成 22 年 12 月 22 日～平成 23 年 1 月 14 日、調査面積は 30 ㎡とした。

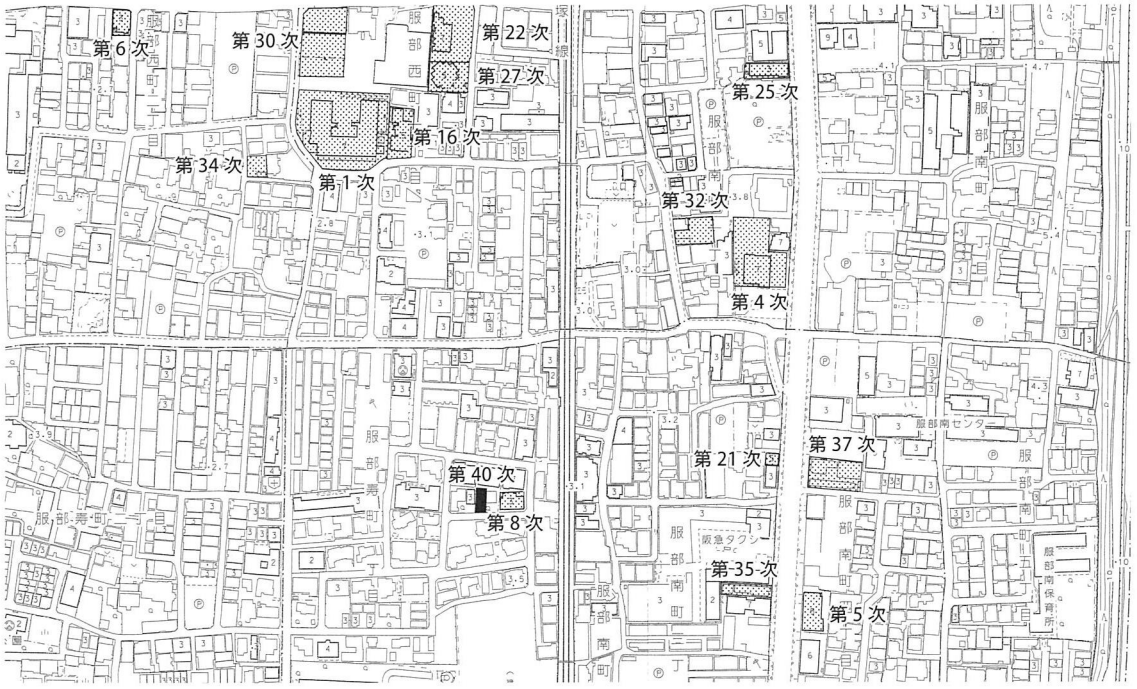



第３図　調査範囲図（1：150）

## 2．調査の成果

### ( 1 ) 遺跡の概要

穂積遺跡は豊中市南部、阪急宝塚線服部駅一帯に広がる遺跡で、その規模は東西 800 m、南北




第４図　調査地位置図（1：5,000）

500 mに及ぶものと考えられる。遺跡の発見は昭和初年に遡り、当時出土した弥生土器が「穂積式」と命名されたことから、学史的にもその名を残す遺跡である。

過去の調査成果によると、遺跡の形成は弥生時代後期以降本格化し、同終末期～古墳時代前期に盛期を迎えるようである。特に弥生時代終末期の集落では、その規模や遺構密度の高さ、他地域産の土器がみられることなどから当該地域における拠点集落的な様相がうかがえ、さらに銅製鏃生産の一端が明らかになるなど、周辺の集落とは隔絶した様相をみせる。古墳時代以降も、遺跡の盛衰はあるものの古代、中世、近世と各時代において遺構が確認されている。

今回の調査地は穂積遺跡の南端部に位置し、付近では既往の調査成果からすると弥生時代後期、古墳時代後期、平安～鎌倉時代の集落関連遺構が確認されている。

（2）基本層序

当該調査区は地表下約 140 cmで基盤層に達し、基本層序は以下の 6 層に大別できた。

1 層　現代の盛土。およそ 80 cmの層厚を有する。

2 層　緑灰色(5G6/1)シルト。宅地化直前段階までの耕作土とみられる。15 ～ 20 cmの層厚を有する。

3 層　明オリーブ灰色（2.5GY7/1）シルト～極細粒砂（その比 5:1 程度)。層厚 15 ～ 20 cm。2 層と 3 層の層理面は、北から南へ下がっており調査区南北端でおよそ 10 cmの高低差を有する。層中には中世～近世の陶磁器片等が含まれる。近世以降の形成とみられる。

4 層　褐灰色（10YR6/1）細粒砂～中粒砂。15 cm程度の層厚を有する。黒灰色シルトブロック（直径 3 cm以内）を少量含む。4 層とその上面（3 層）との層理面は、北から南へ下がっており、調査区南北端でおよそ 10 cmの高低差を有する。弥生時代後期～中世(瓦器椀・土師器小皿)の遺物包含層。基本層序中で最も遺物を多く含む。4 層上面では、中世の溝状遺構を検出している。

5 層　褐灰色（10YR5/1）極細粒砂～シルト。10 cm前後の層厚を有する。弥生時代後期～古墳時代終末期（飛鳥時代）の遺物包含層である。5 層は洪水等により堆積したとみられる。

6 層　黄橙色(10YR7/8)非常に粘性の強いシルト。基盤層である。調査区南半部は次第にグライ化(にぶい黄橙色～灰白色）していく。

今回の発掘調査では、4 ～ 6 の各層上面において遺構検出作業を行い、4 ～ 5 層は層中の出土遺物を可能な限り取り上げることにした。

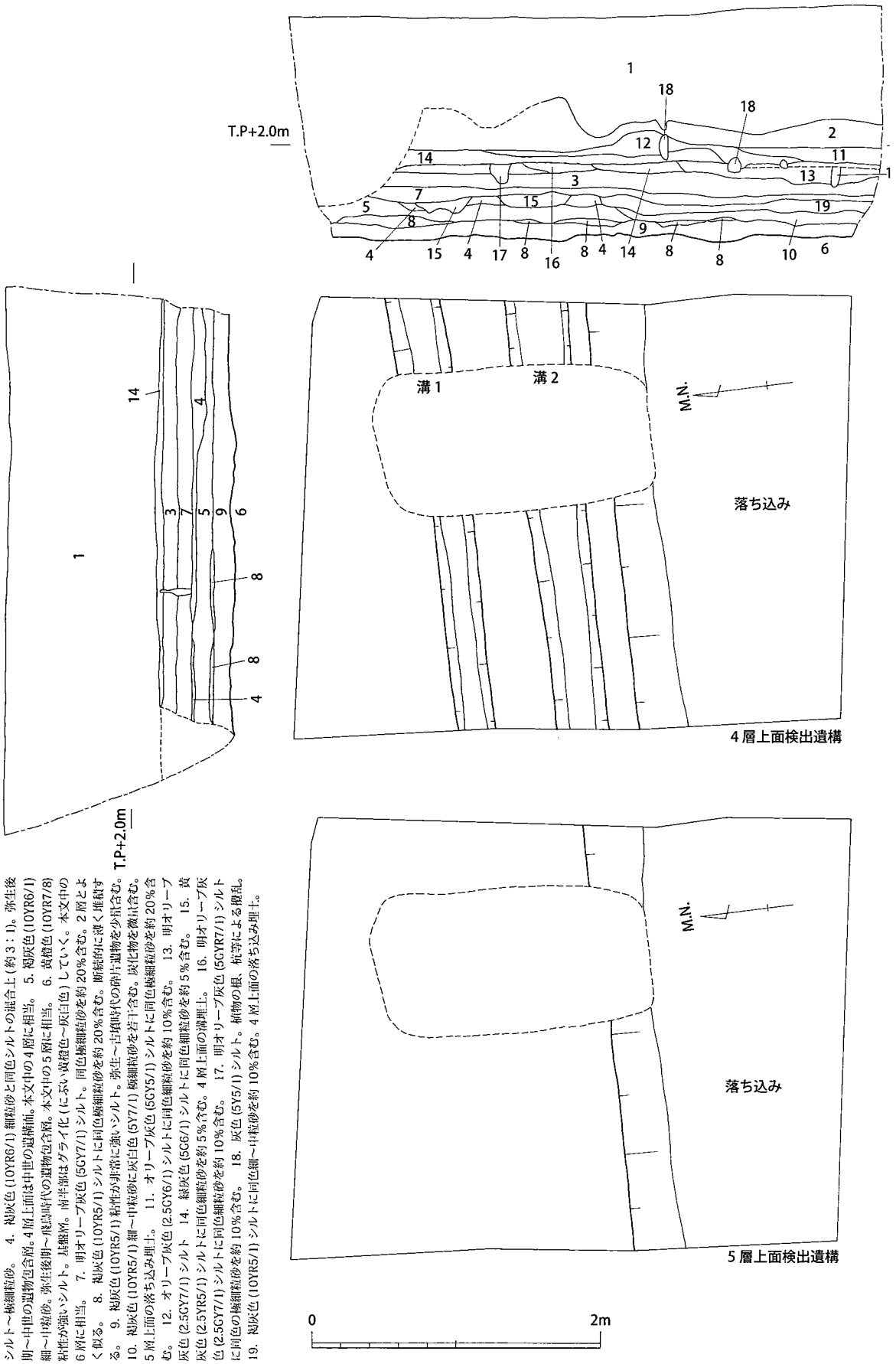
（3）検出した遺構と遺物

ここでは 4 ～ 6 層の各調査成果の報告を行う。

a. 4 層の調査

4 層上面では東西方向の溝状遺構を 2 条、南側へのゆるやかな落ち込みを検出した（第 5 図上段)。

溝状遺構は、検出幅は 30 ～ 40 cm、深度は 10 cm程度であった。溝の基底面はほぼ平坦かつ標高も一定であった。これらの溝は、埋土を観察する限り水路ではなく区画を目的として掘削されたものと考えられる。埋土中からは土師器の微細な破片を確認しただけにとどまるため、溝状遺構の詳細な時期は不明だが、出土遺物から当該遺構も中世段階に形成されたと考えられる。




1. 現代の盛土。　2. 褐灰色 (10YR4/1) シルト。旧耕作土。　3. 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) シルト～極細粒砂。　4. 褐灰色 (10YR6/1) 細粒砂と同色シルトの混合土 (約 3：1)。弥生後期～中世の遺物包含層。4 層上面は中世の遺構面。本文中の 4 層に相当。　5. 褐灰色 (10YR6/1) 細～中粒砂。弥生後期～飛鳥時代の遺物包含層。本文中の 5 層に相当。　6. 黄橙色 (10YR7/8) 粘性が強いシルト。基盤層。南半部はグライ化 (にぶい黄橙色～灰白色) していく。本文中の 6 層に相当。　7. 明オリーブ灰色 (5GY7/1) シルト。同色極細粒砂を約 20％含む。2 層とよく似る。　8. 褐灰色 (10YR5/1) 粘性が非常に強いシルト。弥生～古墳時代の破片遺物を少量含む。　9. 褐灰色 (10YR5/1) 細～中粒砂に灰白色 (5Y7/1) 極細粒砂を若干含む。炭化物を微量含む。5 層上面の落ち込み埋土。　11. オリーブ灰色 (5GY5/1) シルトに同色極細粒砂を約 20％含む。　12. オリーブ灰色 (2.5GY6/1) シルトに同色細粒砂を約 10％含む。　13. 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) シルト　14. 緑灰色 (5G6/1) シルトに同色細粒砂を約 5％含む。　15. 黄灰色 (2.5YR5/1) シルトに同色細粒砂を約 5％含む。4 層上面の溝埋土。　16. 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) シルトに同色細粒砂を約 10％含む。　17. 明オリーブ灰色 (5GYR7/1) シルトに同色の極細粒砂を約 10％含む。　18. 灰色 (5Y5/1) シルト。植物の根、杭等による攪乱。　19. 褐灰色 (10YR5/1) シルトに同色細～中粒砂を約 10％含む。4 層上面の落ち込み埋土。

**第 5 図　調査区平面・断面図（1：40）**

続いて南側へのゆるやかな落ち込みは、深度は 10 ㎝程度と浅く、基底面は平坦であった。埋土からは弥生土器～瓦器椀の出土遺物があり、大半の遺物は表面が磨滅しており、これらは北側から流入してきたような出土状況を示す。

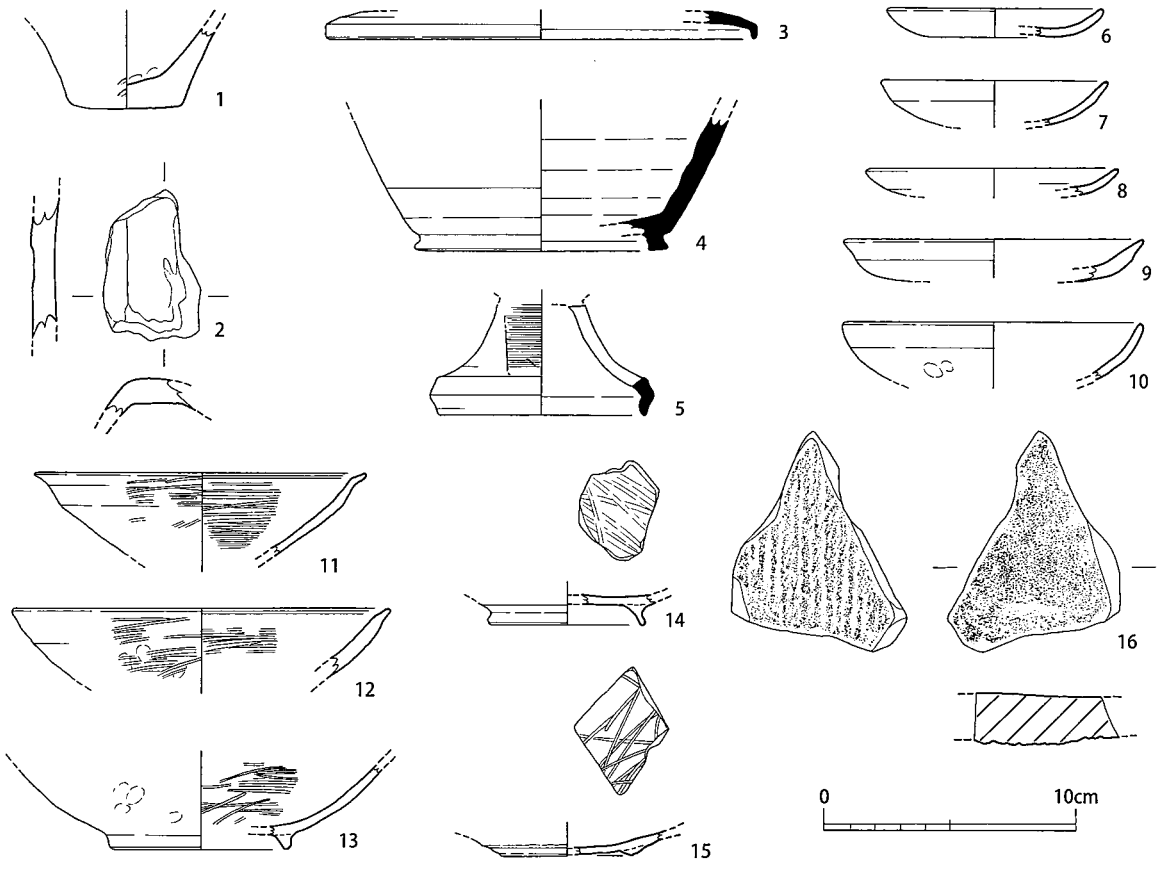
4 層中からは弥生土器・土師器・須恵器・瓦器椀など遺物収納箱にして 3 箱分の遺物が出土した。これらは直径 5 ㎝に満たない砕片で占められ、表面は摩滅しているものが大半であることから、すでに原位置を保っていない出土状況と考えられる。このような出土状況の背景として、当該地が耕作地で撹拌行為が幾度となく繰り返されたためとみられる。土層の観察により 4 層は自然的要因(洪水)による堆積とみられ、上面検出の遺構は出土遺物の検討から中世段階に形成されたと考えられる。

図化可能な遺物を第 6 図に掲載する。15 の瓦器椀は高台の形態、内面のミガキが疎らである点など、和泉型Ⅲ期の特徴を有する。6 ～ 10 は土師器皿、3･4 の須恵器はそれぞれ蓋、台付長頸壷である。他に凸面に縄目が確認できる瓦（16）、砕片であるが製塩土器（2）などが出土しており、時代は弥生時代～中世までと多岐にわたる。

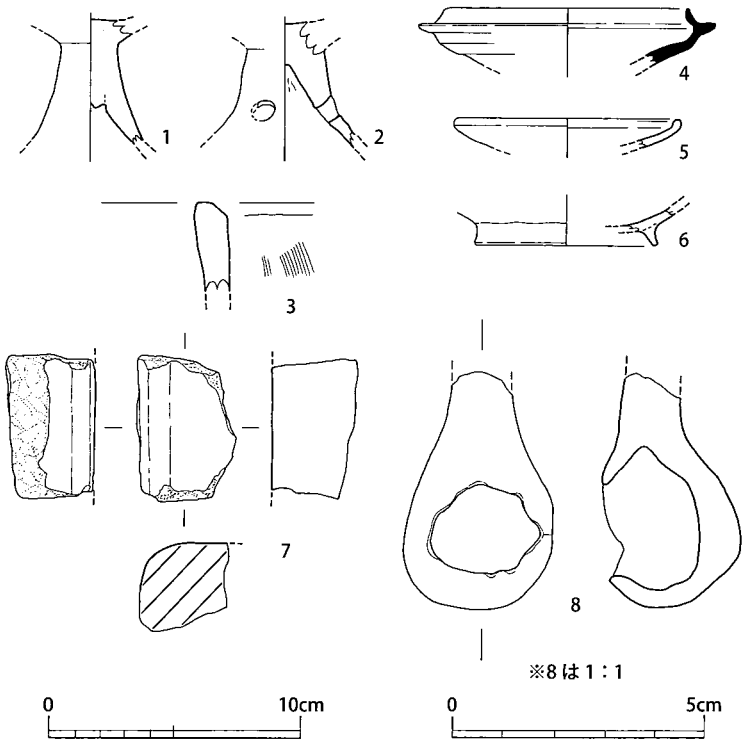
以上の所見より 4 層の形成は瓦器椀の特徴から 13 世紀代以降と考えられる。

b．5 層の調査

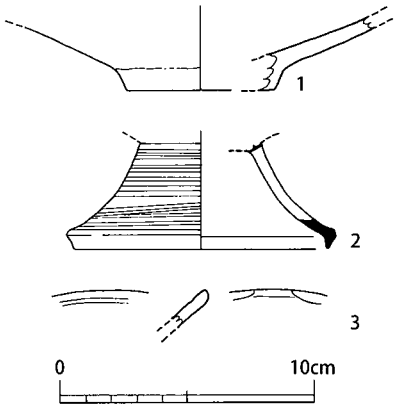
5 層上面も 4 層上面と同様のゆるやかな落ち込みを検出した（第 5 図下段）。検出幅 1.7m 以上、深度は 10 ㎝程度であった。落ち込みの形成に人為的な要因は認められず、5 層が堆積する過程で自然に形成されたようである。層中には弥生時代後期、古墳時代中期～後期、7 世紀代の遺物が含ま




**第6図　4層出土遺物（1：3）**




第７図　５層出土遺物（１：３）




第８図　その他出土遺物（１：３）

れることから、当該層は７世紀以降に形成されたとみられる。

落ち込みは確認調査時に得た通り、古墳周溝の可能性が考えられたが、もう一方の肩が調査区内で検出されず幅1.7m以上ということ正確な規模・形状は不明である。落ち込み直上からは弥生時代後期～７世紀代の遺物が時代に偏りなく出土しており、その中で古墳周溝の有力な目安になる埴輪片については確実にそれといえるものは確認できなかった。現段階では当該落ち込みが古墳周溝である可能性は低い。ただし、出土遺物中には微量ながら埴輪砕片の可能性があるものもみられ、今後周辺における確認調査には注意を要する。

第７図は５層出土遺物である。２は古墳時代中期の高杯、４は須恵器坏身などで、５層は古墳時代の遺物が多くみられた。他に製塩土器（3）、砥石（7）、土製品（8）も確認されている。８は柄部分が欠損しているが、もとはキセルに似た形が推定される。

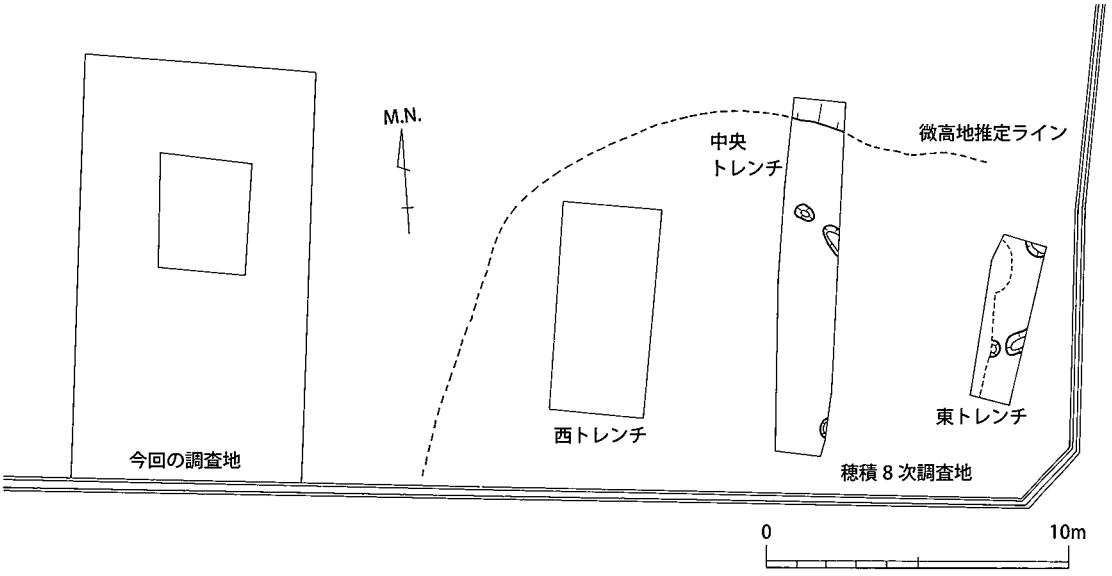
５層は洪水の影響による堆積土層であることを考慮すれば、調査地よりも北方に相応時期の集落が存在したが、洪水の結果、遺物の一部が当該土地に堆積したと考えられる。

ｃ．６層の調査

６層すなわち基盤層上面において遺構検出作業を行った結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。

ｄ．その他出土遺物（第８図）

ここでは１～３層出土の遺物を採りあげる。１～３層は出土遺物の観察から近世以降に堆積したとみられるが、微量ながら中世以前の遺物が確認された。１の弥生土器は壷形土器底部、２は須恵器短脚高杯の脚部片、３は縁釉がかかった皿と推定されるが砕片のため口径は復元できなかった。口縁部端部にわずかな凹部が２か所確認できる。




**第９図　穂積８次調査区平面図（１：250）**

## ３．まとめ

調査の結果、中世 (4 層上面 ) の耕作関連遺構を検出した。中世以前の様相については、5 層中から弥生時代後期～古墳時代中期、同後期、７世紀代の遺物が出土しているが、これらの遺物は主に北方から流れ込んできたものと考えたい。したがって、当調査地は、中世に耕作地として営まれるようになる以前は目立った土地利用はなかったと推察される。

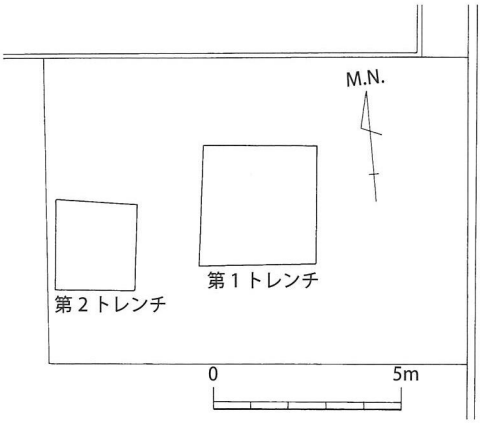
ここで、今回の調査地東隣で実施の第８次調査（平成元年 (1989) 1 月 20 日～ 31 日）についても若干触れておく。第９図は両調査区ともに基盤層上面における遺構の検出状況図であり、時期的には第８次調査成果から弥生～古墳時代の遺構面に相当することがうかがえる。今回の調査における 4 層～ 6 層 ( 基盤層 ) について、双方の基本層序を比較した結果、第８次調査区側のそれよりも各々 20 ～ 30 ㎝低いことが判明した。第８次調査地側の標高がわずかに高い。この背景としては、天竺川の堆積作用が想定でき、そのようにして形成された微高地上に弥生時代後期ならびに古墳時代の遺構が確認されている。ただし調査者は「穂積遺跡の中心とは思えず、南端付近にあたるものと推定」されており、遺跡の南端であるかはともかく少なくとも遺跡の縁辺部である点は理解できる。

さて、双方の調査成果をもとに微高地想定ラインを破線で示した。その結果、第８次調査中央トレンチ北端にみえる落ち込みラインが微高地 ( 居住域 ) の北限に相当し、そのラインの延長は破線が示すように第８次調査西トレンチと第 40 次調査区間を通ることが両調査区の土層断面図から想定されうる。但し微高地の詳細な範囲については、周辺一帯の調査データが希薄であるため今後も検討を要する。

# 第Ⅲ章　原田遺跡第 10 次調査

## 1．調査の経緯

当調査地は豊中市原田元町 2 丁目 190 － 2 に所在する。平成 22 年 12 月 24 日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成 23 年 2 月 25 日に確認調査を実施したところ、地表下 40 ㎝で基盤層を検出しその上面で遺構を確認した。今回、建築範囲の一部で予定されている表層地盤改良工事部分については遺構面の破壊は免れないことが判明したため、事業主側と協議の結果、本発掘調査を実施することになった。調査期間は平成 23 年 3 月 16 日～ 3 月 25 日、調査面積は 13 ㎡である。

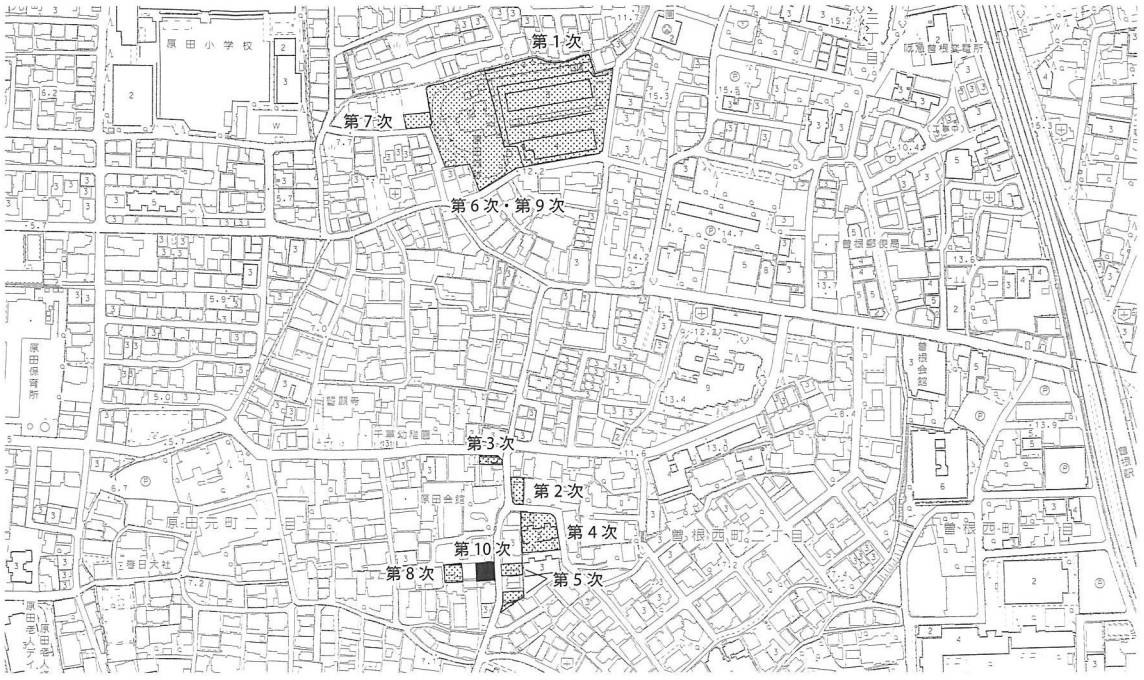



第 10 図　調査範囲図（1：200）

## 2．調査の成果

### （1）原田遺跡の概要

原田遺跡は通称豊中台地南西端部の一角に立地する集落遺跡である。過去の調査では弥生時代中期末～古墳時代前期の集落関連遺構の他、平安時代の大形掘立柱建物、土坑も検出されており、これは隣接する曽根遺跡との関連が注目される。当該遺跡は中世六車郷原田村に比定されており、中世の集落関連遺構も確認されている。



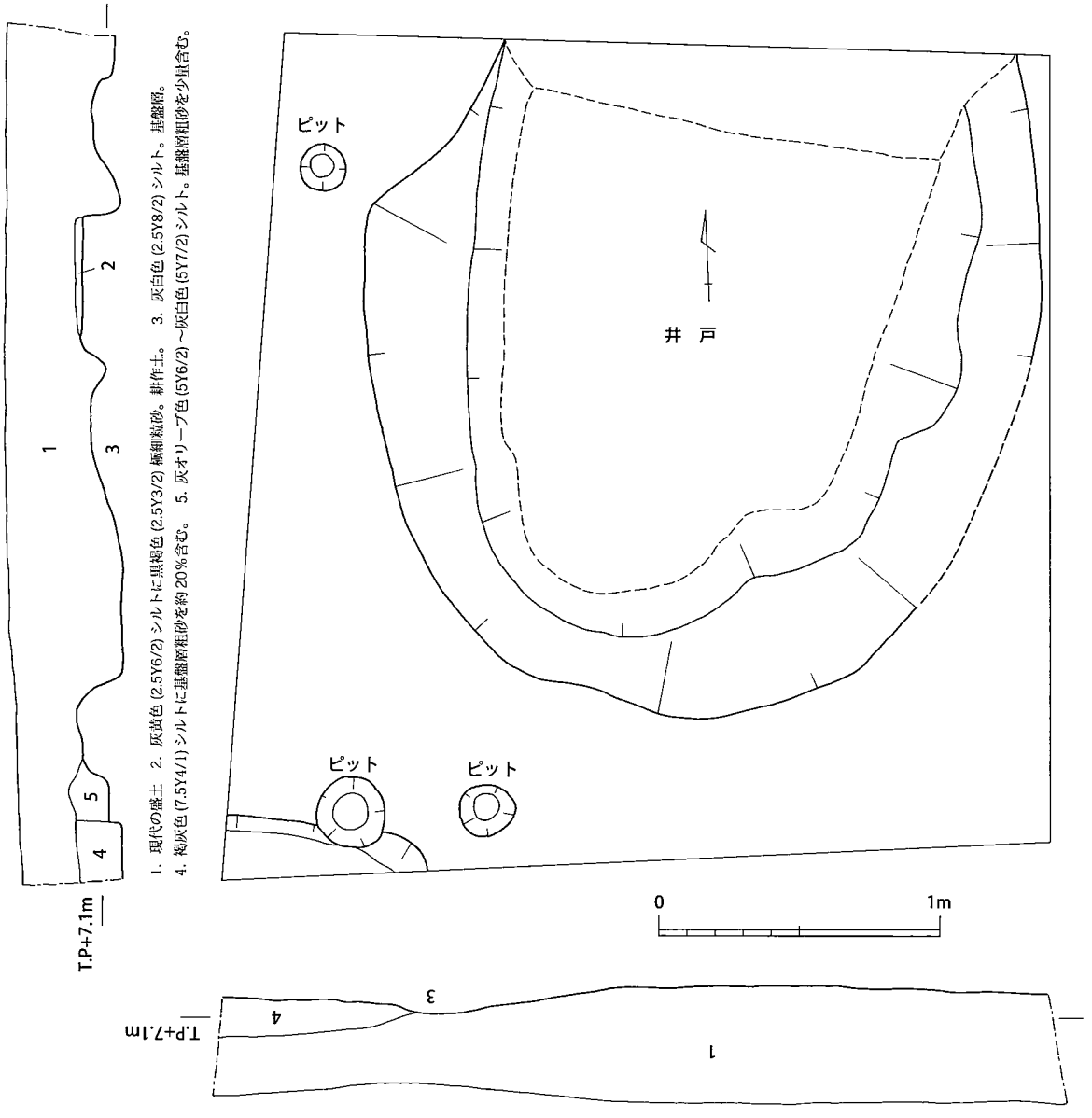

第 11 図　調査地位置図（1：5,000）

今回の調査地は中世城館「原田城（南城）」の一角にも該当する。この原田城は近世に編纂された地誌・地籍図の検討から南北の二城があったことが判明し、中世史料に登場する原田城がいずれを指すものであるかは判然としない。原田城跡（南城）は近世以降の史料、絵図に登場し、北城の南側に方形の堀が描かれている。平成 12 年度の原田遺跡第３・４次発掘調査で堀跡が確認され、これは原田村絵図及び地籍図記載の堀跡と一致し、同城の位置がほぼ確定した。16 世紀後半までには成立したようである。今回の調査地は南城の外堀に囲まれた範囲内に位置し、南城関連の遺構が存在する可能性がある。

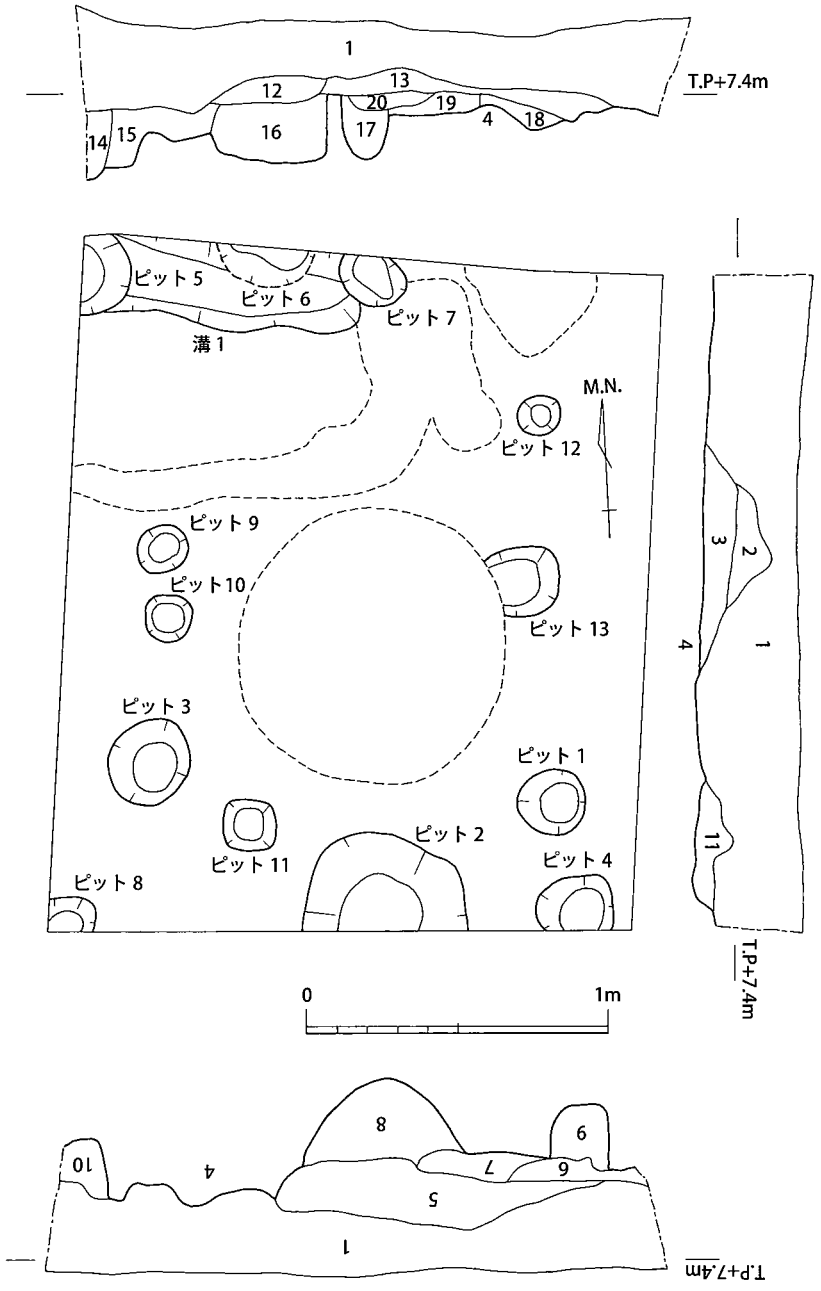
（２）基本層序

当調査地は地表下約 40 ㎝で遺構検出面（基盤層上面）に達し、基本層序は基盤層も含めて３層で構成される。各層の特徴は以下のとおりである。

第１層　旧建物の部材や基礎をも含む現代の盛土であり、地表下 20 ～ 30 ㎝堆積する。層中に中




第 12 図　第１トレンチ平面・断面図（1：25）




1. 現代の盛土。　2. 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト。耕作土。　3. 灰白色 (5YR7/2) 粗砂に礫 ( 直径 5mm 以下 ) を多く含む。　4. 灰白色 (5YR8/2) シルト。基盤層。　5. 灰黄色 (2.5YR6/2) シルトにピット 2 埋土を約 20 ～ 30％含む。　6. 灰黄色 (2.5YR6/2) シルトにピット 4 埋土、基盤層ブロックをそれぞれ約 20％、約 10％含む。　7. 灰黄褐色 (10YR5/2) シルトにピット 4 埋土・基盤層ブロックを各 20％程度含む。　8. 灰黄褐色 (10YR5/2) シルトに基盤層粗砂を約 20％含む。ピット 2 埋土。　9. 褐灰色 (10YR5/1 ～ 5/2) シルトに基盤層粗砂を約 40％含む。ピット 4 埋土。　10. 灰黄褐色 (10YR5/2) シルトに基盤層粗砂を約 30％含む。ピット 8 埋土。　11. 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト。耕作土？　12. 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 極細粒砂。基盤層シルトならびに礫 ( 直径～ 1 ㎝ ) を少量含む。　13. 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 極細粒砂。12 よりも基盤層シルト・礫を多く含む。　14. 灰黄色 (2.5Y6/2) シルト。灰褐色 (7.5YR4/2) シルト、灰黄褐色 (10YR5/2) シルトを各 20%程度含む。ピット 5 埋土。　15. 灰黄褐色 (10YR5/2) シルト。にぶい黄褐色 (10YR5/3) 極細粒砂を約 30% 含む。溝 1 埋土。16. 灰黄褐色 (10YR6/2) シルト。基盤層ブロック、灰褐色 (7.5YR4/2) シルトをそれぞれ 20%程度含む。ピット 6 埋土。　17. 灰黄褐色 (10YR4/2) シルト。灰黄褐色 (10YR6/2) 極細粒砂、基盤層シルトをそれぞれ約 30%含む。ピット 7 埋土。　18. にぶい黄褐色 (10YR4/3 ～ 5/3) シルト。基盤層シルトを少量含む。　19. にぶい黄色 (2.5Y6/3) シルト～明黄褐色 (2.5Y6/8) シルト。　20. 明オリーブ灰色 (2.5GY7/1) 極細粒砂～シルト。基盤層シルト・灰黄褐色 (10YR5/2) を各 20%程度含む。

**第 13 図　第 2 トレンチ平面・断面図（1：25）**

世段階の遺物包含層または遺構埋土とみられる土がブロック状に含まれており、これは攪乱を受ける以前に中世の遺物包含層が存在したことを示す状況とみられる。

第 2 層　灰黄色 (2.5Y 6/2) シルト～極細粒砂。第 1 層の影響で断続的にみられ、住宅地化直前段階までの耕作土とみられる。但し第 1 トレンチでは旧建物基礎の影響のためかほとんど残存していなかった。

第 3 層　灰白色 (2.5Y 8/2 ～ 7/8) シルトに礫が少量混ざる。段丘堆積層であり、当調査区における基盤層である。

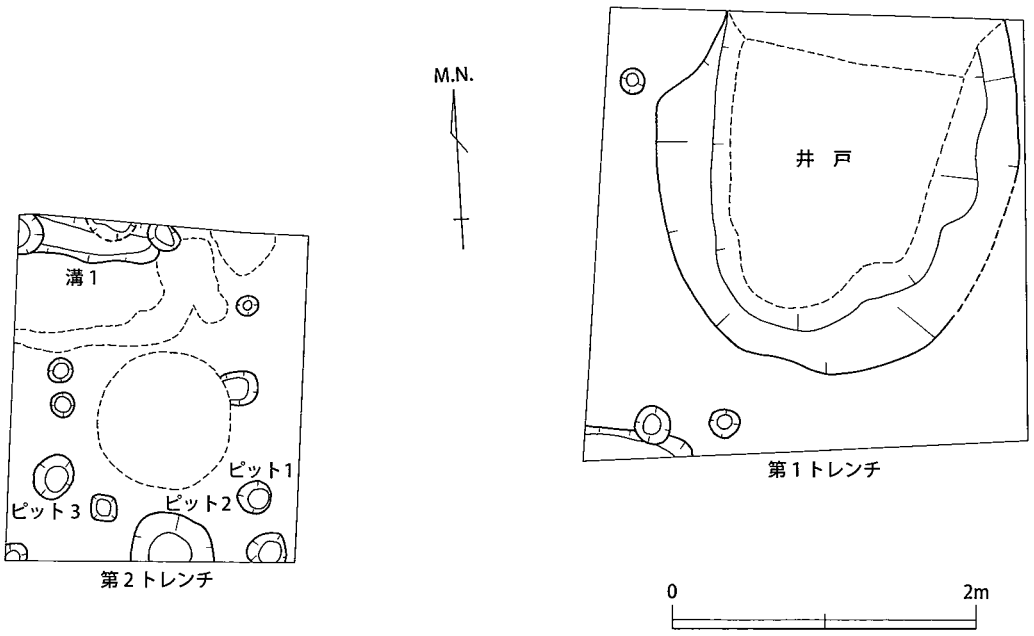
（3）検出した遺構と遺物

今回は、第 14 図のとおり東側から第 1 トレンチ・第 2 トレンチと 2 か所の調査区を設定した。

a．第 1 トレンチ

3 m四方の調査区。基盤層上面においてピット 3 基、土坑 1 を検出した。

ピット　3 基検出しており、すべて深度が 5 ㎝程度と浅く、機能については不明である。3 基すべて無遺物であったが、




**第 14 図　第１・２トレンチ遺構配置図（１：50）**

埋土は灰黄褐色～にぶい黄橙色極細粒砂と２トレンチ検出のピット埋土と似た特徴であったことから、第１トレンチのピットはすべて中世と考えられる。

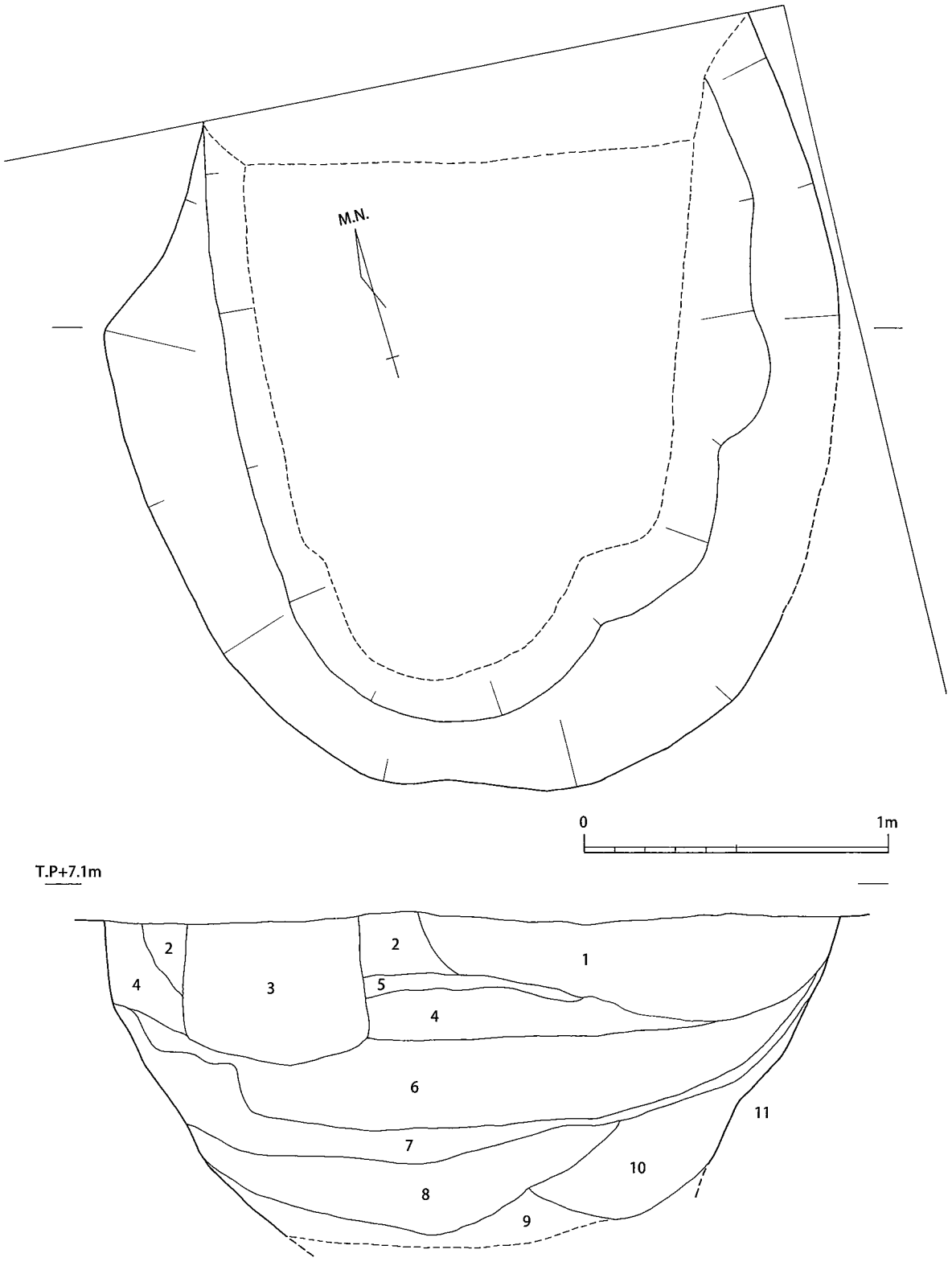
**井戸**　調査区のほぼ中央から直径約 2.6 ｍの井戸を検出した。掘削当初は土坑と考えたが、断面等の特徴から井戸と判断した。掘形は途中からほぼ垂直に掘られており、その形状から井戸（以下、土坑は「井戸」と呼称する）と考えられる。井戸は地表下 150cm のところで調査掘削を停止したため、基底面に達していない。掘削範囲内における埋土は最上層・上層・中層・下層の４層に大別区分でき、各層の特徴は次の通りである。

最上層は検出面から地表下約 80 ㎝にオリーブ黒色細粒砂を主体に構成され、当該井戸における最終段階の埋戻し土である。最上層中には最近の遺物を含んでおり、明治以降の盛土とみられる。

上層は 30 ～ 40 ㎝の層厚を有し、黒褐色極細粒砂～シルトを中心とした真っ黒い埋土で構成され、層中に炭化物ならびに礫を非常に多く含む。上層も最上層と同様に人為的な埋戻し土であるが、埋土の特徴が異なるため最上層と時期差が存在しそうである。出土遺物から明治以降の埋戻し土であろう。

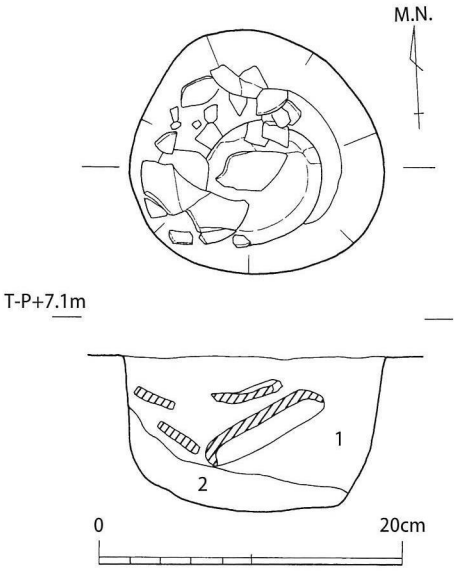
中層は緑灰色細～中粒砂を中心に構成され層厚は最大で 25 ㎝である。層中には礫を多数含み中には拳大サイズの礫もみとめられる。中層土も人為的な埋戻し土であろう。

下層は灰色シルト～極細粒砂からなる層であり、井戸側面の崩落土とみられる。少なくとも 20 ㎝以上の堆積がみとめられる。下層では２点の遺物が出土した。第 17 図１は井戸枠瓦であり、時期は 17 世紀以降とみられる（注 1）。第 17 図２は肥前磁器の仏飯器の一部であろう。坏部欠損のためその形態は不明であるが、底部の形態などから 17 世紀後半以降に使用されたとみられる（注 2）。これより下の堆積状況は不明である。




1. オリーブ黒色 (5Y3/2) 細～極細粒砂。礫 (直径～ 5 ㎝) を多く含む。 2. オリーブ黒色 (5Y3/1) 細～極細粒砂と褐灰色 (10YR6/1) 細粒砂の混合土。礫 (直径～ 3 ㎝) を少量含む。 3. オリーブ黒色 (5Y3/2) 細粒砂と灰白色 (10YR7/1) 細粒砂の混合土 (3：1 程度)。 4. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細粒砂と黒褐色 (2.5Y3/2) 細～極粒砂の混合土 ( 約 4：1)。 5. オリーブ褐色 (2.5Y4/3) 細粒砂。 6. 黒褐色 (2.5Y3/1 ～ 4/1) シルト。層中に炭化物を多量に含む。植物遺体も多く含む。人為的埋戻し土。 7. オリーブ黒色 (5Y3/1) シルトに黒褐色 (2.5Y4/1) シルトが混ざる ( 約 3：2)。人為的な埋戻し土。 8. 緑灰色 (7.5Y6/1) 細～中粒砂。円礫 ( 直径最大で 15 ㎝ ) を若干含む。井戸埋土中で最も粒子が粗い。 9. 灰色 (N4/) シルト～極細粒砂。非常に軟弱。 10. にぶい黄橙色 (10YR7/2) 極細粒砂と褐灰色 (10YR6/1) シルトの混合土 ( 約 3：1)。井戸壁面の崩落土？非常に軟弱。 11. 灰色 (5Y4/1) 細粒砂。基盤層。

**第 15 図　井戸平面・断面図（1：20）**




1. 灰黄褐色 (10Y5/2) 極細粒砂。浅黄褐色 (10YR8/3) 極細粒砂を約 10%含む。
2. 褐灰色 (7.5YR5/1) シルトに基盤層ブロック ( 直径～３㎝ ) を多く含む。

**第 16 図 ピット１平面・断面図（１：５）**

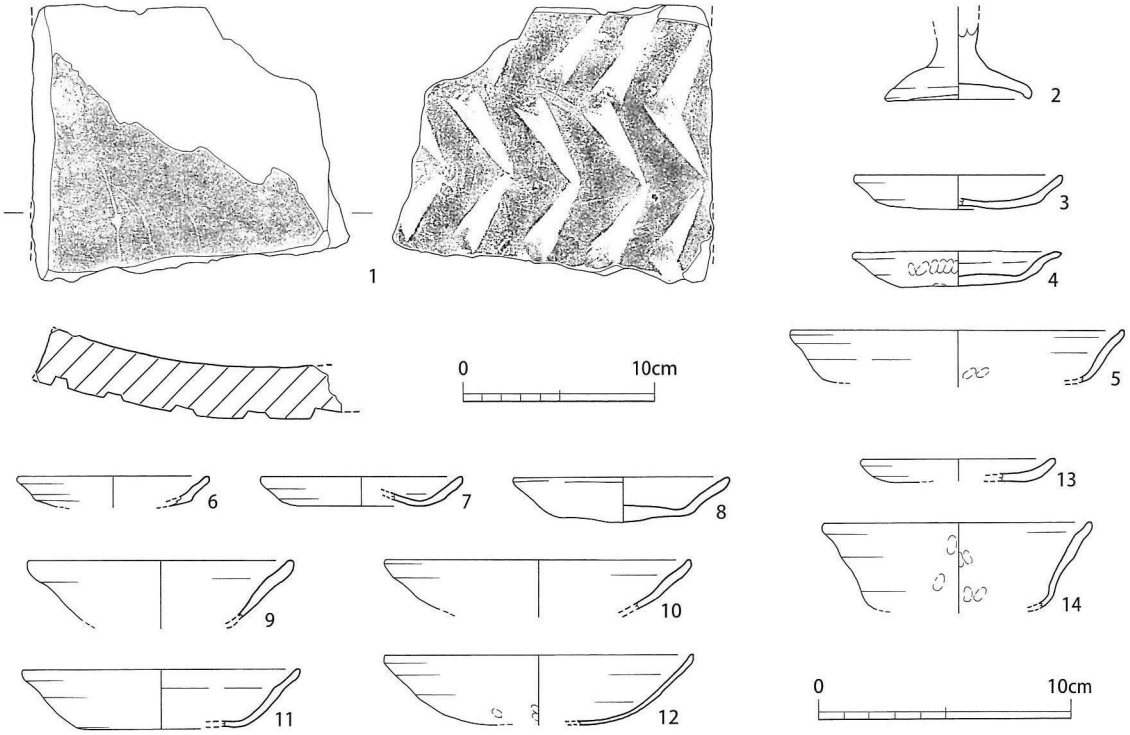
以上、今回の掘削は基底面に達していないが、下層出土遺物の様相から井戸の埋没時期が 17 世紀後半以降であることは推察できる。

ｂ．第２トレンチ

２ｍ四方の調査トレンチであり、トレンチ中央に直径１ｍほどの攪乱 ( 最近まで使用されていた井戸 ) を有するため、実際の調査範囲はさらに制限されていた。それにもかかわらず、基盤層上面において、ピット 13 基、溝１条を検出した。主だった遺構の概要は以下の通りである。

**ピット１**　直径 22 ㎝、深度は 20 ㎝と小規模なピットである。埋土中から土師器皿が３個体分、第 16 図に示すように基底面から浮いた状態で出土した。これらの土師器皿は出土状況から意図的に埋納されたとは考えにくく、廃棄されたものとみられる。出土遺物は第 17 図３～５である。３・４の土師器皿は直径およそ 8.5 ㎝、器高は 1.5 ㎝内面は横ナデ、口縁部外面は横ナデ、底部外面は手づくね整形である。

**ピット２**　トレンチ南壁沿いで検出した。２トレンチ内の検出遺構のなかで推定規模が唯一直径 50 ㎝以上の遺構であった。埋土中から土師器皿、瓦器椀が少なくとも７個体分出土した。これら遺物は主に埋土上半部から出土し、しかもすべて砕片であったことから、ピット１と同様に、廃棄された状況とみる。出土遺物は第 17 図６～ 12 である。このうち 12 の瓦器椀は高台が消滅しており、




**第 17 図　出土遺物（１：３）**

器高も 3 ㎝に満たないことからⅣ－ 3 期以降の特徴を有する（注 3）。7 の土師器皿は口縁部に煤が付着していることから灯明皿であろう。ピット 2 の時期は出土した瓦器椀の特徴から 14 世紀以降とみられる。

**ピット 3**　直径 28 ㎝、深度は 7 ㎝程度で、柱痕が確認できる。無遺物であったが、ピット 1 と同様の灰黄褐色系の埋土であることから中世段階のピットと考えられる。

**その他の遺構・遺物**　第 17 図 13 は第 2 トレンチ基盤層上面出土、同 14 は第 2 トレンチの盛土から出土したものである。13 は復元 D 縁部直径が 7.8 ㎝、器高は 1 ㎝程度であり、他の土師器皿と比較して法量が異なりかつ丁寧な製作であることから、時期が遡る可能性がある。

## 3．まとめ

今回の調査では、主に中世の集落関連遺構を検出し、調査地一帯に中世集落が広がることを確認した。柱穴やピットの配置も検討したが、限られた調査範囲内で建物跡は復元できなかった。

今回検出の遺構は、南城外堀の掘削時期（16 世紀中頃まで）とも時期差があることから、南城関連遺構というよりはそれに先行する中世集落であると考えたい。

また井戸跡についても、近世の原田村を物語る一資料として貴重な発見であった。今回の調査成果は、中近世の原田遺跡、特に原田城跡 ( 南城 ) に先立つ中世集落の一端が明らかになったと言える。

（注 1）　堺市教育委員会「第 4 章 第 3 節 遺物」『堺環濠都市遺跡（ＳＫＴ 79）発掘調査報告』堺市文化財調査報告第 37 集　1988 年

（注 2）　川副麻理子「磁器の編年（色絵以外）　4．仏飯器・水滴・人形・灯火具・緒締玉・戸車」『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会 10 周年記念－』九州近世陶磁学会　2000 年 2 月

（注 3）　尾上実・森島康雄・近江俊秀「6．瓦器椀」『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編集　真陽社　1995 年

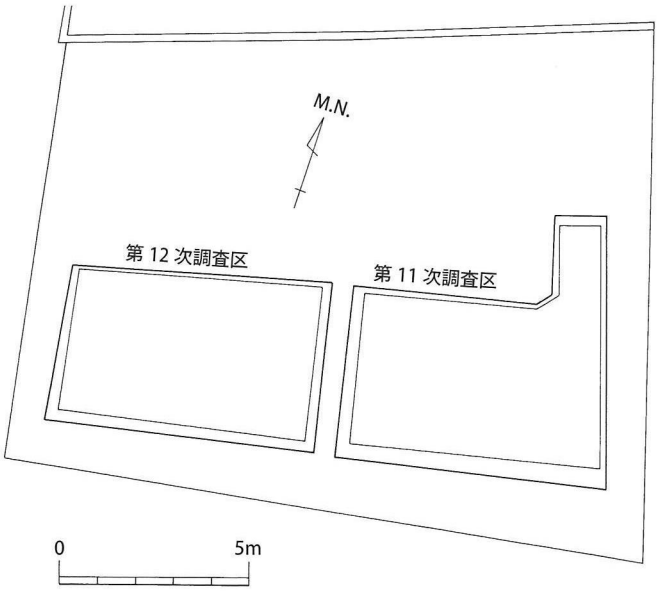
【参考文献】

豊中市教育委員会「原田遺跡第 8 次調査」『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成 18 年度 (2006 年度 )』 2007 年 3 月　p 61 ～ 68

豊中市教育委員会「原田遺跡第 5 ～ 7 次調査」『文化財ニュース豊中』№ 33　2005 年　p 12

# 第Ⅳ章　原田遺跡第 11 次・12 次調査

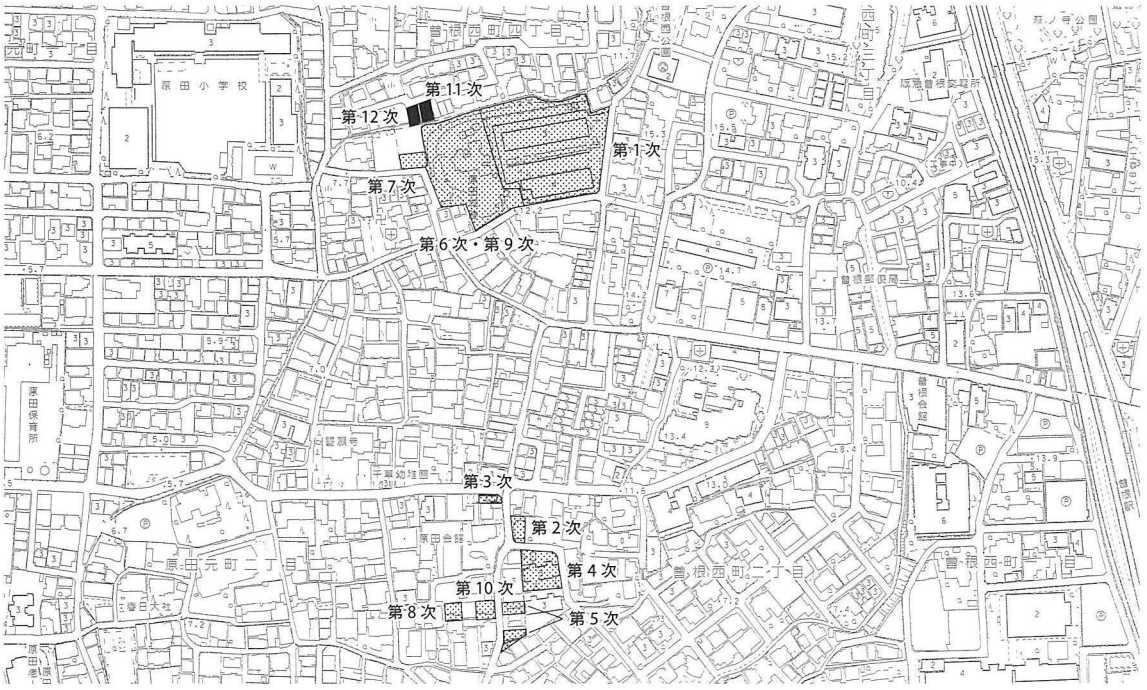
## 1．調査の経緯




第 18 図　調査範囲図（1：200）

調査地は豊中市曽根西町 4 丁目 204 －1・2 に位置し、2 棟の個人住宅建設予定地であった。平成 23 年 10 月 13 日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて平成 23 年 10 月 20 日に確認調査を実施した結果、地表下 60 ㎝のところで遺構面を確認し、溝状の落ち込みが検出された。落ち込みは検出位置からして原田城跡 ( 北城 ) に伴う可能性が想定された。

申請地では柱状地盤改良を含む基礎掘削工事がなされ、落ち込みの破壊は避けられないことが判明したため、事業主側と協議の結果、記録保存のための本発掘調査を実施することになった。発掘調査は各個人住宅ごとに第 11 次・第 12 次とし、調査範囲は各建築範囲のうち確認調査時の所見に基づき、それぞれ 26.73 ㎡、27.72 ㎡と設定した。




第 19 図　調査地位置図（1：5,000）

## 2．調査の成果

### （1）遺跡の概要

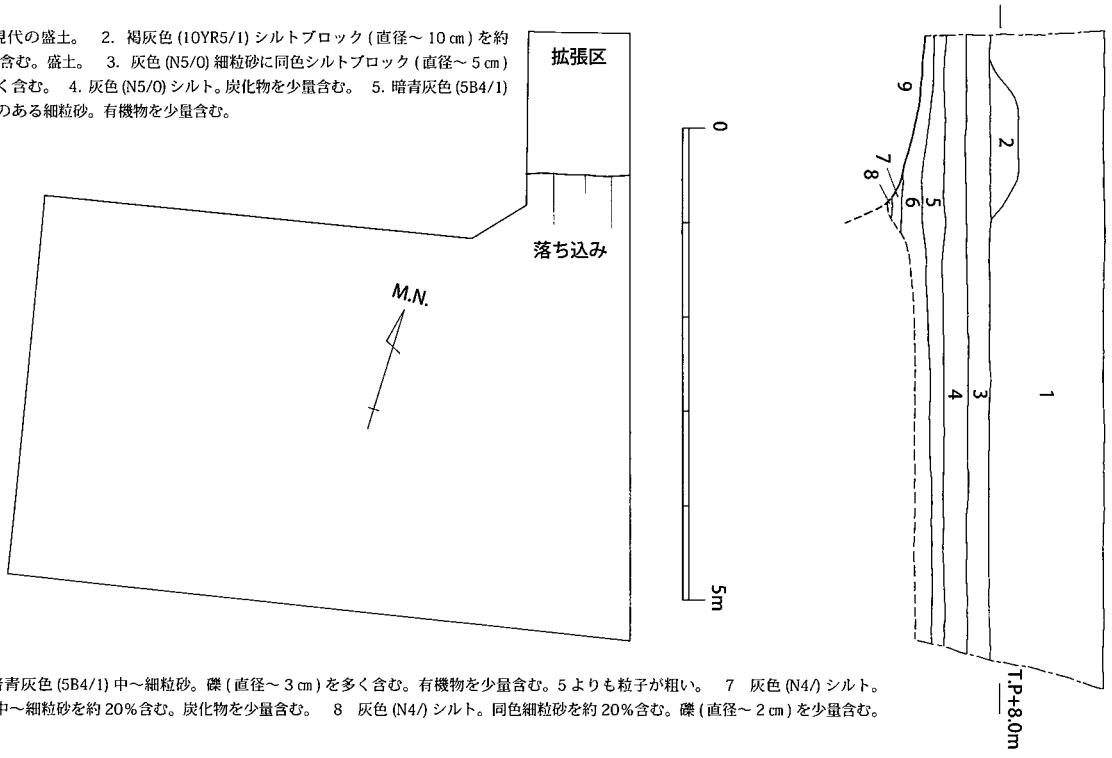
原田遺跡は通称「豊中台地」南西端部の一角に立地する集落遺跡である。過去の調査では弥生時代後期～古墳時代前期の集落関連遺構の他、平安時代の掘立柱建物・土坑も確認されており、これは隣接する大形掘立柱建物が検出された曽根遺跡との関連が注目される。これに加えて当該遺跡は中世六車郷原田村に比定され、中世の集落関連遺構も確認されている。

今回の調査地は原田遺跡北西端にあり、一帯は中世の城館跡である原田城跡（北城）の一角にもあたる。原田城は近世・近代に編纂された地誌・地籍図の検討から南北に二城があったことが判明し、今回は北城のうち外堀の推定地に位置している。北城は 16 世紀後半に織田信長軍により大規模な改変がなされ、特に外堀は幅 16 mにまで巨大化させたことが既往の調査で判明している。今回、確認調査検出の落ち込みは、北城北西隅部分に位置する。

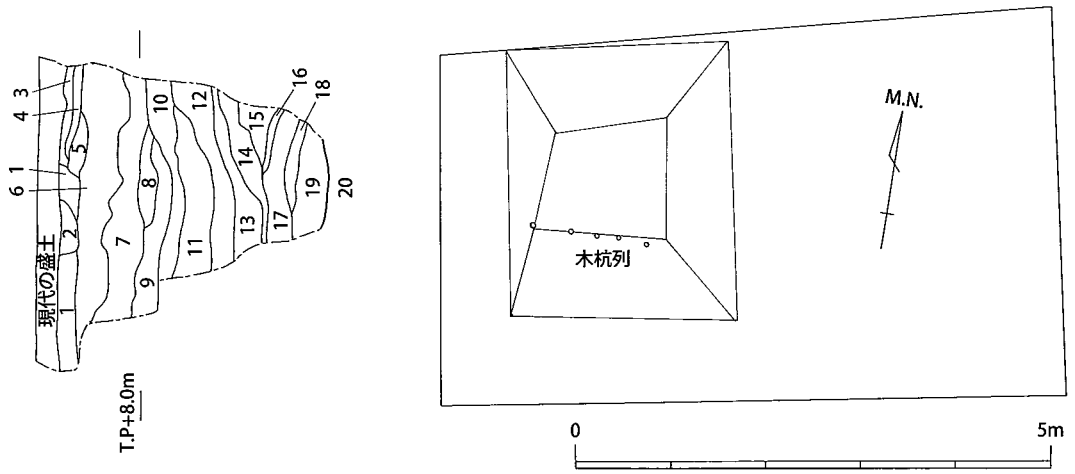
### （2）基本層序

今回の調査地は舌状に伸びる 2 つの小丘陵に挟まれた谷部分にあり、このうち北城が築城される南側丘陵の直下に位置する。

基本層序は地表下約 40 ～ 50 ㎝までが現代の盛土層である。一帯は昭和 20 年代後半に耕作地から住宅地に変わったということであり、1 層はその時の造成土とみられる。その直下には厚さ約 120 ㎝の灰白色細粒砂主体の盛土が堆積し、近代以降の埋め戻し土層とする。この層には直径 20 ㎝を超えるような大形の灰色～褐灰色系のシルトブロックを多数含むことが特徴である。上記の 2




**第 20 図　第 11 次調査区平面・断面図（1：80）**




1．現代の盛土。　2．黄灰色 (2.5Y5/3) 粗～中粒砂。礫 ( 直径 1 ～ 3 ㎝ ) 多く含む。　3．黄灰色 (2.5Y5/3) 粗～中粒砂。炭化物、礫 ( 直径 1 ～ 3 ㎝ ) を多く含む。現代の攪乱土。　4．黄灰色 (2.5Y6/1) 粘性のある中粒砂。礫 ( 直径 1 ～ 3 ㎝ ) を少量含む。　5．明赤褐色 (2.5Y5/8) 粘性のある細～中細粒砂。礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を微量含む。　6．褐灰色 (7.5Y5/1) 粘性のある中～粗粒砂。炭化物、礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を少量含む。　7．褐灰色 (7.5Y4/1) 細～中粒砂。礫 ( 直径 1 ～ 3 ㎝ ) を多く含む。瓦・煉瓦砕片を多く含む。　8．明赤褐色 (2.5Y5/8) 中～細粒砂。礫 ( 直径 1 ～ 3 ㎝ ) を多く含む。瓦・煉瓦砕片を多く含む。　9．明赤褐色 (2.5Y5/8) 中粒砂に褐灰色 (7.5YR4/1) シルトブロック ( 直径～ 2 ㎝ ) を約 20%含む。礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を多く含む。　10．明赤褐色 (5YR5/8) 中粒砂に褐灰色 (7.5YR4/1) シルトブロック ( 直径～ 5 ㎝ ) を 10%含む。礫 ( 直径～ 5 ㎝ ) を多く含む。　11．褐色 (7.5YR4/6) 中粒砂に褐灰色 (10YR6/1) シルトブロックを約 15%含む。礫 ( 直径～ 5 ㎝ ) を非常に多く含む。　12．黄褐色 (10YR5/4) 細～中粒砂に褐灰色 (10YR6/1) シルトブロック ( 直径～ 5 ㎝ ) を約 20%含む。礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) 約 15%含む。12 より下位はグライ化している。地下水位　13．灰黄褐色 (10YR6/2) 粗粒砂に褐灰色 (10YR5/1) シルトブロック ( 直径～ 5 ㎝ ) を約 25%含む。　14．灰色 (N5/) 粘性のある中～粗粒砂に同色のシルトブロック ( 直径～ 2 ㎝ ) を約 20%含む。礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を多く含む。　15．灰色 (N4/) 粘性のある中～粗粒砂に同色シルトブロック ( 直径～ 5 ㎝ ) を約 30%含む。礫 ( 直径～ 2 ㎝ ) を多く含む。　16．灰色 (N4/) 粗粒砂に同色シルトブロック ( 直径～ 2 ㎝ ) を約 20%含む。礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を多く含む。　17．灰色 (N4/) 粘性のある細～中粒砂。　18．灰色 (N5/) 粗粒砂。礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を多く含む。　19．灰色 (N4/) シルトに同色細粒砂を約 30%含む。植物遺体多く含む。　20．灰色 (N4/) 中～粗粒砂。礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を 10%程度含む。植物遺体を非常に多く含む。　21．灰色 (N5/) 粗粒砂。円礫 ( 直径～ 5 ㎝ ) を多数含む。基盤層。

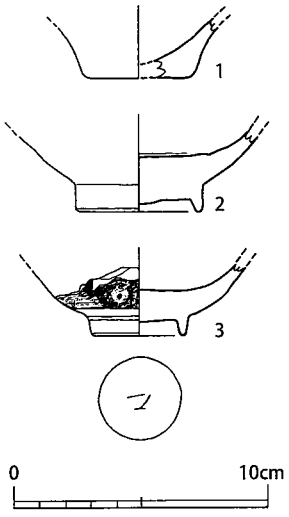
**第 21 図　第 12 次調査区平面・断面図（1：80）**

層は、2 つの調査区にほぼ共通する土層であり、近代以降の埋め戻し土層より下位の堆積状況は、調査区ごとに紹介する。

各調査区における基盤層は段丘堆積層とみられ、11 次調査区において地表下 1.9m、第 12 次調査区では地表下およそ 3 mで検出しており、いずれも灰色中～粗粒砂を主体に円礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を若干含み、基盤層直上付近は湧水が激しい。

（3）検出した遺構と遺物

2 つの調査区の呼称は調査時と同様東側を第 11 次調査区、西側を第 12 次調査区とし 、調査区ごとに報告を行う。




**第 22 図　第 11 次調査出土遺物（1：3）**

a．第 11 次調査 ( 第 20 図 )

調査は地表下 40 ～ 50 ㎝で基盤層に達する想定で着手したが、地表下 200 ㎝に至っても基盤層に達しなかった。そこで、基盤層の検出を目的とする拡張トレンチを急きょ設定し検出を目指した。その結果は、拡張トレンチ北端で地表下 190 ㎝のところで基盤層に達し、平坦な基底面から急に南側へ落ち込んでいく様子が確認された。以上が今回確認できた所見であり、調査範囲の制約ならびに壁面崩落の恐れが生じたため、以下の掘削は停止した。

第 11 次調査区検出の落ち込みは地表下 190 ㎝のところで検出され、遺構の肩部、あるいは途中に形成された犬走り状の段部分といった可能性が考えられるが、現段階で機能を判断することは困難である。遺構の規模は反対側の肩が未確認であるため、現時点では幅 7 m以上というこ

とになり、深度は不明である。

出土遺物はすべて 1･2 層からの出土で、両層中からは弥生土器、古墳時代後期とみられる須恵器、磁器片、近代以降の瓦・煉瓦などが混在状態で出土したが、大半は近代以降の瓦片であった。このうち近代以降の瓦を除いて図化可能であったものを第 22 図に掲載した。第 22 図 1 は弥生土器の底部である。同 2 の肥前系陶磁の時期は 17 世紀後半以降とみられる。

以上、第 11 次調査区は、基盤層直上付近から近代以降に人為的に埋め戻されており、近代まで開口状況であった状況がうかがえる。第 11 次調査区は今回の落ち込みが外堀、あるいは他の遺構であったかその性格については明らかにできなかったが、いずれにせよ大規模な遺構である。

遺物は埋戻し土中より弥生土器から近現代の瓦・煉瓦に至るまで幅広く出土したが、中世の遺物、原田城に関連する時期の遺物は確認できなかった。なお、出土遺物中に弥生～古墳時代のものが含まれることから、付近に相応時期の遺構が存在する可能性がある。

b．第 12 次調査 ( 第 21 図 )

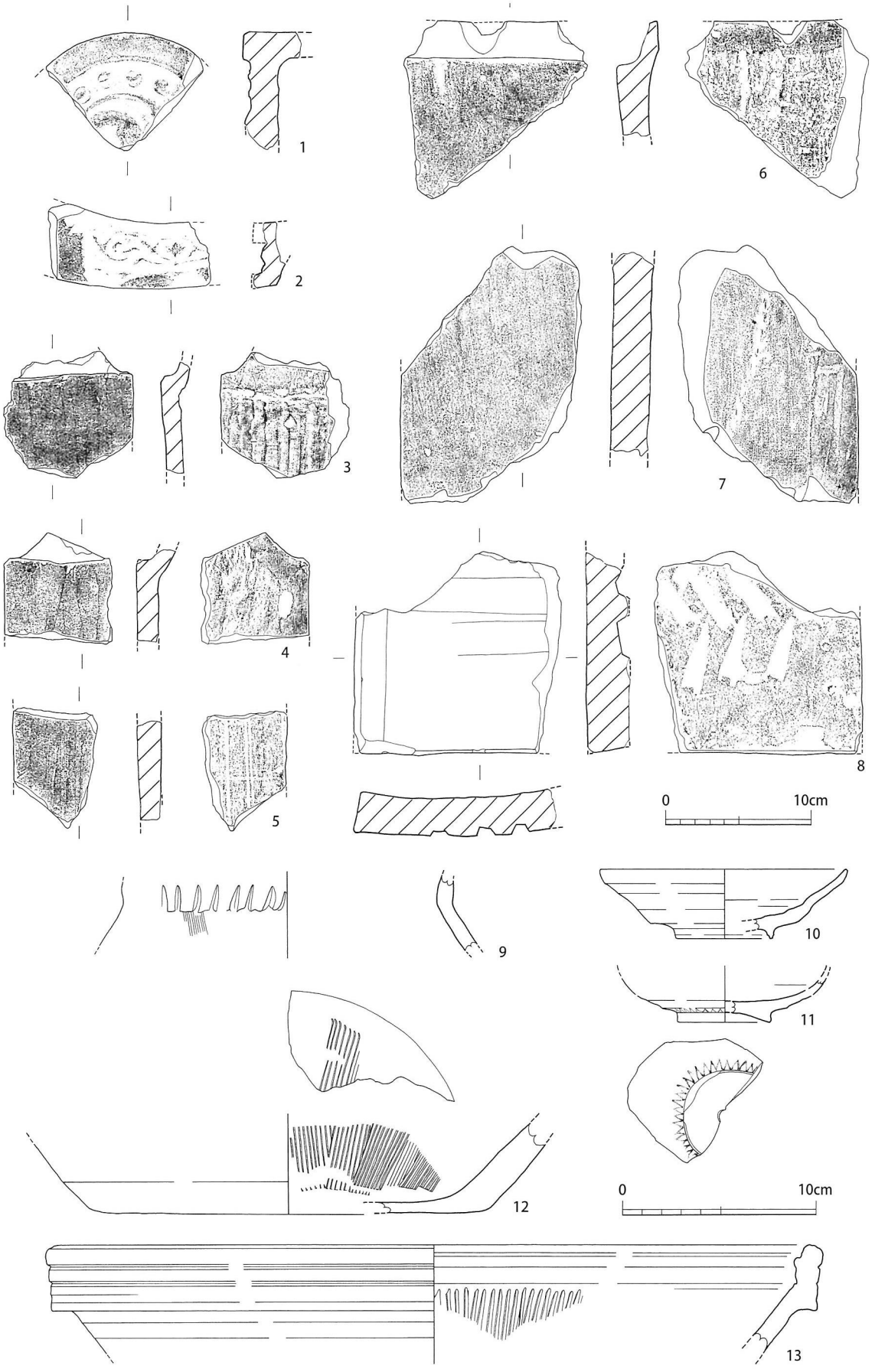
当調査区も当初は地表下 40 ～ 50 ㎝で基盤層を想定して調査を進めたが、地表下 70 ㎝に至っても基盤層に達せず、敷地内の廃土スペース確保が困難になったことから、掘削範囲を調査区西端だけに限定した。

その結果、地表下約 180 ㎝までは人為的な埋戻し土であり、12 層以下が自然堆積層であることが判明した。自然堆積層は灰色細～極細粒砂層と灰色シルト層（葉や茎、根などの植物遺体を包含）が交互に堆積しており、層厚約 140 ㎝であった。自然堆積層直下は主に灰白色粗砂に円礫 ( 直径～ 3 ㎝ ) を多く含むもので激しい湧水を伴う。この粗砂層以下は無遺物であり、固くしまっていることから基盤層と判断した。基盤層直上には水生植物の根が生い茂っていたとみられ、緩やかな水流が想定できる。地表面から基底面まではおよそ 3 ～ 3.2 m であった。基底面付近の 18 層より中世のものとみられる漆器砕片が出土したことにより、落ち込みの掘削時期が当該時期まで遡る可能性がある。

第 12 次調査では、基底面付近において木杭列を確認した。25 ～ 30 ㎝の間隔で一直線に概ね東西方向に並び、杭の配置からみて落ち込みは調査地から西方へ伸びていくことが推察される。杭は基盤層におよそ 50 ㎝の深さで打ち込まれていた。杭はいずれも断面円形で全長は約 1 m、直径は 10 ㎝で先端を尖らせていた。杭以外に特別な遺構・遺物等は確認されず、杭設置の目的については護岸等が候補として考えられるが詳細は不明である。

杭列の方向を重視した場合、その向かう先にある九名井と呼ばれる灌漑用水路が注目される。九名井は中世以降、川辺郡の一部から原田郷一帯を潤した灌漑水路であり、明治時代前半に描かれた『原田村改正絵図』では調査地から九名井に合流していく水路が描かれている。よって、杭を伴う落ち込みが水路であった可能性も否定できない。

その他の解釈としては、元々中世段階から水路が存在したが、16 世紀後半代の織田信長軍入城時に巨大な外堀に改変させたとする見方や、外堀廃絶後に規模を縮小して灌漑用水路に転用したとする状況も想定されるが、今回の調査では落ち込みの機能の変遷を推定させるような土層堆積状況は確認できなかった。また原田城跡（北城）西側で実施の原田遺跡第 7 次調査では、外堀が確認され




第 23 図　第 12 次調査出土遺物（１：4）

第 24 図　原田村改正絵図より（明治 10 年 (1877)）

ており、今回の落ち込みは、それと一連である可能性も考えられた。しかし、調査範囲の制約もあり、落ち込みが南側へ屈曲する状況は確認できなかった。

出土遺物は大半が埋戻し土中からの出土であり、第 11 次調査と同様に弥生時代～近現代の遺物が確認されている。埋戻し土の時期は煉瓦の存在から近代以降と考えられる。一方、中世の可能性がある遺物については、漆器砕片を除いてみとめられず、16 世紀後半代の遺物も確認されなかった。出土遺物は第 23 図に掲載した。なお、瓦の所見は（注 1）文献を参考にしている。１の軒丸瓦はＣ類に該当する。２の軒平瓦はＤ類（橘唐草文）に相当しよう。３・４・６の丸瓦は凹面に幅５～ 10 ㎜の棒状の痕跡が確認できるが、これは凸面の湾曲を整える際に施す内叩きの痕跡である。これらは麻田藩陣屋跡で類例が確認でき、近世の所産とみられる。８は井戸枠瓦であり、時期は 17 世紀以降と考えられる（注２）。９は弥生時代の壺形土器頸部であり、頸部には圧痕を施した貼り付け突帯を伴う。10 は肥前系陶器皿とみられ、18 世紀代と考えられる（注３）。12・13 の堺擂鉢は 18 世紀以降の所産とみられる（注４）。

## ３．まとめ

今回の調査では、第 11 次調査区において溝状の落ち込みが少なくとも幅 7m 以上あることを確認し、その規模からして確認調査段階で推察したとおり原田城跡（北城）外堀の可能性がある。

一方、第 12 次調査では、この落ち込みが遺物の出土状況により中世まで遡る可能性があること、埋土の観察ならびに杭列が検出されたことから、かつて流路であった痕跡もうかがえた。

第 24 図は明治時代 10 年（1877）に描かれた『原田村改正絵図』である。今回の調査地である「字谷田」（○印）には、北東方向に所在の溜池（谷田池）から九名井に向かう水路が描かれている。調査地南側には「字城ノ内」「字二ノ丸」「字古称路（コ子ジ）」など、城跡（北城）関連の字名が確

認できる。また、江戸時代の文献史料（注5）からも水路が存在したことを示す記録が確認でき、18世紀中頃にはすでに水路が存在していることがうかがえる。しかし水路の成立時期に関わる史料は現在のところ未確認である。

今回は、落ち込みの性格ならびに詳細な変遷過程を明らかにすることは今後の課題として残されたが、当該地にかつて上記のような遺構の存在を確認できたことは、中近世における原田遺跡の動態を解明していくうえで貴重な発見であったと言える。

（注1）（財）大阪府文化財センター『麻田藩陣屋跡』（財）大阪府文化財センター調査報告書第81集 2002年

（注2）堺市教育委員会『堺環濠都市遺跡（ＳＫＴ79）発掘調査報告』堺市文化財調査報告第37集　1988年

（注3）盛峰雄「陶器の編年 1．碗・皿」『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会　2000年2月

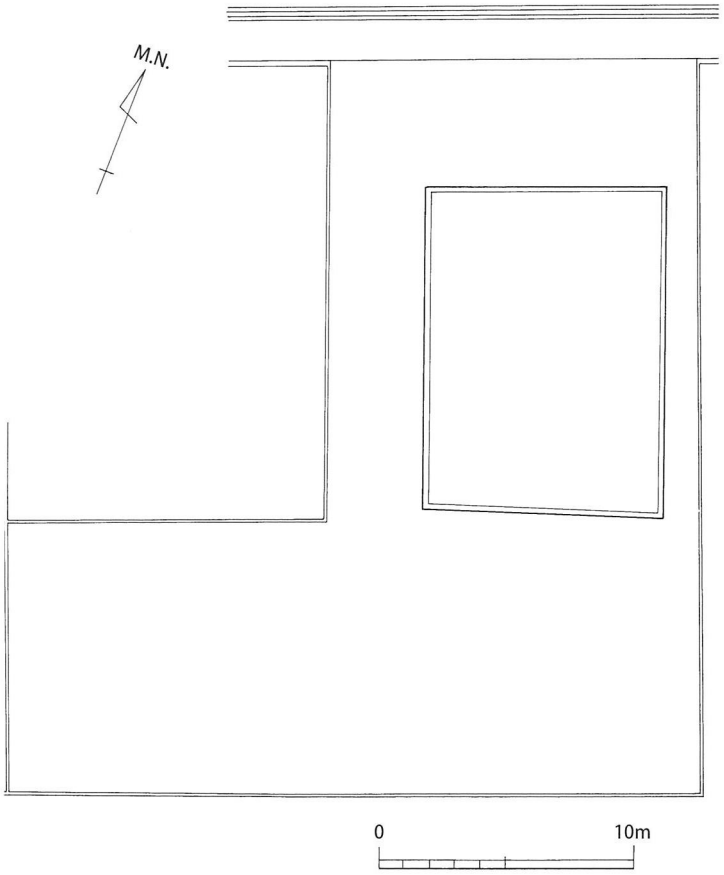
（注4）堺市教育委員会『堺環濠都市遺跡（ＳＫＴ79）発掘調査報告』堺市文化財調査報告第37集　1988年

（注5）豊中市史編さん委員会編集『村明細帳（上)』豊中市史資料集3（通史部門）　豊中市 1995年

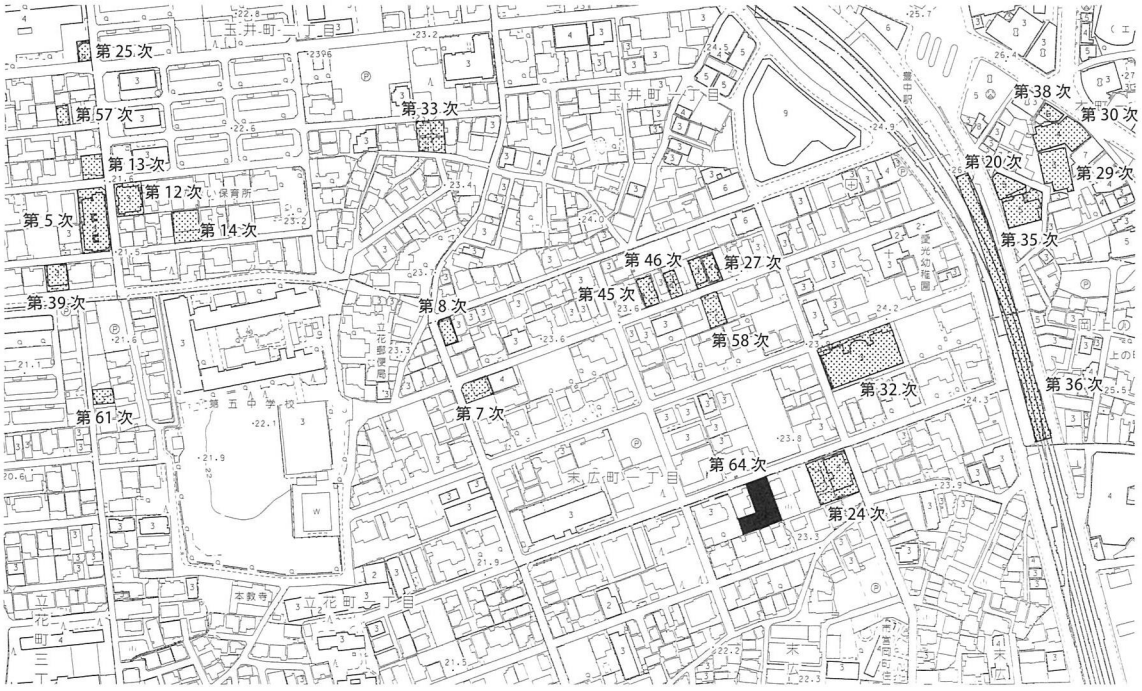
# 第Ⅴ章　新免遺跡第 64 次調査

## 1．調査の経緯

当調査地は豊中市末広町 3 丁目 190 － 2 に所在する。平成 23 年 6 月 12 日に提出された埋蔵文化財発掘の届出に基づいて、平成 23 年 6 月 15 日に確認調査を実施したところ、地表下 70 ㎝のところで基盤層とその上面において遺構を確認した。申請地では個人住宅新築工事が予定されており、地盤改良深度が地表下 150 ㎝に達し、埋蔵文化財への影響は避けられないことが判明したため事業主側と協議の結果、本発掘調査を実施することになった。調査期間は平成 23 年 8 月 29 日～ 9 月 16 日、調査面積は 144 ㎡であった。




第 25 図　調査範囲図（1：300）




第 26 図　調査地位置図（1：5,000）

# 2．調査の成果

## （1）遺跡の概要

新免遺跡は阪急宝塚線豊中駅の西～南西一帯に広がる集落遺跡であり、東西約 600m、南北約 300m の規模を有する。これまでに 63 件の発掘調査が実施され、縄文時代から現代に至るまでの複合遺跡であることが判明している。遺跡の盛期は弥生時代中期～後期、古墳時代後期とみられ、なかでも弥生集落からは多数の竪穴住居と方形周溝墓を検出しており、千里川流域の拠点集落として位置づけられている。しかし市内最多の調査次数でありながら、個人住宅新築工事を契機とする小面積の調査が多いため、これらの点的な成果を面的に捉え直していく作業が今後必要であり、現在のところ遺跡の詳細な動態は不明である。

今回の調査地は遺跡南端部に位置し、調査地周辺では 6 世紀代の古墳群（新免古墳群）（注 1）、ならびに近世の遺構等が確認されている（注 2）。

## （2）基本層序

今回の調査地は地表下約 70 ㎝のところで基盤層を検出し、その上面を遺構面として調査を実施した。基盤層を含む基本層序は以下の 6 層であった。

第 1 層　現代の盛土。

第 2 層　旧耕作土。

第 3 層　明黄褐色極細粒砂。付近一帯で堆積が確認されており、少量ながら近世の遺物を包含する。近世段階の整地土。

第 4 層　灰黄褐色 (10YR5/2) 極細粒砂～シルト。第 3 層と似た色調であるが無遺物。弥生土器から近世の遺物を少量包含する。第 3 層と同様に整地土とみられる。

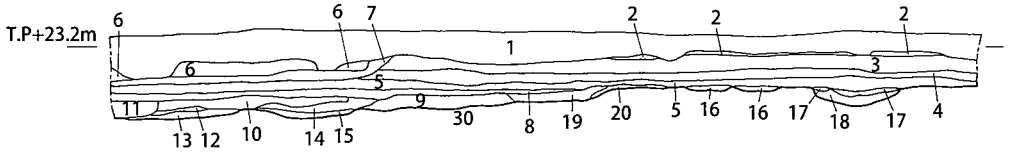
第 5 層　褐灰色 (10YR5/1) シルト～極細粒砂。基盤層直上に堆積する当該層は、調査区全面ではなく北半分に堆積する。調査区弥生土器砕片を微量包含する。出土遺物が弥生時代に限定されるため当該層の形成は弥生時代とみられる。

第 6 層　黄橙色 (10YR7/8) シルト～極細粒砂。調査区礫（直径 3 ㎝以下）を少量含む。当調査区の基盤層であり遺構検出面でもある。

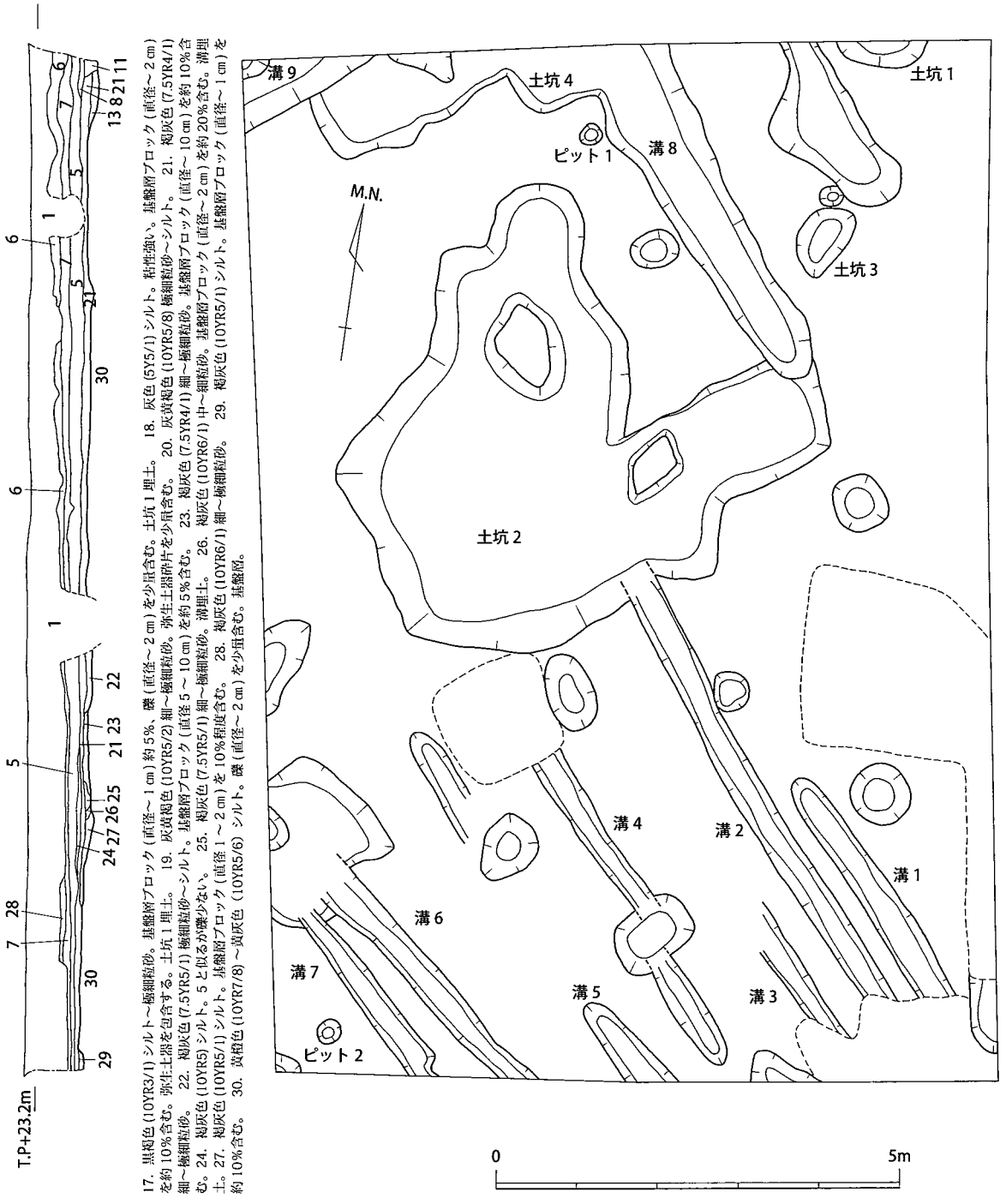
## （3）検出した遺構と遺物

**土坑 1**　調査区北端で検出した。一部は調査区外であるため全体の形状は不明であるが、検出状況から平面円形または楕円形とみられる。検出幅は約 100 ㎝、深度は最深で 15 ㎝であった。埋土は上下 2 層から成り、上層は灰黄褐色シルト、下層は褐灰色極細粒砂と明黄褐色シルトの混合土であった。遺物は下層中から弥生時代後期の壷形土器の口縁部片（第 29 図）が出土しており、土坑 1 は同様の時期に機能していたとみられる。

**土坑 2**　東西・南北それぞれの最大幅が約 6 m、深度は最深で 20 ㎝をはかる平面不整形の大形土坑である。埋土は主に褐灰色シルトの単一層であり、滞水下にあったとも考えにくい。遺物は基

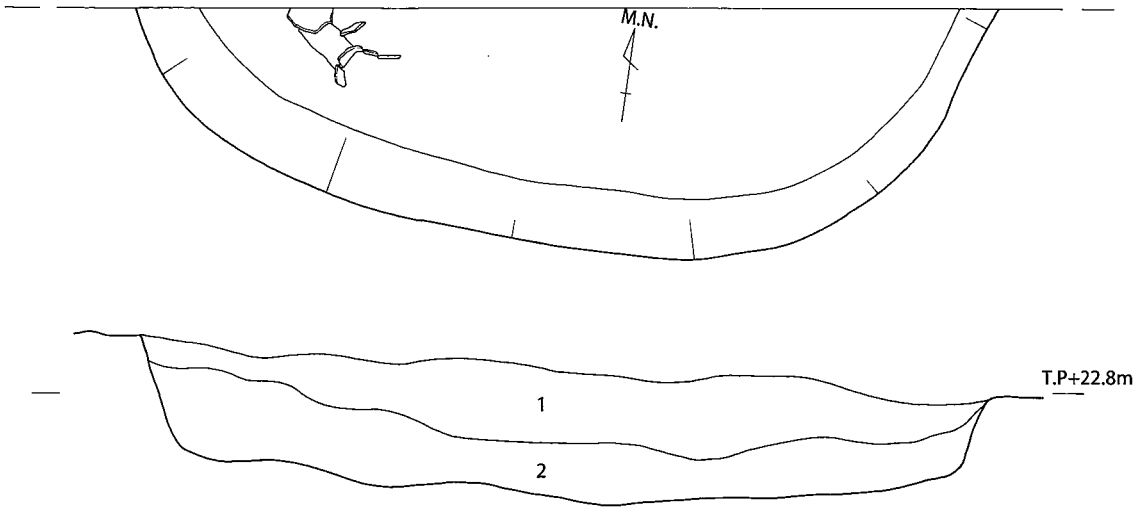



1. 表土及び現代の盛土。　2. 灰白色 (10YR7/1) 極細粒砂。旧耕作土。　3. 明黄褐色 (10YR6/6) 極細粒砂と灰白色 (10YR7/1) 極細粒砂の混合土 (約 2:1)。近世以降の整地土。
4. 灰黄褐色 (10YR5/2) 極細粒砂～シルト。無遺物。　5. 褐灰色シルト～極細粒砂。4 と似るが礫 (直径～ 2 ㎝) をより多く含み、にぶい黄色 (2.5Y6/4) 細粒砂も約 10%含む。弥生～近世の遺物を少量含む。　6. 明黄褐色 (7.5YR7/6) 極細粒砂と灰白色 (10YR7/1) 極細粒砂の混合土 (1：1)。近世以降の遺物を含む。旧耕作土。　7. 灰白色 (10YR7/1) 細～極細粒砂。礫 (直径～ 3 ㎝) を少量含む。旧耕作土。　8. 灰黄褐色 (10YR6/2) 極細粒砂。　9. にぶい黄褐色 (10YR5/3) 極細粒砂と褐色 (10YR4/6) 極細粒砂の混合土 (約 4：1)。
10. 灰黄色 (2.5Y6/2) 細～極細粒砂。　11. 黄灰色 (2.5Y5/1) 極細粒砂。　12. にぶい黄橙色 (10YR7/2) 極細粒砂。　13. 灰白色 (2.5Y7/1) シルト～極細粒砂。　14. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細粒砂。　15. 褐灰色 (10YR6/1) 細～極細粒砂。　16. にぶい黄褐色 (10YR6/4) 細～極細粒砂。円礫 (直径～ 2 ㎝) を少量含む。溝埋土



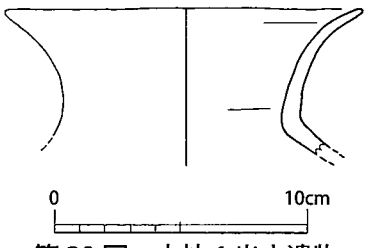

17. 黒褐色 (10YR3/1) シルト～極細粒砂。基盤層ブロック (直径～ 1 ㎝) 約 5%、礫 (直径～ 2 ㎝) を少量含む。土坑 1 埋土。　18. 灰色 (5Y5/1) シルト。粘性強い。基盤層ブロック (直径～ 2 ㎝) を約 10%含む。弥生土器を包含する。土坑 1 埋土。　19. 灰黄褐色 (10YR5/2) 細～極細粒砂。弥生土器片を少量含む。　20. 灰黄褐色 (10YR5/8) 極細粒砂～シルト。　21. 褐灰色 (7.5YR4/1) 細～極細粒砂。基盤層ブロック (直径～ 10 ㎝) を約 10%含む。　22. 褐灰色 (7.5YR5/1) 極細粒砂～シルト。基盤層ブロック (直径 5 ～ 10 ㎝) を約 5%含む。　23. 褐灰色 (7.5YR4/1) 細～極細粒砂。基盤層ブロック (直径～ 2 ㎝) を約 20%含む。溝埋土。　24. 褐灰色 (10YR5) シルト。5 と似るが礫少ない。　25. 褐灰色 (7.5YR5/1) 細～極細粒砂。溝埋土。　26. 褐灰色 (10YR6/1) 中～細粒砂。基盤層ブロック (直径～ 2 ㎝) を約 20%含む。溝埋土。　27. 褐灰色 (10YR5/1) シルト。基盤層ブロック (直径 1 ～ 2 ㎝) を 10%程度含む。　28. 褐灰色 (10YR6/1) 細～極細粒砂。　29. 褐灰色 (10YR5/1) シルト。基盤層ブロック (直径～ 1 ㎝) を約 10%含む。　30. 黄橙色 (10YR7/8) ～黄灰色 (10YR5/6) シルト。礫 (直径～ 2 ㎝) を少量含む。基盤層。

**第 27 図　調査区平面・断面図（1：80）**

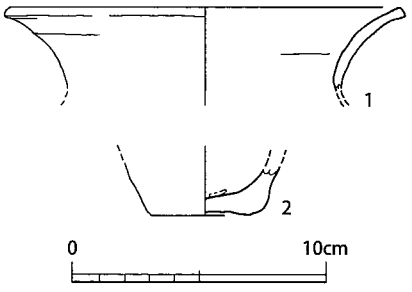



1. 黒褐色(10YR3/1)シルト～極細粒砂。基盤層ブロック(直径～1㎝)約5%、礫(直径～2㎝)を少量含む。 2. 灰色(5Y5/1)シルト。粘性強い。基盤層ブロック(直径～2㎝)を約10%含む。

**第28図　土坑1平面・断面図（1：20）**




**第29図　土坑1出土遺物（1：3）**




**第30図　土坑2出土遺物（1：3）**

盤層直上に張り付く様な状態で弥生土器が少量出土(第30図)しており、当該土坑の形成時期は弥生時代後期頃とみられる。当該土坑は平面が非常にいびつな形状を呈し、ブロック状の埋土も認められないなど、人為的な痕跡が乏しいことから、自然的要因で形成された凹地の可能性もある。

**土坑3**　調査区北側で検出の平面楕円形の土坑である。出土遺物はサヌカイト製石鏃(第31図)1点のみであった。弥生時代のものとみられる。

**土坑4**　調査区北端部で検出した平面不整形の土坑であり、東側は溝8に切られるなど後世の遺構の影響のため残存状況は良好ではなかった。基底面付近から第32図のような状態で弥生土器が出土したが、表面は非常に摩滅しており外部から流入したものとみられる。埋土は土坑2と類似する。弥生時代の土坑と考えられる。

**溝1～7**　主に調査区南半部で検出した。各溝は後世の削平の影響で一部消滅しているが、ほぼ平行に走り、各溝の幅40～60㎝、深度5㎝程度の規模である。埋土は褐灰色細粒砂の単一層であり、層中に土師器皿の砕片を微量含む。中世段階の耕作に伴う溝であろう。

**溝8**　調査区北側で検出したやや大きめの溝であり、検出幅80～100㎝、深度20～25㎝をはかる。埋土は灰黄褐色極細粒砂に基盤層ブロックを含む土層のみで構成され、埋戻し土と考えられる。流路の痕跡は確認できない。埋土から弥生土器、土師器小皿の砕片が出土しており、中世段階に形成されたとみられる。溝の方向からして先述の溝1～溝7と同様耕作関連の溝と考えられ、その場合、

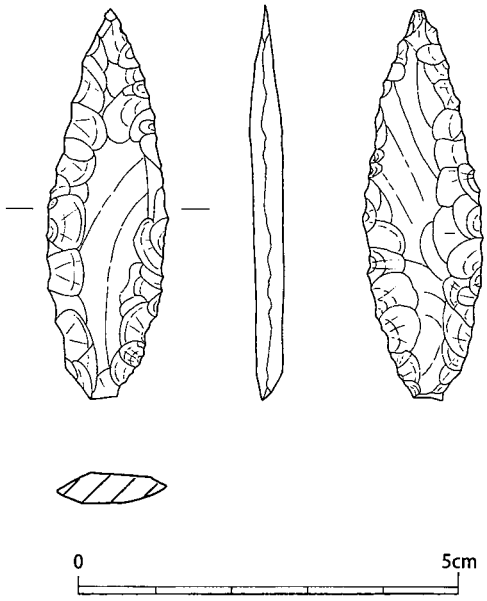
耕作地内の区画溝といった性格が想定される。

**溝 9**　調査区北西隅で検出した。部分的な検出であったため検出幅 80 ㎝以上、深度は 7 ㎝以上ということで正確な規模は不明である。調査区内で唯一溝の方向が異なり、溝 8 と直交あるいは合流する位置関係にある。溝 9 は埋土、規模が溝 8 とほぼ同様の特徴を有するため、区画溝などの可能性が考えられる。

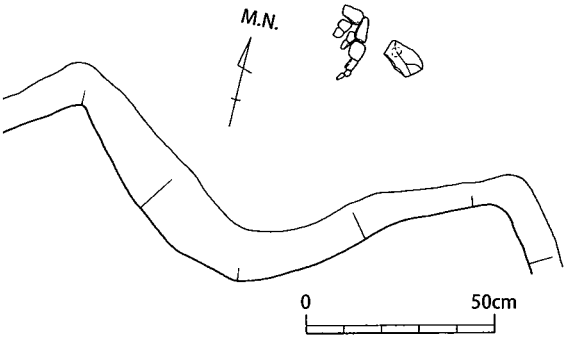
**ピット 1**　調査区北側で検出した。遺物は出土しなかったが、埋土が土坑 1 ～ 3 と類似することから、弥生時代と考えたい。

**ピット 2**　調査区南西端部で検出した。土師器砕片が出土したが時期が特定できる埋土は溝 1 ～ 7 と特徴が類似することから、中世と考えられる。

**その他**　基盤層直上面の精査時に出土した遺物を第 33 図に挙げておく。1 ～ 4 は弥生土器底部、5 は須恵器壷口縁部、6 はサヌカイト製石鏃である。5 は古墳時代後期と考えられ、付近では古墳時代後期の古墳も確認されており、当該時期の遺構が所在する可能性は高い。また平安時代 (10 世紀頃) とみられる黒色土器砕片も出土しており、相応時期の遺構が存在する可能性がある。



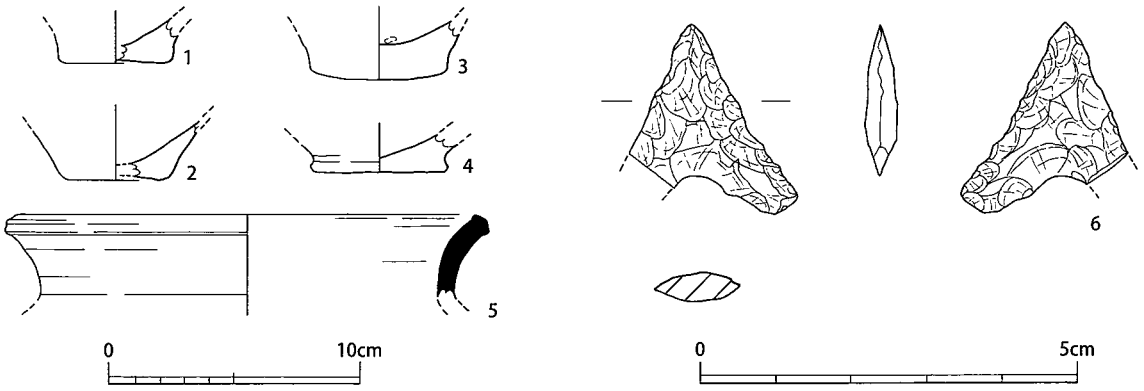

第 31 図　土坑 3 出土遺物（1 ： 1）




第 32 図　土坑 4 遺物出土状況（1 ： 20）

## 3．まとめ

今回の調査成果では、弥生時代後期の集落関連遺構、ならびに中世の耕作痕を確認した。 弥生時代の新免遺跡は、既往の発掘調査により隣接する玉井町一帯が集落の中心地とみられており、今回




第 33 図　その他出土遺物（1 ： 3）

の調査地は周辺における調査成果や、検出遺構数（土坑３基、ピット１基）ならびに出土遺物量を見る限り弥生集落縁辺部の様相を示していると考えられる。

一方、耕作痕についても中世新免遺跡における土地利用の様相を示す貴重な成果であった。近隣では第45次・第46次調査（注2）で近世の耕作関連の溝状遺構が検出されているが、今回検出の溝とは時代が異なるため一連のものとは言えないが、調査結果によって調査地一帯が中近世にわたって耕作地として土地利用されてきたことが改めて確認できた。

また古墳時代、平安時代の両時代の出土遺物については、今回遺構からの出土ではなかったものの、付近に当該時期の遺構が存在する可能性が考えられるため、今後の確認調査ならびに本発掘調査については慎重に実施することが求められる。

（注）

1　服部聡志「新免古墳群の調査概要」『大阪府下埋蔵文化財研究会（第25回）資料』1992年1月　大阪府教育委員会・財団法人大阪文化財センター　p31～35

2　豊中市教育委員会「第Ⅳ章 新免遺跡第45次調査」「第Ⅴ章 新免遺跡第46次調査」『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要―阪神淡路大震災復旧・復興事業に伴う発掘調査―平成７（1995）年度』1997年３月　p15～22

参考文献

・豊中市教育委員会「第Ⅴ章 新免遺跡第58次調査」『豊中市埋蔵文化財発掘調査概要 平成15年度（2003年度）』2004年３月　p95～98

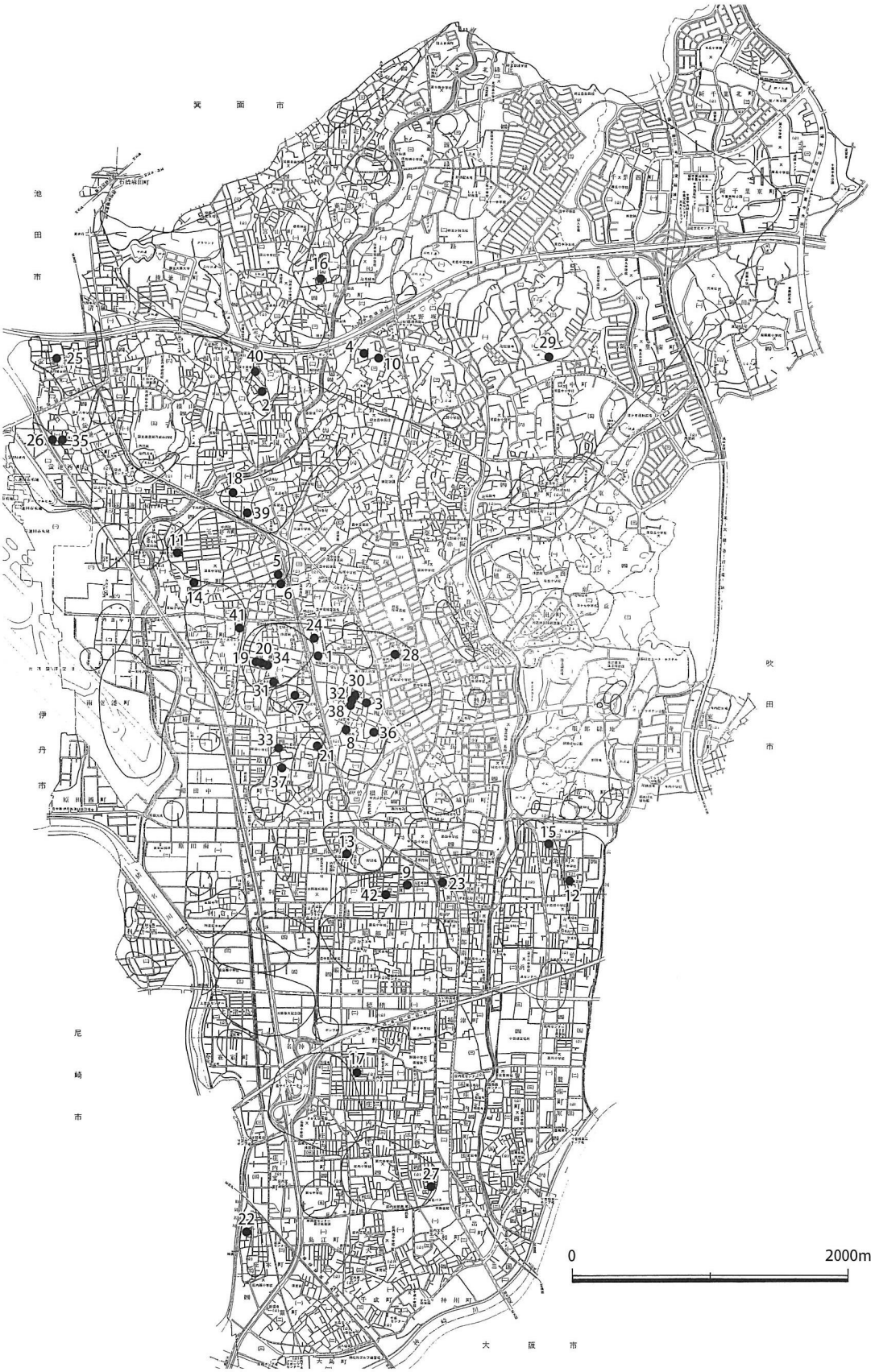
# 第Ⅵ章　確認調査の成果

昨年度１月から３月および今年度４月から12月の間に個人住宅を対象に行なった確認調査は、42件を数え、昨年度７件、今年度35件という内訳である。このうち、５件の調査で遺構等が確認され、うち１件については協議の結果、原田遺跡第11・12次調査として本格的な発掘調査を行うこととなった。残り４件については、建物に伴う基礎掘削が遺構面に達しないことや建物基礎部分の設計変更などから、本格的な発掘調査を行うには至っていない。

以下、確認調査の概要について報告する。第35図に掲載した調査地点位置図の番号および各確認調査の番号は、下表の番号に対応する。

**第１表　平成23年（2011年）確認調査一覧表**

| 番号 | 遺跡名 | 所在地 | 調査日 | 調査原因 | 調査対象面積(㎡) | 遺構等の有無 | 調査後の処置 | 担当者 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 桜塚古墳群 | 中桜塚1丁目132の一部 | 20110106 | 店舗兼個人住宅建設 | 27.45 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 2 | 柴原遺跡 | 刀根山2丁目192-1 | 20110113 | 個人住宅建設 | 63.12 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 3 | 桜塚古墳群 | 南桜塚1丁目34-1の一部 | 20110127 | 個人住宅建設 | 57.55 | 未確認 | 着工 | 橘田 | 盛土内 |
| 4 | 桜井谷窯跡群 | 上野西3丁目208-1の一部 | 20110210 | 個人住宅建設 | 63.78 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 5 | 新免遺跡 | 末広町2丁目2,2-3の各一部、3 | 20110317 | 個人住宅建設 | 145.26 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 6 | 新免遺跡 | 末広町2丁目2,2-3の各一部 | 20110317 | 個人住宅建設 | 94.15 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 7 | 桜塚古墳群・岡町南遺跡 | 岡町南1丁目5-7 | 20110324 | 個人住宅建設 | 83.90 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 8 | 桜塚古墳群 | 南桜塚1丁目124-10 | 20110407 | 個人住宅建設 | 84.05 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 9 | 穂積遺跡 | 服部豊町1丁目198-40 | 20110407 | 個人住宅建設 | 91.97 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 10 | 桜井谷窯跡群 | 上野西3丁目177-21 | 20110407 | 個人住宅建設 | 54.59 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 11 | 新免遺跡 | 玉井町3丁目98 | 20110421 | 個人住宅建設 | 49.00 | 有 | 再立会後、慎重工事 | 陣内 | 基礎浅 |
| 12 | 北条遺跡 | 北条町3丁目132-8 | 20110421 | 個人住宅建設 | 45.79 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 13 | 豊島北遺跡 | 曽根南町1丁目156-11 | 20110428 | 個人住宅建設 | 47.37 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 14 | 新免遺跡 | 立花町3丁目70 | 20110428 | 個人住宅建設 | 62.11 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 15 | 小曽根遺跡 | 北条町2丁目82-7 | 20110513 | 個人住宅建設 | 48.23 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 16 | 少路遺跡 | 桜の町5丁目12-4,15-1の一部 | 20110519 | 個人住宅建設 | 112.52 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 17 | 島田遺跡 | 庄内幸町1丁目81-10 | 20110526 | 個人住宅建設 | 44.33 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 18 | 本町遺跡 | 本町2丁目97-1の一部 | 20110602 | 個人住宅建設 | 79.49 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 19 | 岡町北遺跡 | 岡町北2丁目7-4 | 20110602 | 個人住宅建設 | 86.56 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 20 | 岡町北遺跡 | 岡町北2丁目7-1,7-2の各一部 | 20110602 | 個人住宅建設 | 68.97 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 21 | 曽根遺跡 | 曽根西町3丁目10-3 | 20110602 | 個人住宅建設 | 52.99 | 有 | 再立会後、慎重工事 | 陣内 | 基礎浅 |
| 22 | 庄本遺跡 | 庄本町1丁目103の一部 | 20110609 | 個人住宅建設 | 37.26 | 未確認 | 着工 | 橘田 | 盛土内 |
| 23 | 穂積遺跡 | 服部元町1丁目112-1 | 20110616 | 個人住宅建設 | 61.05 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 24 | 桜塚古墳群 | 岡町63 | 20110623 | 個人住宅建設 | 103.31 | 無 | 着工 | 清水 | |
| 25 | 蛍池北遺跡 | 蛍池北町2丁目38 | 20110728 | 個人住宅建設 | 132.81 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 26 | 蛍池西遺跡 | 蛍池西町1丁目256-19 | 20110808 | 個人住宅建設 | 53.64 | 有 | 着工 | 橘田 | 遺構薄 |
| 27 | 庄内遺跡 | 庄内西町5丁目64-44,64-46 | 20110901 | 個人住宅建設 | 66.66 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 28 | 桜塚古墳群 | 中桜塚3丁目121 | 20110915 | 個人住宅建設 | 105.63 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 29 | 桜井谷窯跡群 | 東豊中町3丁目249-3、4丁目158-2,160-8 | 20110922 | 個人住宅建設 | 194.68 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 30 | 桜塚古墳群 | 中桜塚1丁目175の一部 | 20111006 | 個人住宅建設 | 58.50 | 無 | 着工 | 清水 | |
| 31 | 桜塚古墳群・岡町北遺跡 | 岡町北1丁目79-1,79-2 | 20111013 | 個人住宅建設 | 70.80 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 32 | 桜塚古墳群 | 中桜塚1丁目175-2 | 20111020 | 個人住宅建設 | 59.96 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 33 | 原田遺跡・原田城跡(北城) | 曽根西町4丁目204 | 20111020 | 個人住宅建設 | 98.42 | 有 | 本調査 | 橘田 | 原田11・12次 |
| 34 | 桜塚古墳群・岡町北遺跡 | 岡町北2丁目3-5,3-6 | 20111027 | 個人住宅建設 | 50.68 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 35 | 蛍池西遺跡 | 蛍池西町1丁目256-20 | 20111102 | 個人住宅建設 | 53.95 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 36 | 桜塚古墳群 | 南桜塚1丁目205-7 | 20111110 | 個人住宅建設 | 50.48 | 無 | 着工 | 橘田 | |
| 37 | 原田遺跡 | 原田元町2丁目101 | 20111117 | 個人住宅建設 | 82.99 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 38 | 桜塚古墳群 | 中桜塚1丁目175-3 | 20111201 | 個人住宅建設 | 65.86 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 39 | 本町遺跡 | 本町2丁目2-1 | 20111201 | 個人住宅建設 | 141.49 | 有 | 再立会後、慎重工事 | 陣内 | 計画変更 |
| 40 | 山ノ上遺跡 | 宝山町125-1,124-4,124-5 | 20111208 | 個人住宅建設 | 66.25 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 41 | 柴原遺跡 | 刀根山2丁目317-14 | 20111208 | 個人住宅建設 | 43.85 | 無 | 着工 | 陣内 | |
| 42 | 穂積遺跡 | 服部豊町2丁目77-41 | 20111222 | 個人住宅建設 | 55.48 | 無 | 着工 | 橘田 | |




第 34 図　確認調査地点位置図

## 2011－01　桜塚古墳群

**調査日**：平成 23 年（2011 年）1月6日

**調査場所**：豊中市中桜塚 1 丁目 132 の一部

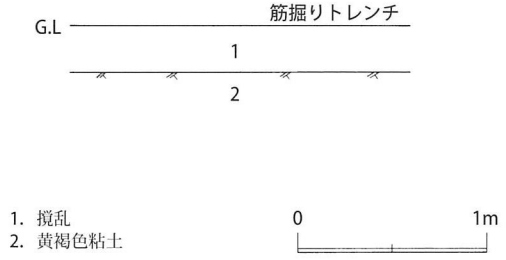
**調査対象面積**：27.45 ㎡

**調査の方法**：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 25 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

第 35 図　トレンチ掘削状況




第 36 図　トレンチ断面図

## 2011－02　柴原遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）1月 13 日

**調査場所**：豊中市刀根山 2 丁目 192 － 1

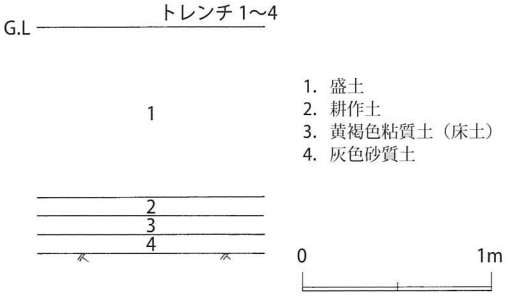
**調査対象面積**：63.12 ㎡

**調査の方法**：重機によりトレンチ 4 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 120 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

第 37 図　トレンチ掘削状況




第 38 図　トレンチ断面図

## 2011 - 03　桜塚古墳群

**調査日：**平成 23 年（2011 年）1 月 27 日

**調査場所：**豊中市南桜塚 1 丁目 34 － 1 の一部

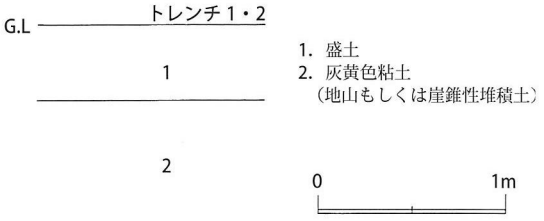
**調査対象面積：**57.55 ㎡

**調査の方法：**重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**掘削深度（地表下 40 ㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**建物基礎は盛土内に収まることから、確認調査後、着工を指示。

第 39 図　トレンチ掘削状況




第 40 図　トレンチ断面図

## 2011 - 04　桜井谷窯跡群

**調査日：**平成 23 年（2011 年）2 月 10 日

**調査場所：**豊中市上野西 3 丁目 208 － 1 の一部

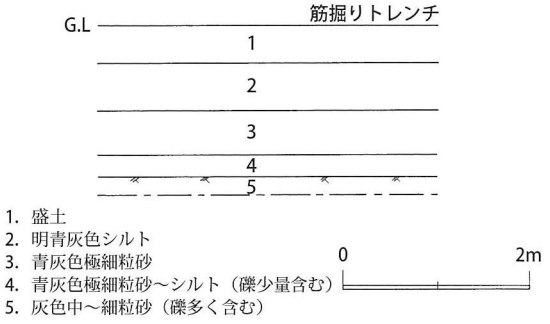
**調査対象面積：**63.78 ㎡

**調査の方法：**重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 160 ～ 170 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。

第 41 図　トレンチ掘削状況




第 42 図　トレンチ断面図

## 2011－05　新免遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）3月 17 日

**調査場所**：豊中市末広町２丁目
２，２－３の各一部、３

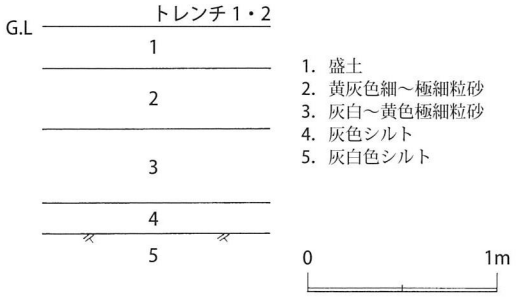
**調査対象面積**：145.26 ㎡

**調査の方法**：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 110 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

第 43 図　トレンチ掘削状況




第 44 図　トレンチ断面図

## 2011－06　新免遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）3月 17 日

**調査場所**：豊中市末広町２丁目
２，２－３の各一部

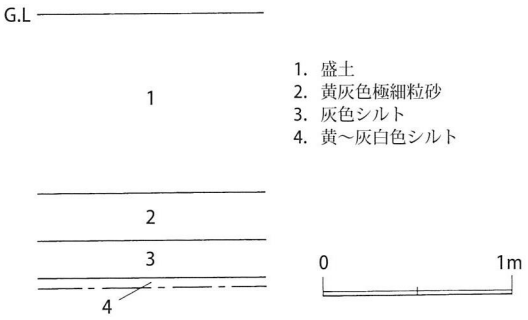
**調査対象面積**：94.15 ㎡

**調査の方法**：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 140 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

第 45 図　トレンチ掘削状況




第 46 図　トレンチ断面図

## 2011 - 07　桜塚古墳群・岡町南遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）3月 24 日

**調査場所：**豊中市岡町南 1 丁目 5 － 7

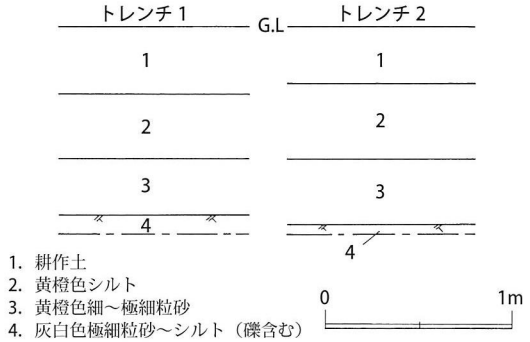
**調査対象面積：**83.90 ㎡

**調査の方法：**重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 100 ～ 105 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。

第 47 図　トレンチ掘削状況




第 48 図　トレンチ断面図

## 2011 - 08　桜塚古墳群

**調査日：**平成 23 年（2011 年）4月 7 日

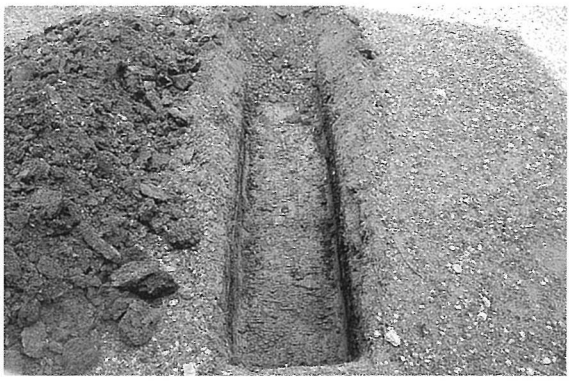
**調査場所：**豊中市南桜塚 1 丁目 124 － 10

**調査対象面積：**84.05 ㎡

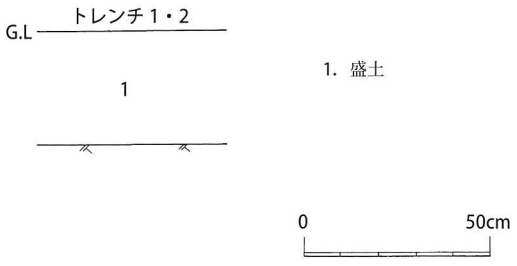
**調査の方法：**重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 30 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 49 図　トレンチ掘削状況




第 50 図　トレンチ断面図

## 2011－09　穂積遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）４月７日

**調査場所**：豊中市服部豊町１丁目 198 － 40

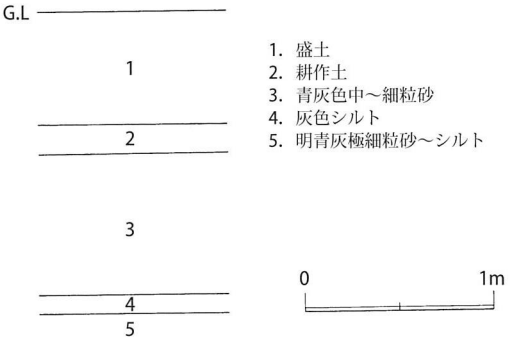
**調査対象面積**：91.97 ㎡

**調査の方法**：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：掘削深度（地表下 160 ㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

第 51 図　トレンチ掘削状況




第 52 図　トレンチ断面図

## 2011－10　桜井谷窯跡群

**調査日**：平成 23 年（2011 年）４月７日

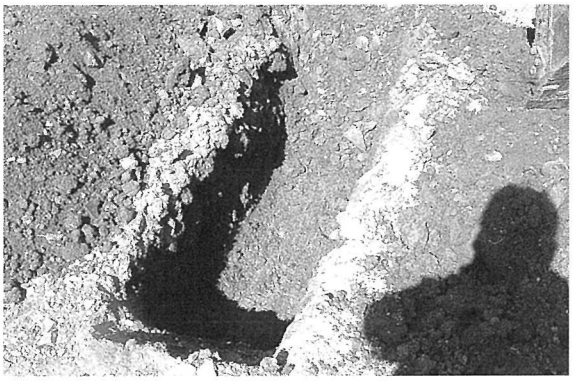
**調査場所**：豊中市上野西３丁目 177 － 21

**調査対象面積**：54.59 ㎡

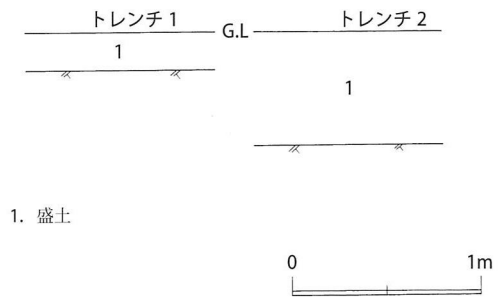
**調査の方法**：重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 20・60 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 53 図　トレンチ掘削状況




第 54 図　トレンチ断面図

## 2011 - 11　新免遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）4 月 21 日

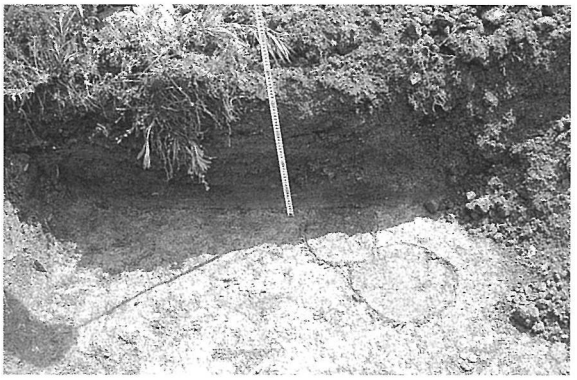
**調査場所：**豊中市玉井町 3 丁目 98

**調査対象面積：**49.00 ㎡

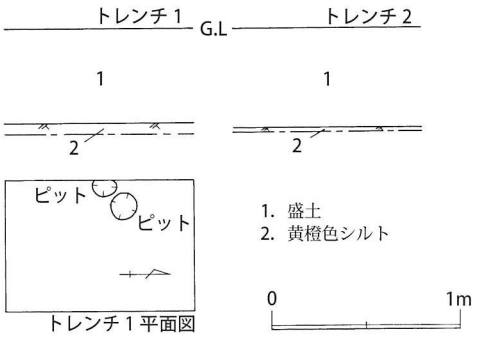
**調査の方法：**重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**トレンチ 1 の地表下 50 ㎝において明確な遺構（ピット）を検出した。

**調査後の処置：**建物基礎は遺構検出面に達しないため、 再立会後、慎重工事を指示。



第 55 図　トレンチ掘削状況




第 56 図　トレンチ平面・断面図

## 2011 - 12　北条遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）4 月 21 日

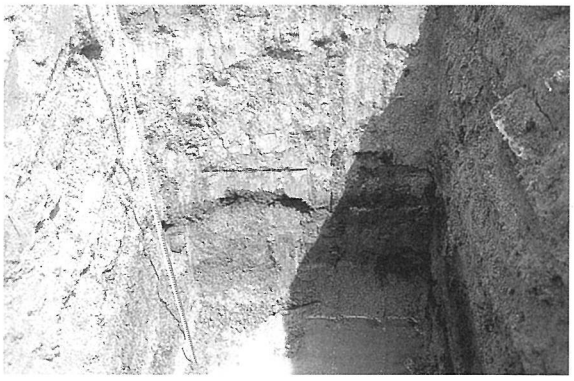
**調査場所：**豊中市北条町 3 丁目 132 － 8

**調査対象面積：**45.79 ㎡

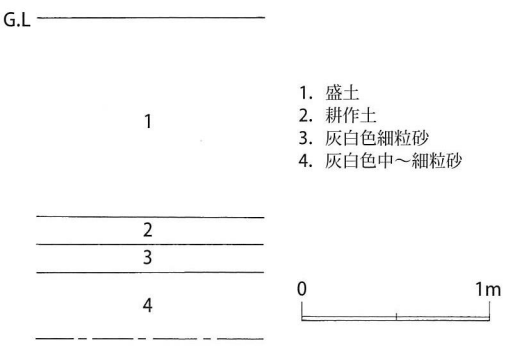
**調査の方法：**重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**掘削深度（地表下 170 ㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 57 図　トレンチ掘削状況




第 58 図　トレンチ断面図

## 2011－13　豊島北遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）4 月 28 日

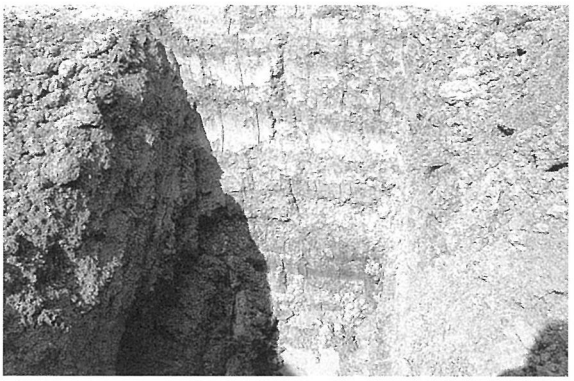
**調査場所：**豊中市曽根南町 1 丁目 156 － 11

**調査対象面積：**47.37 ㎡

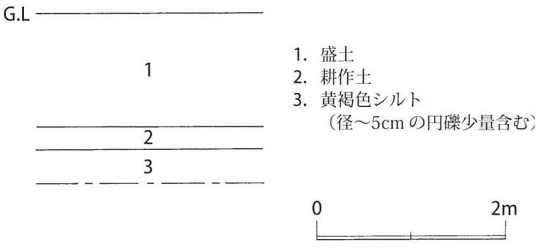
**調査の方法：**重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**掘削深度（地表下 180 ㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 59 図　トレンチ掘削状況




第 60 図　トレンチ断面図

## 2011－14　新免遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）4 月 28 日

**調査場所：**豊中市立花町 3 丁目 70

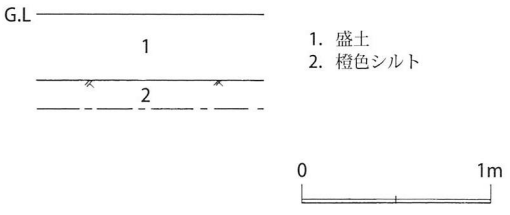
**調査対象面積：**62.11 ㎡

**調査の方法：**重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 35 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。

第 61 図　トレンチ掘削状況




第 62 図　トレンチ断面図

## 2011 - 15　小曽根遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）5 月 13 日

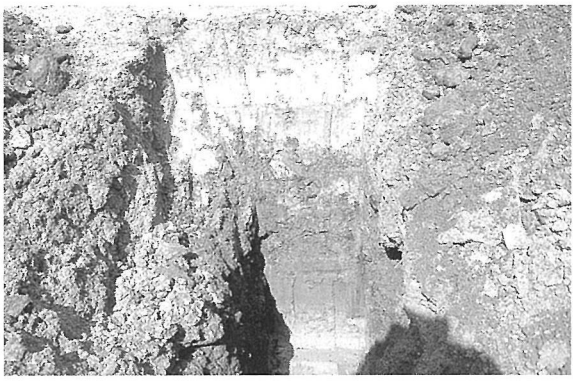
**調査場所：**豊中市北条町 2 丁目 82 － 7

**調査対象面積：**48.23 ㎡

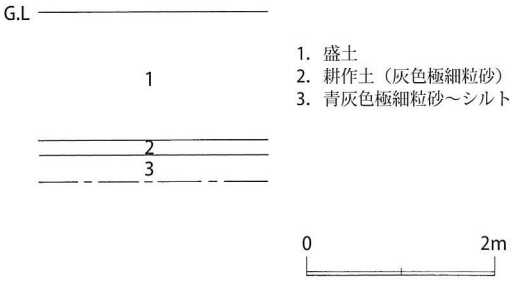
**調査の方法：**重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**掘削深度（地表下 180 ㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 63 図　トレンチ掘削状況




第 64 図　トレンチ断面図

## 2011 - 16　少路遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）5 月 19 日

**調査場所：**豊中市桜の町 5 丁目
12 － 4,15 － 1 の一部

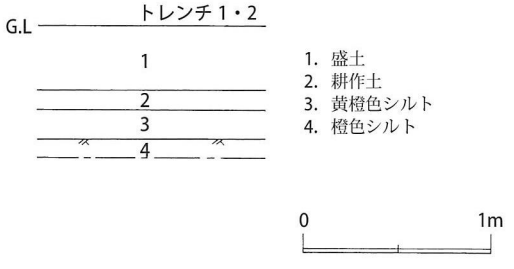
**調査対象面積：**112.52 ㎡

**調査の方法：**重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 60 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。

第 65 図　トレンチ掘削状況




第 66 図　トレンチ断面図

## 2011－17　島田遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）5月 26 日

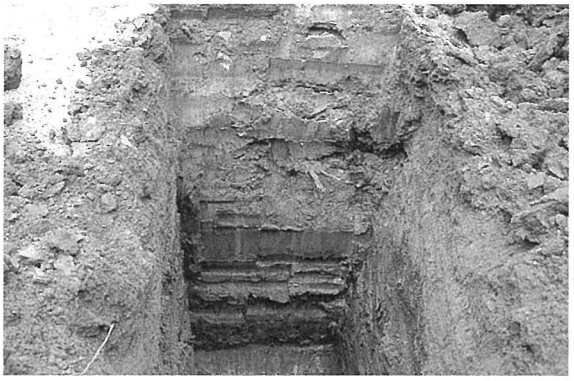
**調査場所**：豊中市庄内幸町 1 丁目 81 － 10

**調査対象面積**：44.33 ㎡

**調査の方法**：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：掘削深度（地表下 180 ㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 67 図　トレンチ掘削状況

第 68 図　トレンチ断面図

## 2011－18　本町遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）6月 2 日

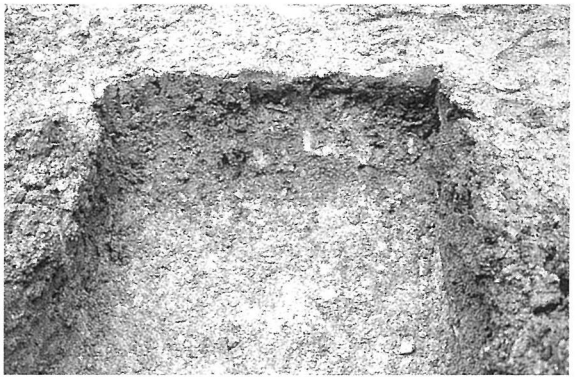
**調査場所**：豊中市本町 2 丁目 97 － 1 の一部

**調査対象面積**：79.49 ㎡

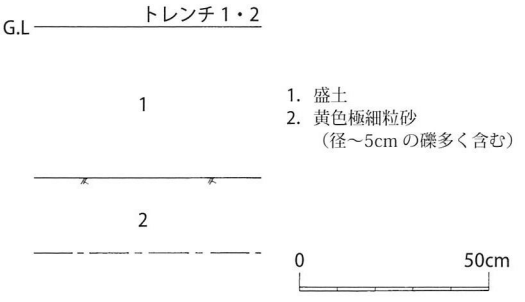
**調査の方法**：重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 40 ～ 45 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 69 図　トレンチ掘削状況




第 70 図　トレンチ断面図

## 2011 - 19　岡町北遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）６月２日

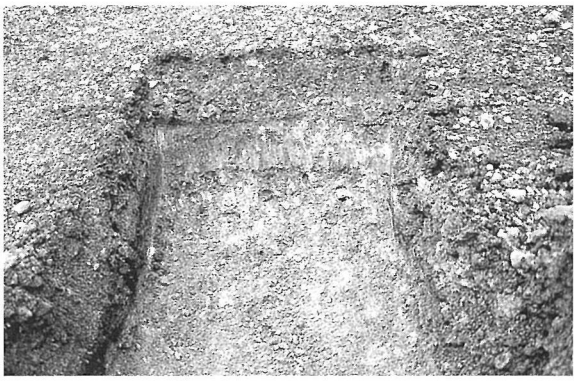
**調査場所：**豊中市岡町北２丁目７－４

**調査対象面積：**86.56 ㎡

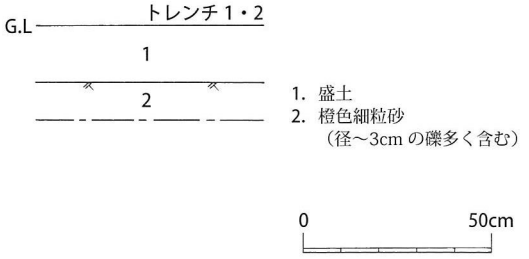
**調査の方法：**重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 15 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 71 図　トレンチ掘削状況




第 72 図　トレンチ断面図

## 2011 - 20　岡町北遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）６月２日

**調査場所：**豊中市岡町北２丁目
７－１，７－２の各一部

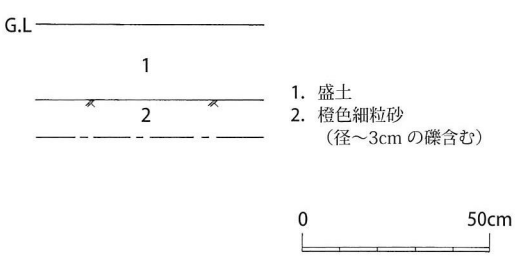
**調査対象面積：**68.97 ㎡

**調査の方法：**重機によりトレンチ２か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 20 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。

第 73 図　トレンチ掘削状況




第 74 図　トレンチ断面図

## 2011－21　曽根遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）６月２日

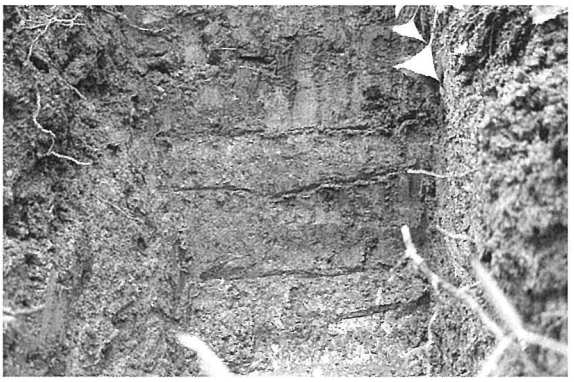
**調査場所**：豊中市曽根西町３丁目 10 －３

**調査対象面積**：52.99 ㎡

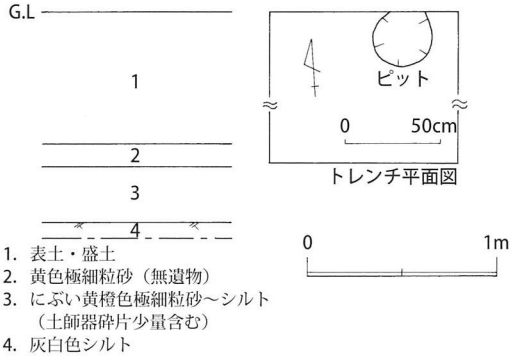
**調査の方法**：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 112 ㎝において基盤層を検出し、その上面で明確な遺構及び遺物を確認した。

**調査後の処置**：建物基礎は遺構検出面に達しないことから、再立会後、慎重工事を指示。



第 75 図　トレンチ掘削状況




第 76 図　トレンチ平面・断面図

## 2011－22　庄本遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）６月９日

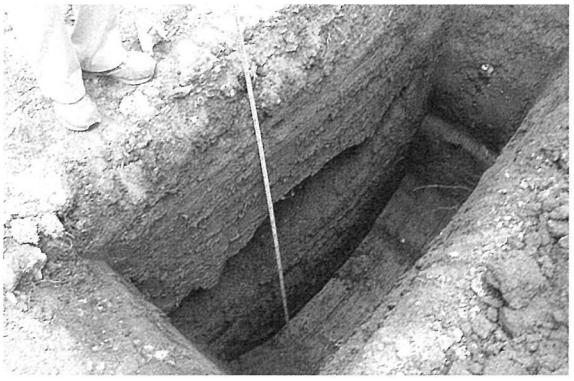
**調査場所**：豊中市庄本１丁目 103 の一部

**調査対象面積**：37.26 ㎡

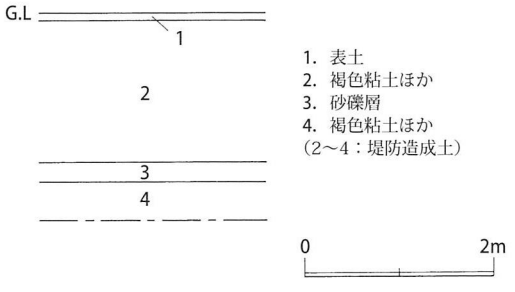
**調査の方法**：重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 220 ㎝まで堤防構築に伴う盛土であることが確認された。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 77 図　トレンチ掘削状況




第 78 図　トレンチ断面図

## 2011 - 23　穂積遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）6 月 16 日

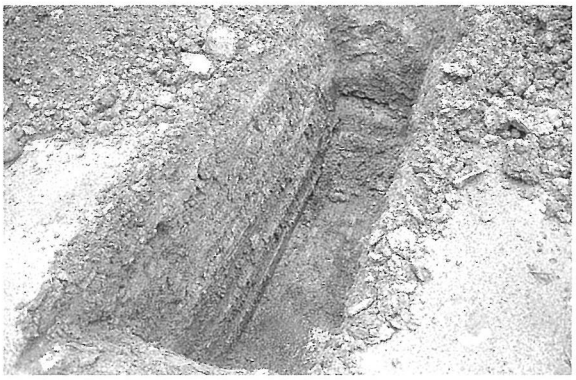
**調査場所**：豊中市服部元町 1 丁目 112 － 1

**調査対象面積**：61.05 ㎡

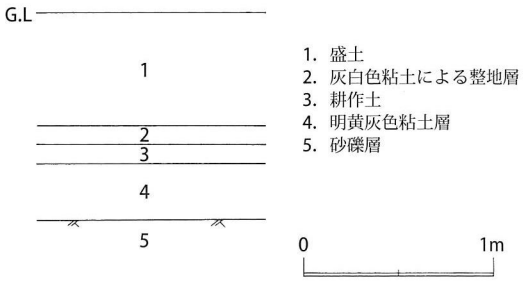
**調査の方法**：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 110 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 79 図　トレンチ掘削状況




第 80 図　トレンチ断面図

## 2011 - 24　桜塚古墳群

**調査日**：平成 23 年（2011 年）6 月 23 日

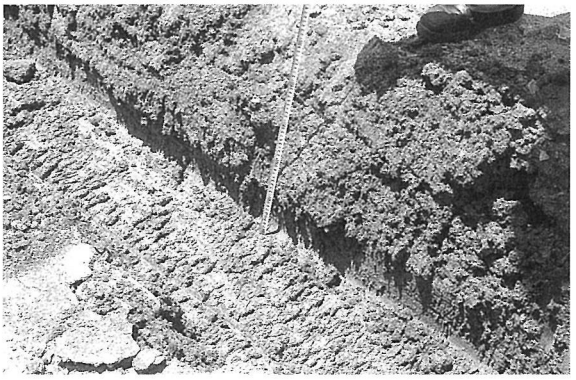
**調査場所**：豊中市岡町 63

**調査対象面積**：103.31 ㎡

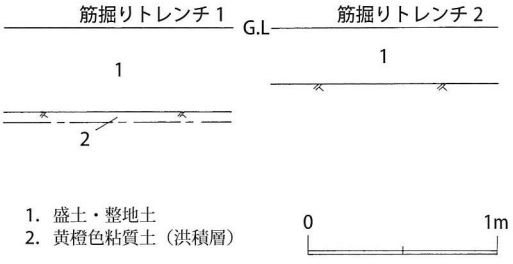
**調査の方法**：重機により筋掘りトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 45・30 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 81 図　トレンチ掘削状況




第 82 図　トレンチ断面図

## 2011－25　蛍池北遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）7 月 28 日

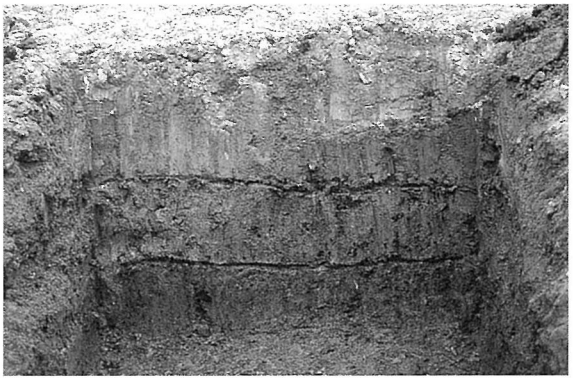
**調査場所**：豊中市蛍池北町 2 丁目 38

**調査対象面積**：132.81 ㎡

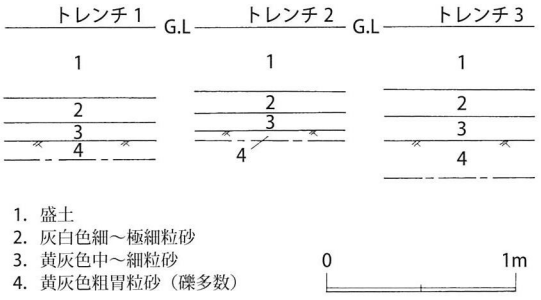
**調査の方法**：重機によりトレンチ 3 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 55 ～ 60 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 83 図　トレンチ掘削状況




第 84 図　トレンチ断面図

## 2011－26　蛍池西遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）8 月 8 日

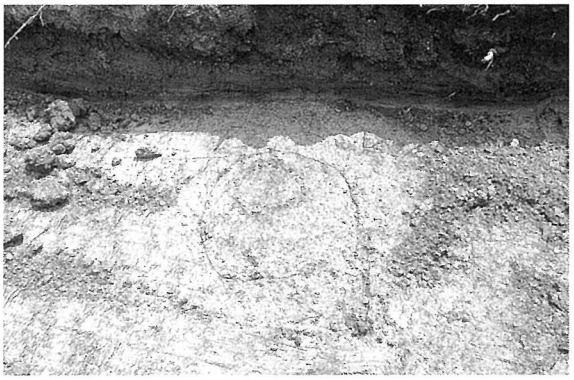
**調査場所**：豊中市蛍池西町 1 丁目 256 － 19

**調査対象面積**：53.64 ㎡

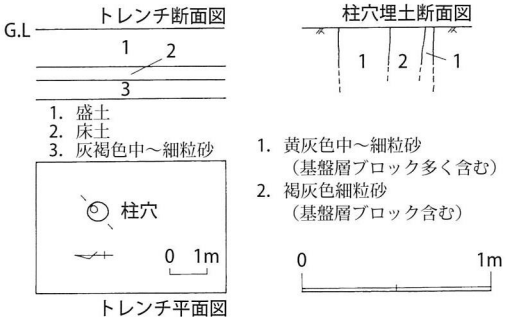
**調査の方法**：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：深基礎対象範囲において全面掘削を行った結果、柱穴 1 基のみを検出した。その他に遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：柱穴 1 基を記録保存した後、着工を指示。



第 85 図　トレンチ掘削状況




第 86 図　トレンチ平面・断面図

## 2011 - 27　庄内遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）９月１日

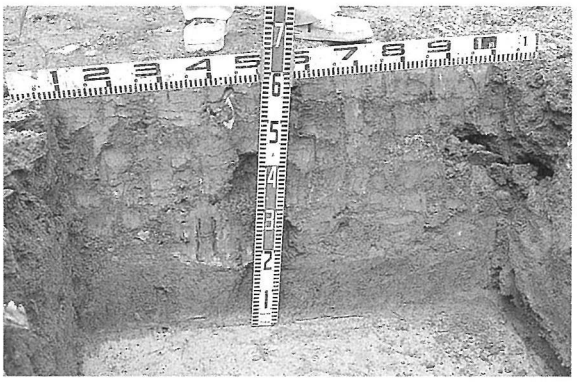
**調査場所：**豊中市庄内西町５丁目
64 － 44,64 － 46

**調査対象面積：**66.66 ㎡

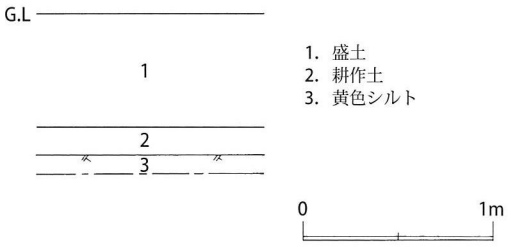
**調査の方法：**重機によりトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 75 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 87 図　トレンチ掘削状況




第 88 図　トレンチ断面図

## 2011 - 28　桜塚古墳群

**調査日：**平成 23 年（2011 年）９月 15 日

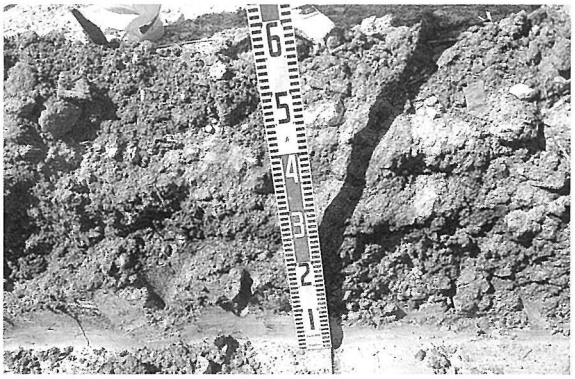
**調査場所：**豊中市中桜塚３丁目 121

**調査対象面積：**105.63 ㎡

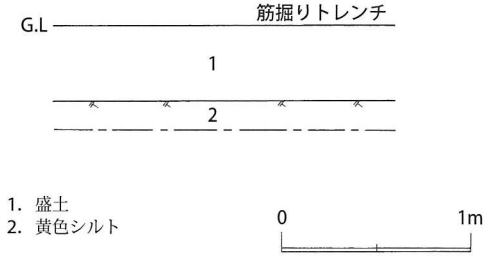
**調査の方法：**重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 40 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 89 図　トレンチ掘削状況




第 90 図　トレンチ断面図

## 2011－29　桜井谷窯跡群

**調査日**：平成 23 年（2011 年）9 月 22 日

**調査場所**：豊中市東豊中町 3 丁目 249 －3、
4 丁目 158 －2,160 －8

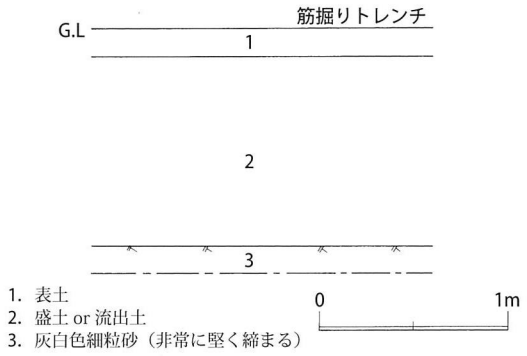
**調査対象面積**：194.68 ㎡

**調査の方法**：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 230 ㎝において基盤層を検出したが、窯跡関連の遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

第 91 図　トレンチ掘削状況




第 92 図　トレンチ断面図

## 2011－30　桜塚古墳群

**調査日**：平成 23 年（2011 年）10 月 6 日

**調査場所**：豊中市中桜塚 1 丁目 175 の一部

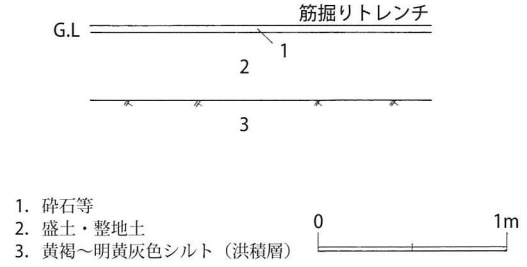
**調査対象面積**：58.50 ㎡

**調査の方法**：重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 40 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

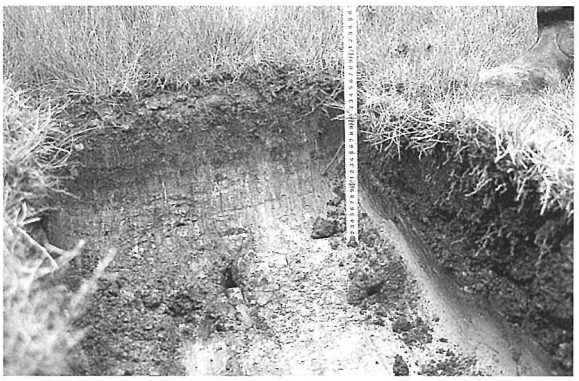
第 93 図　トレンチ掘削状況



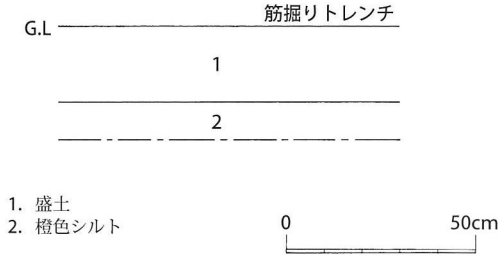

第 94 図　トレンチ断面図

## 2011 - 31　桜塚古墳群・岡町北遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）10 月 13 日
**調査場所：**豊中市岡町北 1 丁目 79 － 1,79 － 2
**調査対象面積：**70.80 ㎡
**調査の方法：**重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。
**調査の概要：**地表下 20 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。
**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 95 図　トレンチ掘削状況

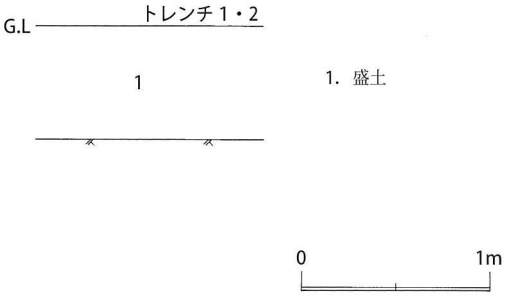



第 96 図　トレンチ断面図

## 2011 - 32　桜塚古墳群

**調査日：**平成 23 年（2011 年）10 月 20 日
**調査場所：**豊中市中桜塚 1 丁目 175 － 2
**調査対象面積：**59.96 ㎡
**調査の方法：**重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。
**調査の概要：**地表下 60 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。
**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。

第 97 図　トレンチ掘削状況




第 98 図　トレンチ断面図

## 2011－33　原田遺跡・原田城跡（北城）

**調査日：**平成 23 年（2011 年）10 月 20 日

**調査場所：**豊中市曽根西町 4 丁目 204

**調査対象面積：**98.42 ㎡

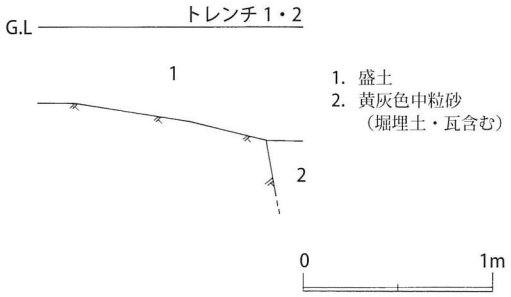
**調査の方法：**重機によりトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 40 ～ 60 ㎝において原田城跡（北城）の堀跡とみられる落ち込みを検出した。

**調査後の処置：**協議後、本発掘調査を行う。

（原田遺跡第 11・12 次調査）

第 99 図　トレンチ掘削状況




第 100 図　トレンチ断面図

## 2011－34　桜塚古墳群・岡町北遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）10 月 27 日

**調査場所：**豊中市岡町北 2 丁目 3－5，3－6

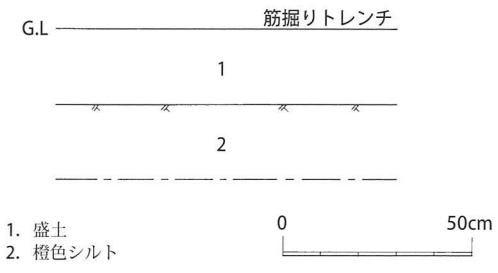
**調査対象面積：**50.68 ㎡

**調査の方法：**重機により筋掘りトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 20 ㎝において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。

第 101 図　トレンチ掘削状況




第 102 図　トレンチ断面図

## 2011 - 35　蛍池西遺跡

**調査日：**平成 23 年（2011 年）11 月 2 日

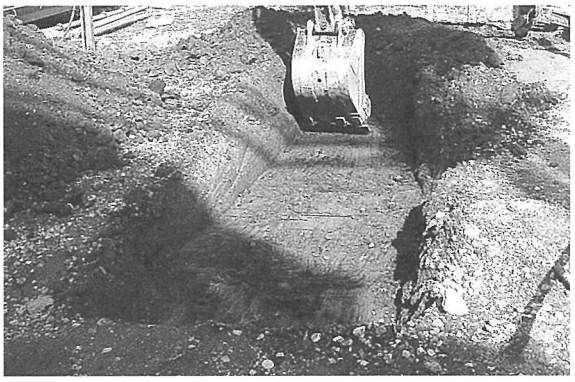
**調査場所：**豊中市蛍池西町 1 丁目 256 － 20

**調査対象面積：**53.95 ㎡

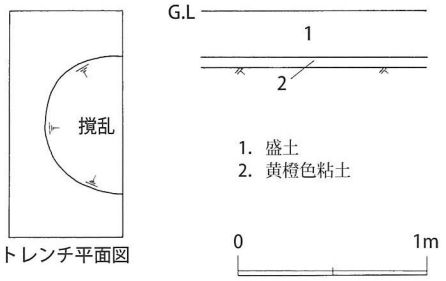
**調査の方法：**重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 30 ㎝において基盤層を検出したが、大部分が攪乱で破壊されていた。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。



第 103 図　トレンチ掘削状況




第 104 図　トレンチ平面・断面図

## 2011 - 36　桜塚古墳群

**調査日：**平成 23 年（2011 年）11 月 10 日

**調査場所：**豊中市南桜塚 1 丁目 205 － 7

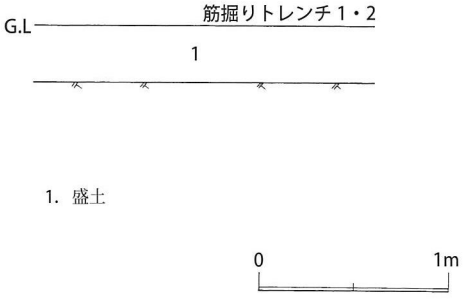
**調査対象面積：**50.48 ㎡

**調査の方法：**重機により筋掘りトレンチ 2 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要：**地表下 30 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置：**確認調査後、着工を指示。

第 105 図　トレンチ掘削状況




第 106 図　トレンチ断面図

## 2011－37　原田遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）11 月 17 日

**調査場所**：豊中市原田元町２丁目 101

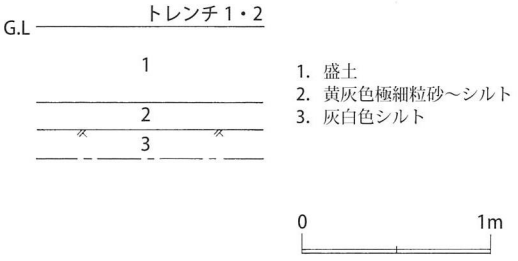
**調査対象面積**：82.99 ㎡

**調査の方法**：重機によりトレンチ２か所を掘削しトレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 55 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

第 107 図　トレンチ掘削状況




第 108 図　トレンチ断面図

## 2011－38　桜塚古墳群

**調査日**：平成 23 年（2011 年）12 月１日

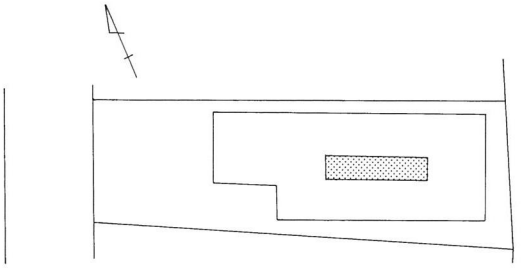
**調査場所**：豊中市中桜塚１丁目 175 －３

**調査対象面積**：65.86 ㎡

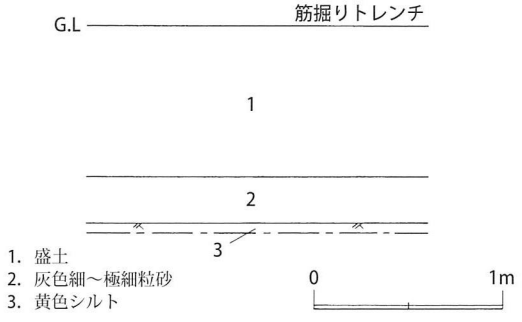
**調査の方法**：重機により筋掘りトレンチ１か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 105 ㎝において基盤層を検出したが、古墳に関連する遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 109 図　トレンチ配置図




第 110 図　トレンチ断面図

## 2011 - 39　本町遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）12 月 1 日

**調査場所**：豊中市本町 2 丁目 2 － 1

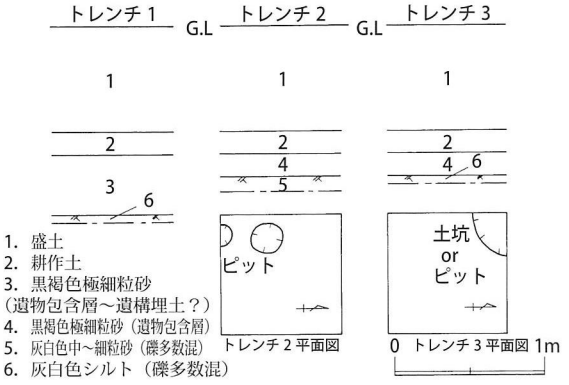
**調査対象面積**：141.49 ㎡

**調査の方法**：重機によりトレンチ 3 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：トレンチ 2 ・ 3 で地表下 85 ㎝において遺物包含層を、同 100 ㎝において遺構面並びに明確な遺構を確認した。

**調査後の処置**：建物の計画変更により、再立会後、慎重工事を指示。

第 111 図　トレンチ掘削状況




第 112 図　トレンチ平面・断面図

## 2011 - 40　山ノ上遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）12 月 8 日

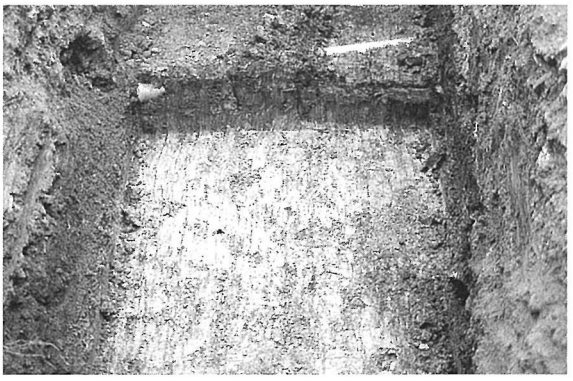
**調査場所**：豊中市宝山町 125 － 1 ,
124 － 4 ,124 － 5

**調査対象面積**：66.25 ㎡

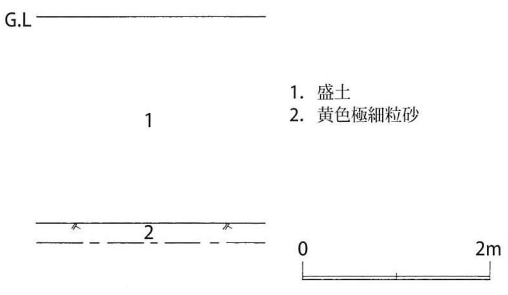
**調査の方法**：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：地表下 110 ㎝において基盤層を検出したが、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 113 図　トレンチ掘削状況




第 114 図　トレンチ断面図

## 2011－41　柴原遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）12 月 8 日

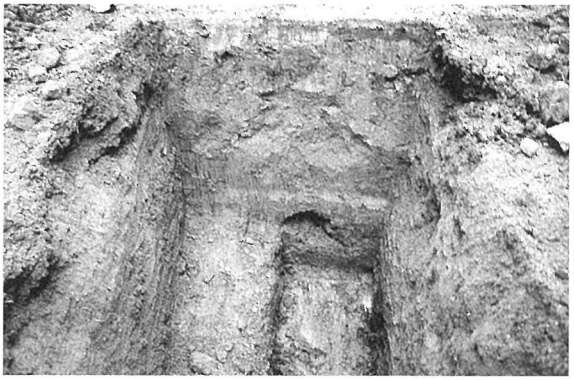
**調査場所**：豊中市刀根山 2 丁目 317 － 14

**調査対象面積**：43.85 ㎡

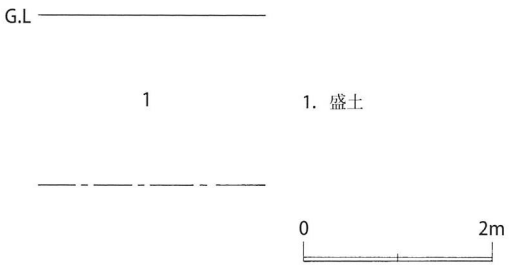
**調査の方法**：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：掘削深度（地表下 180 ㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。



第 115 図　トレンチ掘削状況




第 116 図　トレンチ断面図

## 2011－42　穂積遺跡

**調査日**：平成 23 年（2011 年）12 月 22 日

**調査場所**：豊中市服部豊町 2 丁目 77 － 41

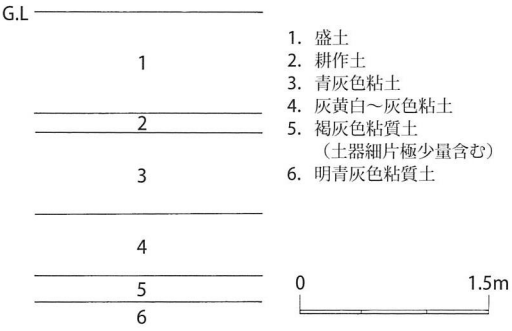
**調査対象面積**：55.48 ㎡

**調査の方法**：重機によりトレンチ 1 か所を掘削し、トレンチ内を精査した。

**調査の概要**：掘削深度（地表下 230 ㎝）内において、遺構・遺物等は確認されなかった。

**調査後の処置**：確認調査後、着工を指示。

第 117 図　トレンチ掘削状況




第 118 図　トレンチ断面図

# 写　真　図　版

図版 1　穂積遺跡第 40 次調査

（1）４層上面検出状況（北から）

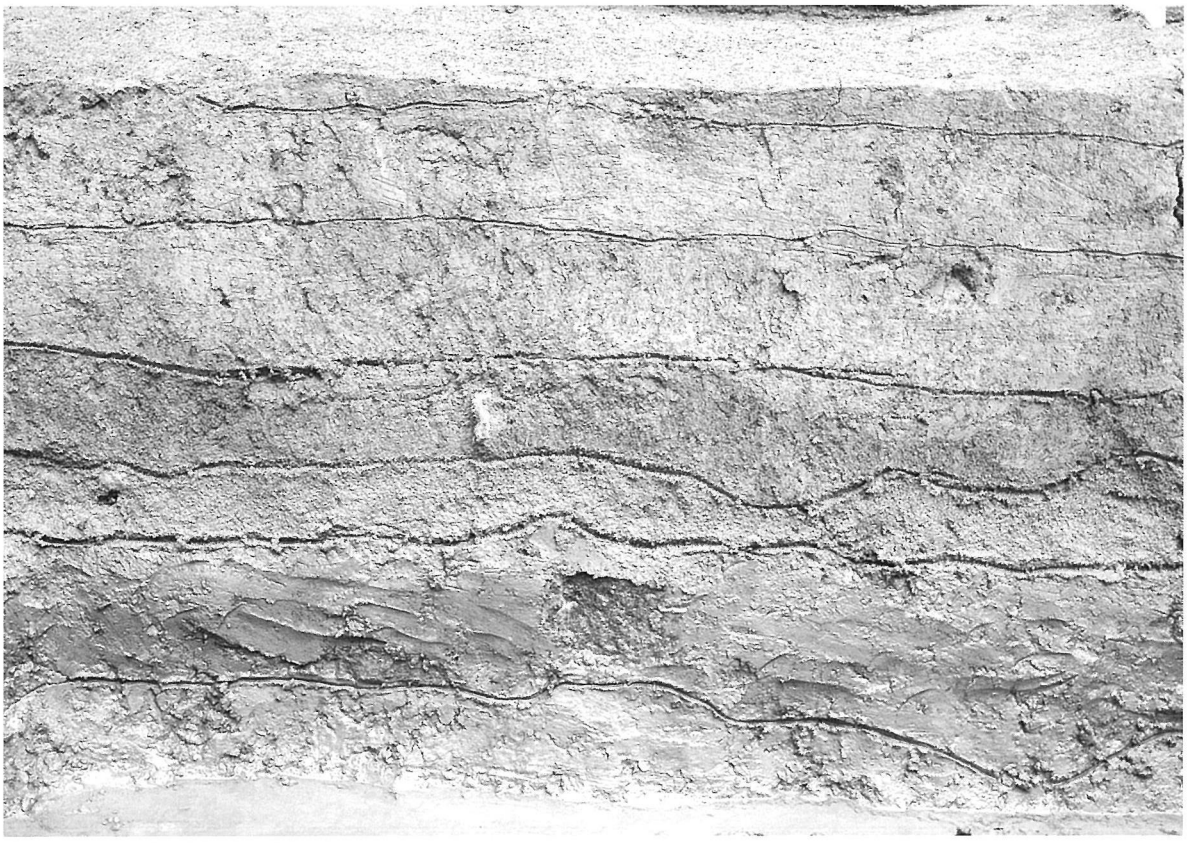
（2）４層上面完掘状況（北西から）

（1）5 層上面検出状況（北から）

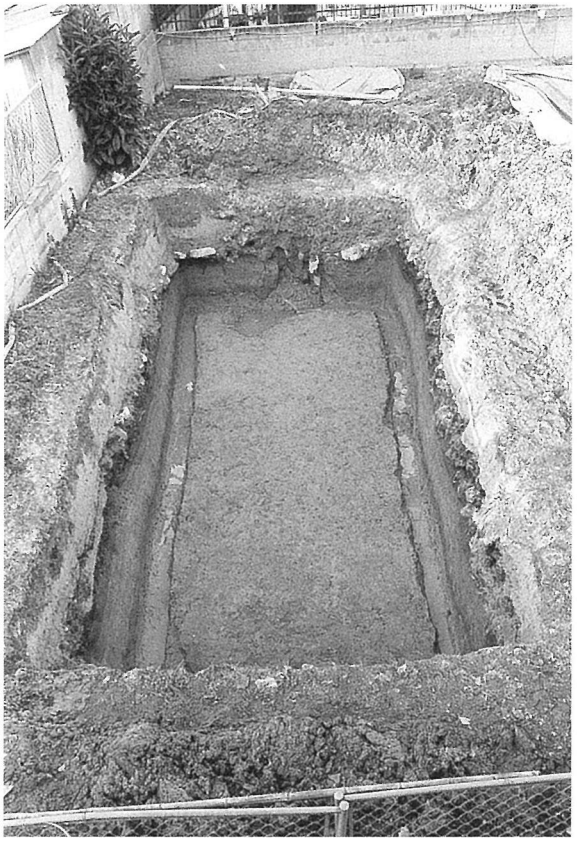
（2）6 層（基盤層）上面検出状況（南から）

図版 3　穂積遺跡第 40 次調査

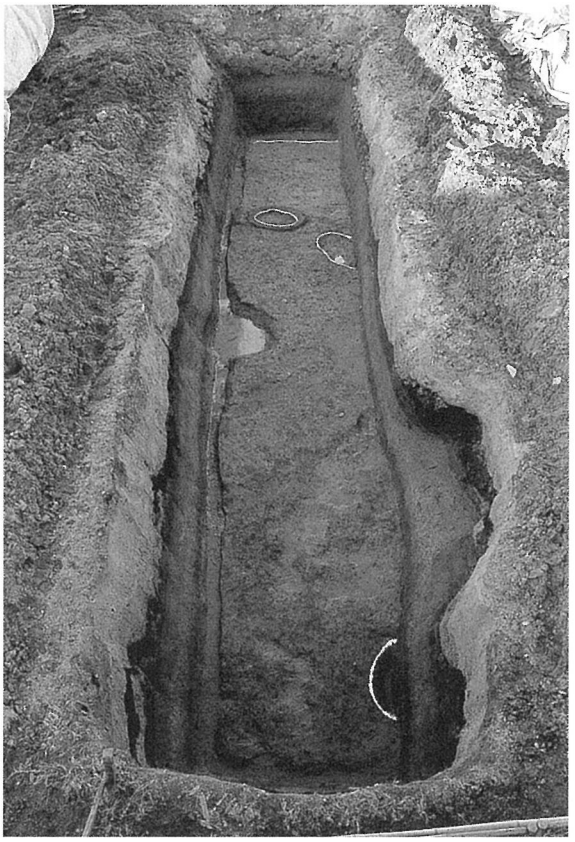
（1）基本層序（東壁面）



（2）基本層序（東壁面拡大）



（1）穂積 8 次西トレンチ全景（南から）



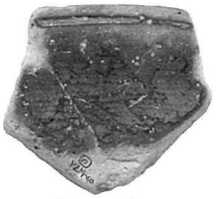
（2）穂積 8 次中央トレンチ全景（南から）

（3）穂積 8 次東トレンチ全景（南から）

（4）穂積 8 次東トレンチ（拡大）

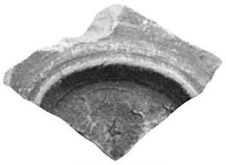
# 図版 5　穂積遺跡第 40 次調査　出土遺物

第 6 図 11

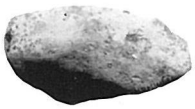

第 6 図 12

（1）瓦器椀（4 層出土）

第 6 図 13


第 6 図 15

（2）瓦器椀（4 層出土）

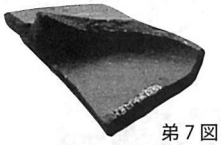

第 6 図 8

第 6 図 6

第 6 図 10

第 6 図 7

（3）土師器皿（4 層出土）　左：外面　右：内面


第 7 図 4

第 7 図 16

第 7 図 2

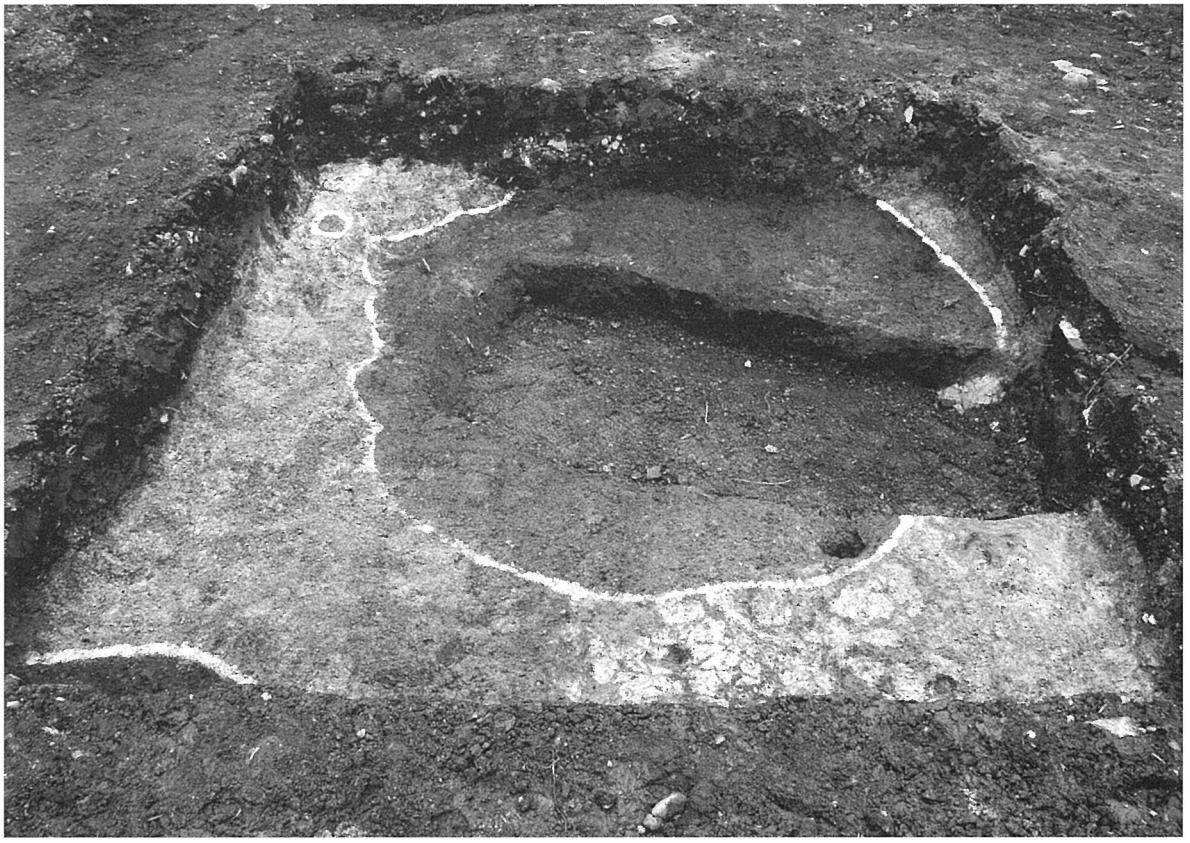
第 6 図 5

第 7 図 3

第 7 図 8

第 7 図 7

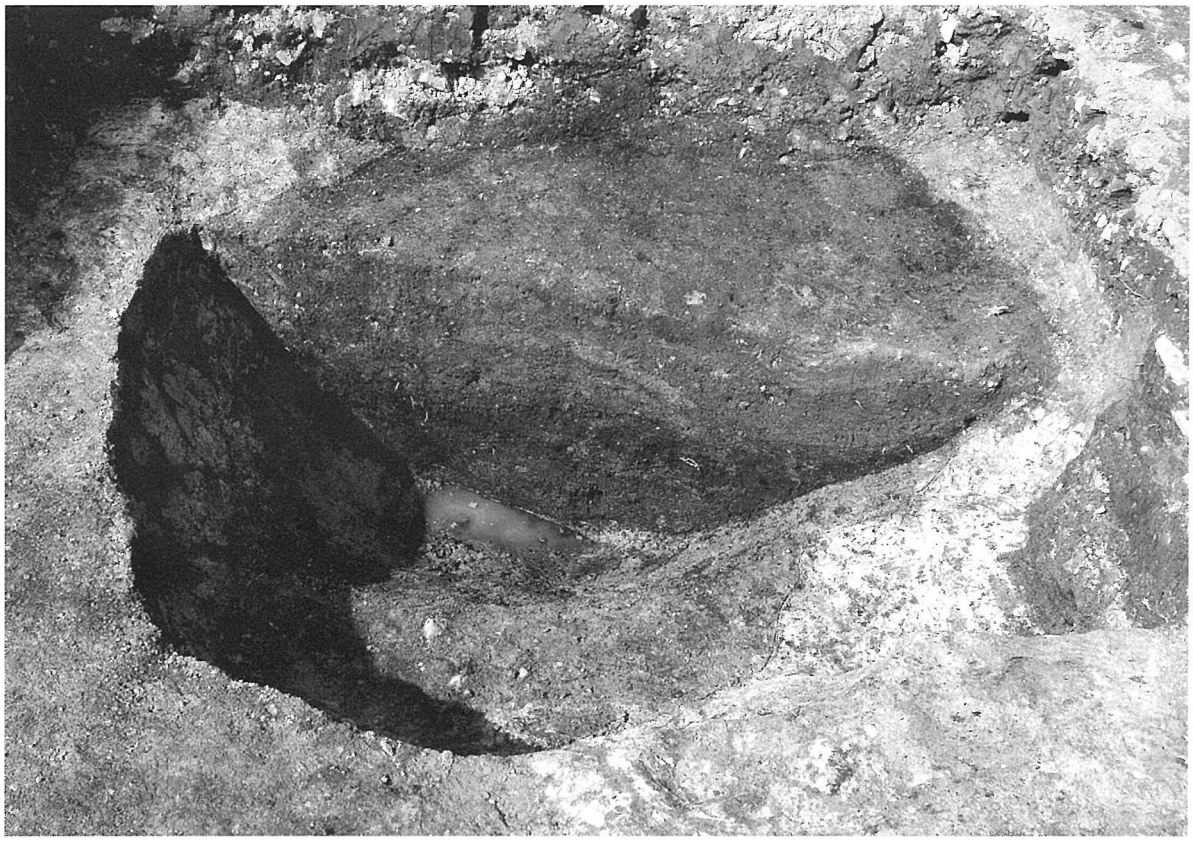
（4）その他出土遺物



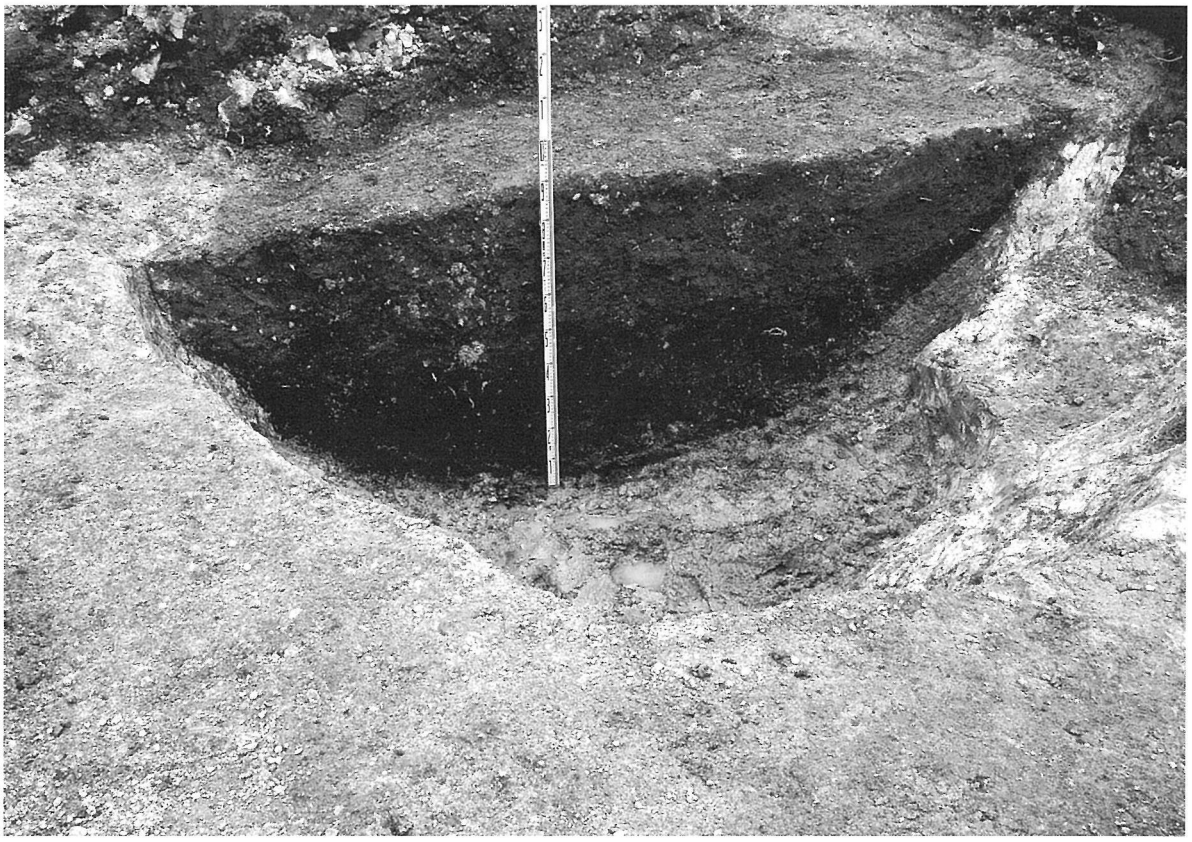
（1）第 1 トレンチ遺構検出状況（南から）

（2）第 2 トレンチ遺構検出状況（東から）

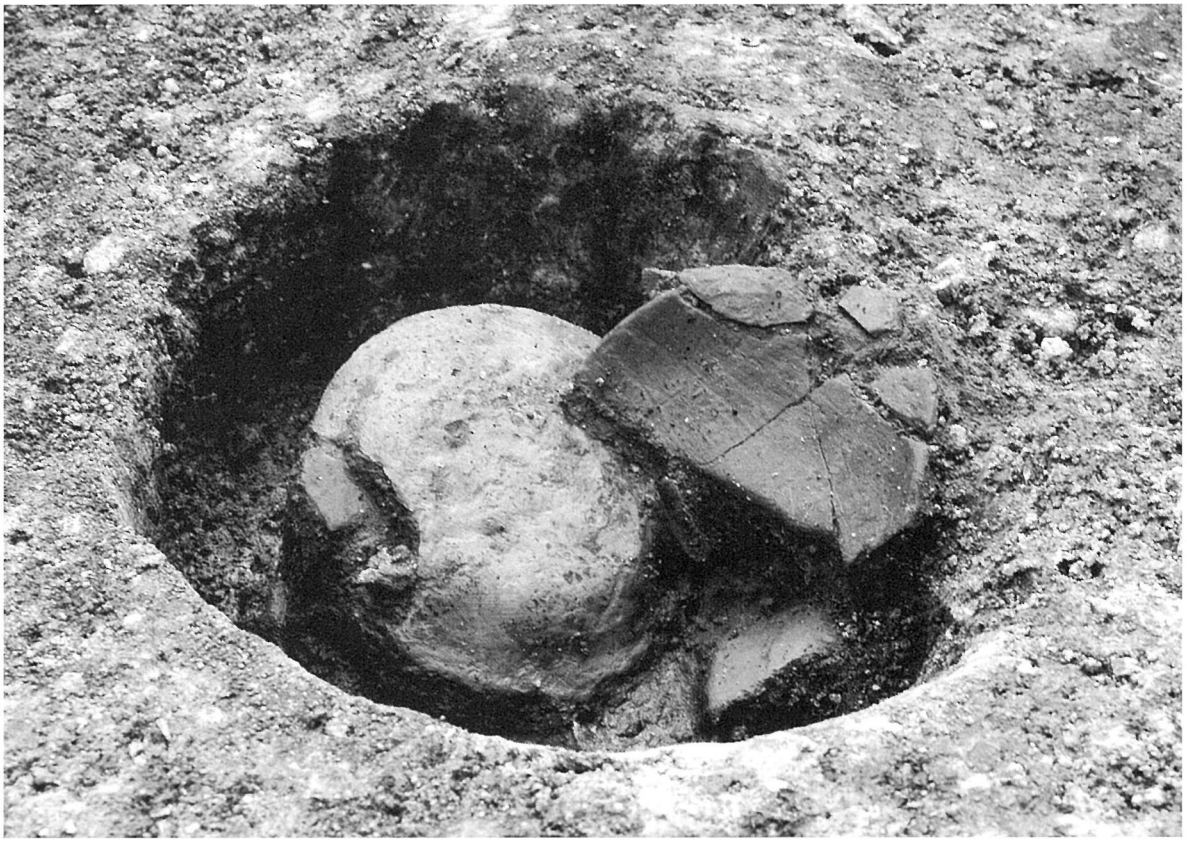
図版 7　原田遺跡第 10 次調査



（1）第 1 トレンチ　井戸断面（南から）



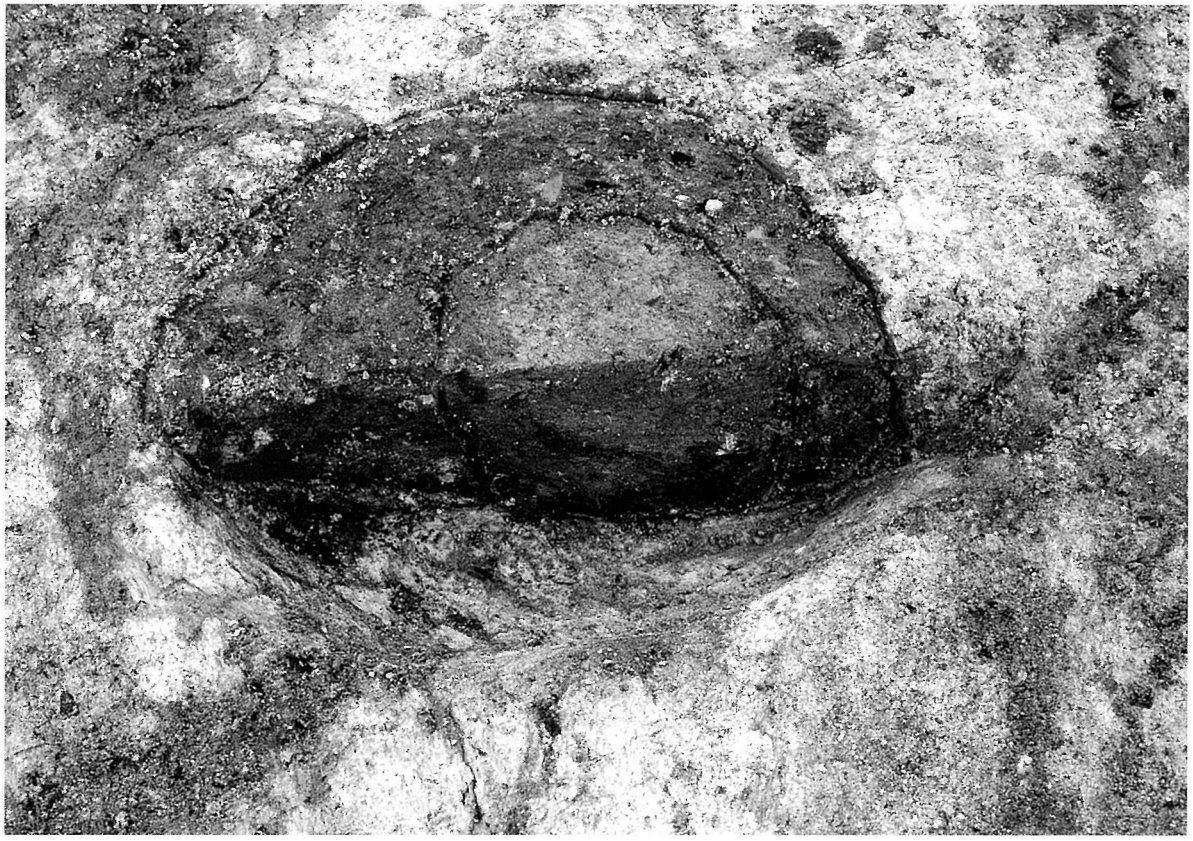
（2）第 1 トレンチ　井戸断面（箱尺付）



（1）第 2 トレンチ　ピット 1 遺物出土状況（南東から）

（2）第 2 トレンチ　ピット 2 断面（北から）

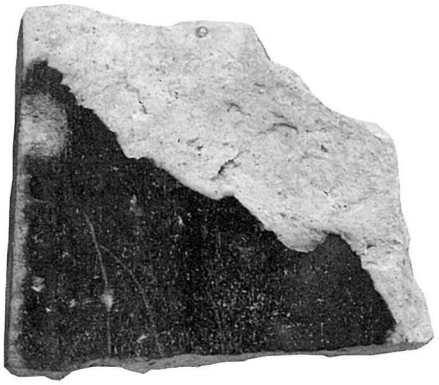
図版 9　原田遺跡第 10 次調査



（1）第 2 トレンチ　ピット 3 断面（南東から）

（2）第 1 ・ 2 トレンチ完掘状況（東から）

# 図版 10　原田遺跡第 10 次調査　出土遺物



弟 17 図 1

（1）井戸出土瓦（左：凹面　右：凸面）

弟 17 図 4

（2）土師器皿（ピット 1 出土）

弟 17 図 5

弟 17 図 3

（3）土師器皿（ピット 1 出土）

弟 17 図 8

（4）土師器皿（ピット 2 出土）

内面

弟 17 図 12

外面

（5）瓦器椀（ピット 2 出土）

図版 11　原田遺跡第 11 次・12 次調査

（1）両調査区全景（北西から）

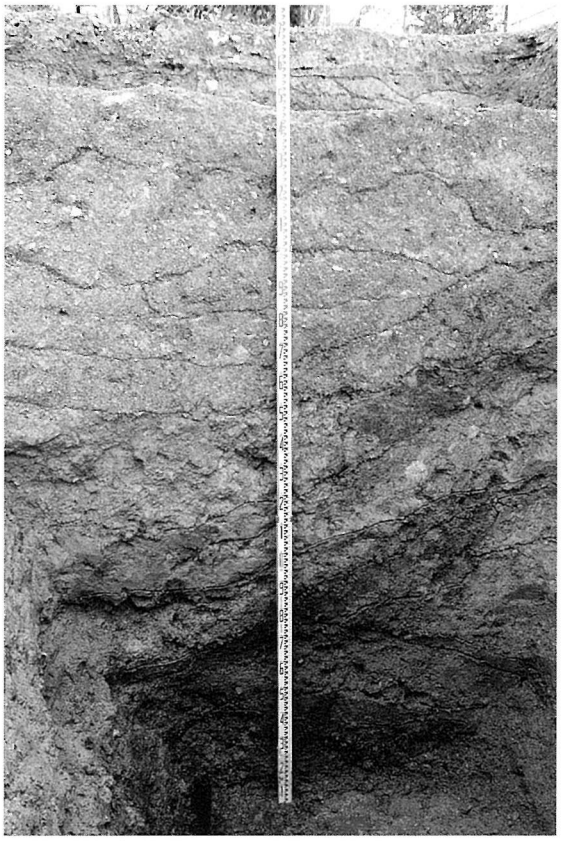
（2）第 11 次調査　全景（北東から）

（1）第 11 次調査　拡張区掘削状況（南西から）

（2）第 11 次調査　調査区掘削状況（北東から）

図版 13　原田遺跡第 11 次・12 次調査

（1）第 12 次調査　全景（北東から）



（2）第 12 次調査　西壁面断面

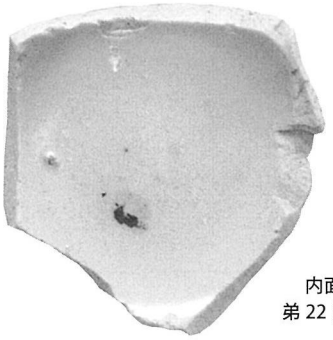
（1）第 12 次調査　杭検出状況（北から）

（2）第 12 次調査　杭部分拡大（北から）

図版 15　原田遺跡第 11 次・12 次調査　出土遺物

内面
弟 22 図 2

外面
弟 22 図 2

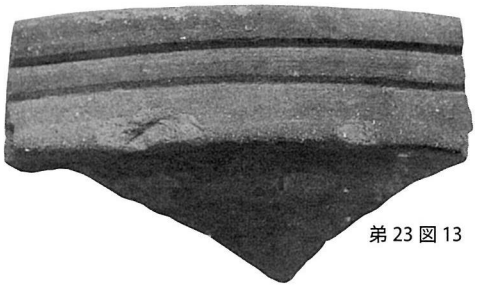


内面
弟 22 図 3

外面
弟 22 図 3

（1）第 11 次調査出土遺物（左：内面　右：外面）

弟 23 図 9



弟 23 図 13

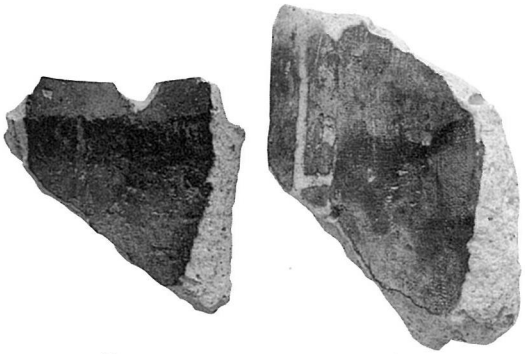
弟 23 図 10

弟 23 図 12

（2）第 12 次調査出土遺物

# 図版 16　原田遺跡第 12 次調査　出土遺物

弟 23 図 6　　弟 23 図 7



弟 23 図 6　　弟 23 図 7

（1）第 12 次調査出土瓦（左：凸面　右：凹面）

弟 23 図 1

（2）第 12 次調査出土瓦

弟 23 図 2

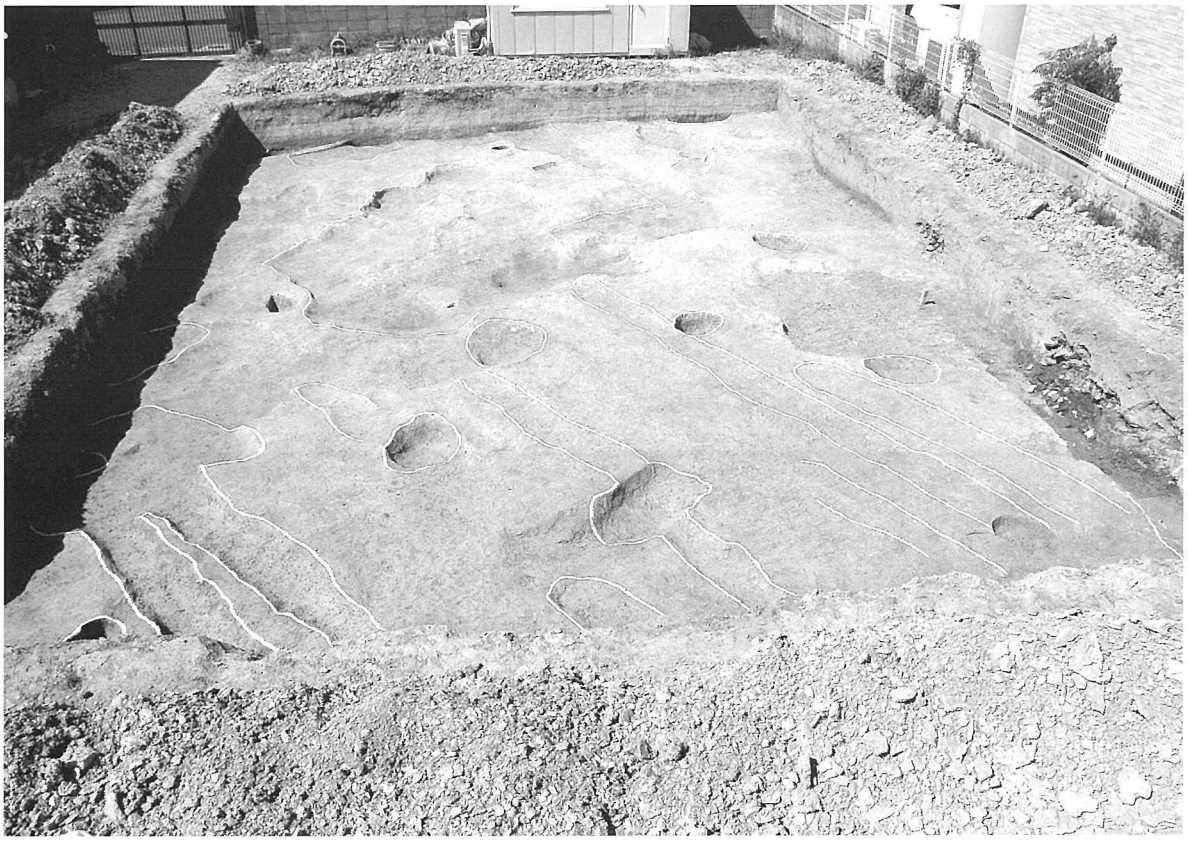
（3）第 12 次調査出土瓦

弟 23 図 8

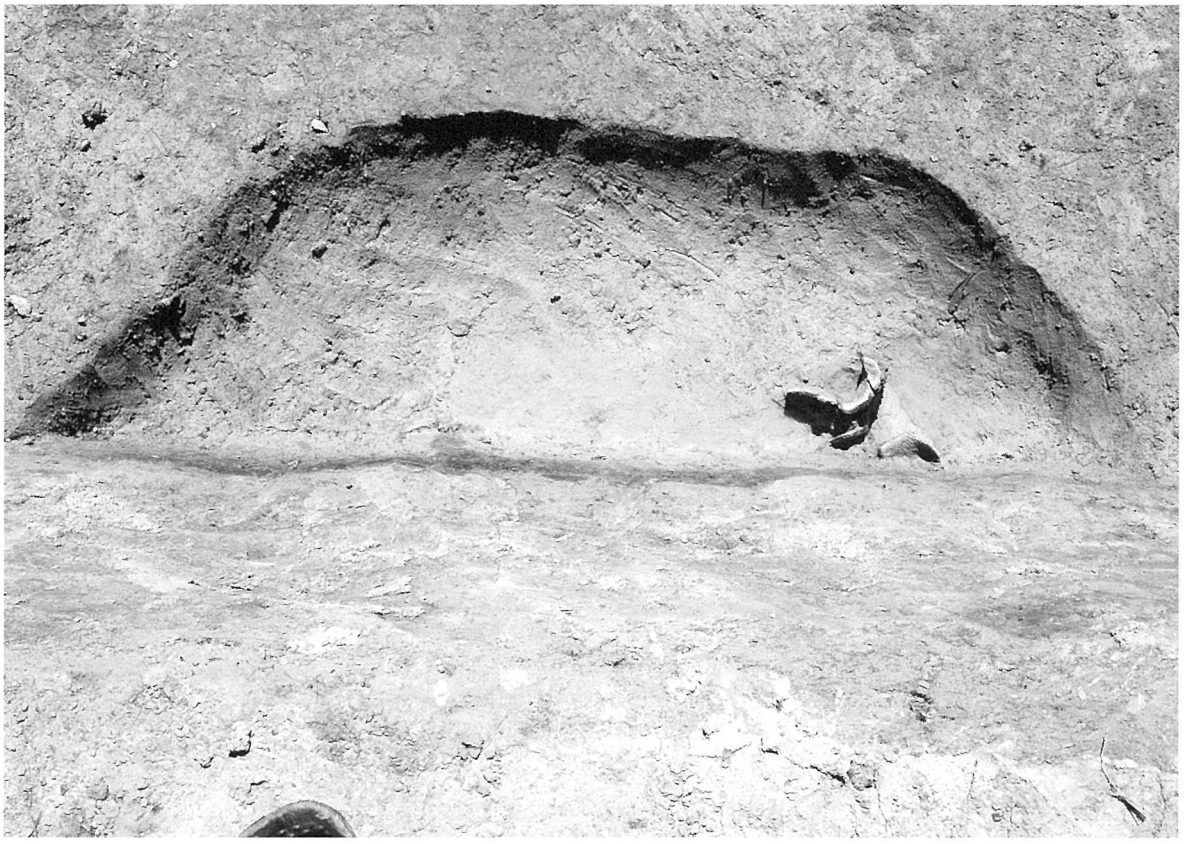
（4）第 12 次調査出土瓦

図版 17　新免遺跡第 64 次調査

（1）遺構検出状況（南から）



（2）遺構完掘状況（南から）



（1）土坑 1 遺物出土状況（北から）

（2）土坑 4 遺物出土状況（南から）

図版 19　新免遺跡第 64 次調査

（1）溝 1 ～溝 7 完掘状況（東から）

（2）基本層序（北壁面）

# 図版 20　新免遺跡第 64 次調査　出土遺物

弟 29 図

弟 30 図 1

弟 33 図 4

弟 30 図 2

弟 33 図 1

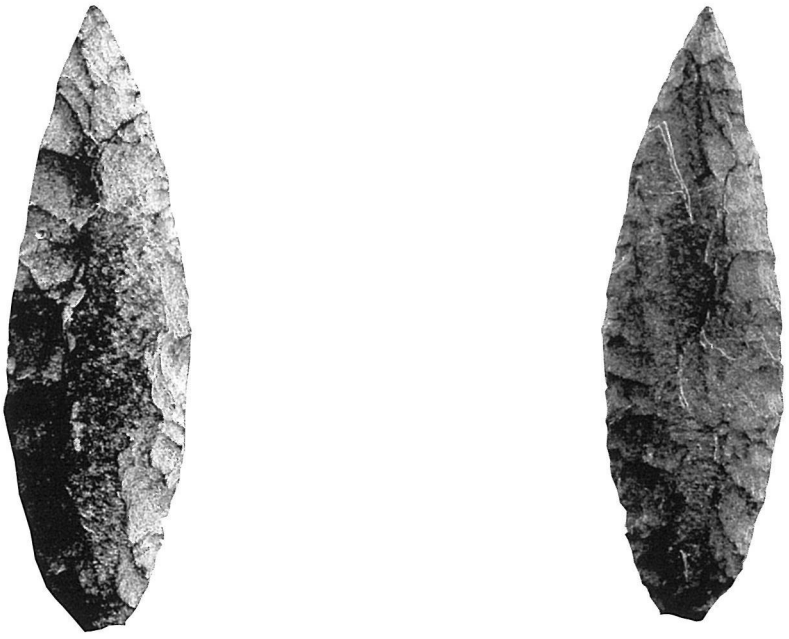
弟 33 図 3

弟 33 図 5

弟 33 図 2

（1）出土遺物 1

図版 21　新免遺跡第 64 次調査　出土遺物



（1）出土遺物 2（土坑 3 出土石鏃）

（2）出土遺物 3（基盤層上面出土石鏃）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | とよなかし　まいぞうぶんかざい　はっくつちょうさ　がいよう |
| 書名 | 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要　平成23年度（2011年度） |
| シリーズ名 | 豊中市文化財調査報告 |
| シリーズ番号 | 第65集 |
| 編著者 | 陣内高志・浅田尚子 |
| 編集機関 | 豊中市教育委員会（市町村コード27208） |
| 所在地 | 〒561－8501　大阪府豊中市中桜塚3丁目1－1　TEL06－6858－2581 |
| 発行年月日 | 平成24年（2012年）3月31日 |

| 所収遺跡 | 所在地 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 穂積遺跡<br>第40次 | 服部寿町1丁目<br>702－9 | 34° 45′ 23″ | 135° 28′ 37″ | 20101222～<br>20110114 | 30㎡ | 個人住宅建築 |
| 原田遺跡<br>第10次 | 原田元町2丁目<br>190－2 | 34° 46′ 02″ | 135° 27′ 56″ | 20110316～<br>20110325 | 13㎡ | 個人住宅建築 |
| 原田遺跡<br>第11・12次 | 曽根西町4丁目<br>204－1・2 | 34° 46′ 53″ | 135° 27′ 49″ | 20111114～<br>20111209 | 11次26.73㎡<br>12次27.72㎡ | 個人住宅建築 |
| 新免遺跡<br>第64次 | 末広町3丁目<br>190－2 | 34° 46′ 13″ | 135° 27′ 55″ | 20110829～<br>20110916 | 144㎡ | 個人住宅建築 |

| 所収遺跡 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 穂積遺跡<br>第40次 | 集落跡 | 弥生～中世 | 溝 | 弥生土器<br>土師器・須恵器<br>瓦器椀 | 中世の耕作関連遺構を検出。 |
| 原田遺跡<br>第10次 | 集落跡・城跡 | 中世～近世 | 柱穴・井戸 | 土師器<br>瓦器碗 | 中近世の集落関連遺構を検出。 |
| 原田遺跡<br>第11・12次 | 集落跡・城跡 | 中世・近世 | 溝 | 瓦・磁器 | 原田城跡（北城）の外掘、<br>又は中近世の水路跡を検出。 |
| 新免遺跡<br>第64次 | 集落跡・古墳群 | 弥生・中世 | 土坑・溝 | 弥生土器<br>土師器 | 弥生後期の集落関連遺構、<br>中世の耕作関連遺構を検出。 |

豊中市文化財調査報告　第65集
豊中市埋蔵文化財発掘調査概要
平成23年度（2011年度）
発行：豊中市教育委員会
豊中市中桜塚3丁目1－1
平成24年（2012年）3月31日
印刷：株式会社きたがわぷりんと

# 豊中市埋蔵文化財発掘調査概要　平成23年度(2011年度)　正誤表

| ページ・行 | 誤 | 正 |
|---|---|---|
| p.ii　表5段目調査地 | 豊中市末広町2丁目213-3 | 豊中市末広町3丁目12-1 |
| p.iii　22行目 | 原田遺跡の概要 | 遺跡の概要 |
| p.iii　33行目 | 第Ⅳ章 | 第Ⅵ章 |
| p.v　5行目 | 1:20 | 1:10 |
| p.9　7行目 | ということ正確な規模 | ということから正確な規模 |
| p.9　第7図 | ※8は1:1 | ※8は1:1.5 |
| p.9　33行目 | 柚 | 釉 |
| p.11　14行目 | 原田遺跡の概要 | 遺跡の概要 |
| p.12　11行目 | 地表下20～30cm堆積する | 地表下20～30cmに堆積する |
| p.17　7行目 | 復元D縁部 | 復元口縁部 |
| p.20　第21図 | 2. 黄灰色(2.5Y5/3)粗～<br>以下の番号 | 1. 黄灰色(2.5Y5/3)粗～<br>以下の番号も同様にひとつずれる |
| p.21　18行目 | 灰白色粗砂 | 灰白色粗粒砂 |
| p.21　19行目 | この粗砂層以下 | この粗粒砂層以下 |
| p.25　4行目 | 190-2 | 12-1 |
| p.26　22行目 | 調査区弥生土器砕片を | 弥生土器砕片を |
| p.28　第28図 | 1:20 | 1:10 |
| p.31　7行目 | 第35図 | 第34図 |
| p.43　14行目 | 豊中市庄本1丁目 | 豊中市庄本町1丁目 |
| p.45　第84図 | 黄灰色粗胃粒砂 | 黄灰色粗粒砂 |
| 図版5・10・15・16・20 | 弟 | 第 |
| 図版5 | 第6図6 | 第7図5 |
| 図版5 | 第6図10 | 第6図7 |
| 図版5 | 第6図7 | 第6図6 |
| 図版5 | 第7図16 | 第6図16 |
| 報告書抄録　13段目 | 190-2 | 12-1 |